



UNITY IS DIVINITY

一体性は神性

STUDY GUIDE

スタディーガイド



サティヤ サイ インターナショナル オーガニゼーション



©2019年 サティヤ サイ インターナショナル オーガニゼーション

無断複写・複製・転載を禁ず

sathyasai.org



愛と敬意を込めて、
神性愛の化身である
バガヴァン シュリ サティヤ サイ ババ様の
蓮華の御足に捧げます。

前書き

「私が教えることを実践しなさい。それで充分です。

それが私が求めていることのすべてです。」

—サティヤ サイ ババ 1963年10月20日の御講話—

愛

と真理の化身であり、宇宙の師であるバガヴァン シュリ サティヤ サイ ババは、人生の最終的な至高の目的地に到達する方法——すなわち、私たちが生まれつき持っている神性と、万物の中に内在する神性を実感認識する方法——を私たちに教えます。私たちが愛しているババは、「一体性は神性です」「純粋性は悟りです」という二つの重要な金言を私たちに与えました。一体性と純粋性に到達するために、ババはさらに「すべてを愛しなさい」「すべてに奉仕しなさい」「常に助けなさい」「決して傷つけてはなりません」という四つの実用的な神の戒めを与えました。

ババは、サティヤ サイ オーガニゼーションに自身の神聖な御名を貸し与えました。サティヤ サイ オーガニゼーションの中で、私たちは兄弟姉妹として、これらの金言と戒めに従うことによって、人生の目的を平易に悟るために一致団結することができます。私たちは、誠実さと絶対的な信仰をもって、即座に絶対的に完全に神の御教えに従うことによって、存在の最高善に到達することができると、ババは述べました。

それ従って、サティヤ サイ インターナショナル オーガニゼーション(SSIO)の第十一回世界大会では「**一体性は神性であり、純粋性は悟りである**」というテーマで、バガヴァンの二つの重要な御教えに焦点を当てることにしました。靈的旅路の途上にあるサティヤ サイ 帰依者たちの役に立つように、一体性と純粋性に関するババの重要な御教えをまとめた二つのスタディー ガイドが作られました。

一体性は神性である

一冊目のスタディー ガイドは、「**一体性は神性である**」という金言を扱います。私たちが鏡に囲まれると自分自身のさまざまな反映が見えるように、私たちの周りにある一見多様性に見えるものは、私たちの実在である真我の反映にすぎないのだと、スワミは言います。この基本的な一体性を実感認識することが、心(マインド)の純粋性へとつながるのです。この純粋性を通じて、私たちは悟りを開き、万物と万人が神であることを実感認識し、生来の神性を実現します。

ババは、私たちは一つの神性の反映であり、一つの不滅の真我のさまざまな側面であり、私たち自身の本性であり、真我であり、神我である愛が、私たちの本質であると語ります。根本的には一つであるにもかかわらず、一体性はさまざまな方法で顕現します。根本的なレベルでは、イーシャーヴァースヤ イダム サルヴァム(すべては神で満ちている)——すべては神です。次のレベルは、大自然における一体性です。——神は大自然であり、大自然は神です。大自然のあらゆる多様性の中に一つの神性が顕現しています。そして人間は、大自然に不可欠なパーツなのです。一体性もまた、個人レベル、家族レベル、SSOレベル、社会レベルで顕現することができます。人間(ヴィヤクティ)は社会(サマシティ)の一部であり、社会は創造(スルシティ)の一部であり、創造は神(パラメーシティ)の一部であることを、バガヴァンは私たちに教えます。スタディー ガイドでは、これらすべての顕現の中に一体性を見る訓練をし、そのつながりと原理を探索します。

純粋性は悟りである

二冊目のスタディーガイドは、「純粋性は悟りである」という金言を扱います。スワミは、神と永遠の至福を体験するためには、純粋性が不可欠であると言いました。私たちが純粋でなかったら、神を体験することはできません。実際のところ、スワミは、無私の奉仕、信愛の活動、教育など、あらゆる霊性修行は、心(マインド)を浄化するために行われるのだと語りました。

純粋性を高める方法は何でしょうか？これが問題の核心であり、若い頃に純粋性を高めることの重要性和、外的な純粋性と内的純粋性のさまざまな側面について、スワミは素晴らしい説明をしました。外的な純粋性とは、肉体レベルでの純粋性です。それには、食べる物、口にする言葉、行動の純粋性や、場所や環境の純粋性が含まれます。しかし、身体がきれいであるだけでは充分ではありません——ハートと心(マインド)の純粋性が肝要です。この項では、内的純粋性(アンタフカラナ シュッディ)を高めることに関するスワミの御教えが列挙されています。限りなき慈愛ゆえに、バガヴァンは日常生活で十種類の純粋性を高める具体的方法を推奨し、ナーマスマラナ、無私の奉仕、瞑想などの霊性修行と、それらをどのように行うべきかについて指示をしました。

スタディーガイドでは、純粋性を高めるプロセスの落とし穴に関するスワミの忠告も扱っています。私たちが信愛の歌、奉仕活動、スタディーサークルなどの霊性修行に取り組むときの障害物について、私たちに警告し、それらを乗り越えるための実践的解決策を提供しています。彼は、私たちが日常生活の中で思い、言葉、行動における純粋性を実践するよう、私たちを導きます。

スタディーガイドでは、純粋性を高める基盤としての愛について詳細に述べています。愛を育めば育むほど、私たちはより純粋になります。最後に、純粋性に到達したさまざまな霊性の師、聖賢、聖者の例から何を学べるかについての短い議論があります。

結論

主から与えられた実践的なアドバイスのシンプルさと美しさは、どこにいようと常に霊的進歩に携わっている帰依者すべてにとって、永続的な価値があります。社会と世界全体の持続的平和と繁栄にとっての実用的な価値もあります。

彼の甘露の御言葉を学び、話し合いやスタディーサークルやワークショップを通じてそれらを理解し、真摯にそれらを実践しましょう。一体性をもって前進し、純粋性に到達し、今生で神性を体験することを決意しましょう。

ジェイサイラム

愛を込めて、サイの奉仕のうちに

ナレンドラナートレディ医学博士
ブラシャーンティ評議会会長
SSIO会長

序論

一体性とは何か？

• • • • •

原理の理解

一体性のための基盤

すべての存在はモーハ(執着)の支配下にありますが、人間にはそこから脱出してモークシャ(解脱)に到達する能力があります。この、モーハからモークシャへ移行するための能力は、もう一度言いますが、内面にある神聖な力の表現なのです。神聖な能力は、他の存在の中よりも人間の中により大きく現れますが、実際には宇宙にあるあらゆるものの中に神性が潜んでいるのです。困惑させる見せかけの多様性に、一体性という力強い底流をもたらすのが、この遍在の存在です。目で見えるものは表面的です。真実はその下にあります。

2000年5月20日の御講話
2000年布林ダーヴァンでの夏期講習 7章

世界を真理の目で見なさい。すべては一つです。すべては神の現れです。ヴェーダーンタ(ウパニシャッド)は「多様性に内在している一なるものとはアートマ原理である」と宣言しています。電球はさまざまですが、それらすべての中を流れるのは同一の電流です。同様に、万人の中にアートマ原理が存在しています。この一体性の原理を理解できないことが、人間の無知の原因です。真の人間性は、多様性の中の一体性を認識することにあります。一体性を高めるために、あなた方はサムヤクドリシティ(正見)を育まなければなりません。これが仏陀の最初の教えでした。

2001年5月7日の御講話
PDF「放棄と愛によって神の恩寵を獲得しなさい」

一体性とは結合ではなく、悟りである

一体性とは何を意味しているのでしょうか？一体性とは多様なものが結合することではありません。一体性とは、唯一性を悟ることです。鏡で取り囲まれると、いくつもの自分の姿が見えます。それらはどれも、あなたのさまざまな姿です。しかし、これは真実ではありません。

質問をする者と答える者——両者は一つであり同じです。すべては一つです。同じ人物が多様な姿で現れているのです。そうした姿をそれぞれ互いに異なるものとするのは間違いです。

2009年4月29日の御講話
「2009年2010年講話集」p.112

霊的な知的存在にとって、この膨大な人々の集まりは、さまざまな色の花々を神という一本の糸でつないだ花輪に見えます。このような物の見方を培いなさい。多の背後にある一なるものを見なさい。それぞれの花の中を通る糸、ブラフマ スートラを見なさい。

1975年4月4日の御講話

私がマイクに向かって話すとき、皆さんは私の声を聞いています。話し手は一人しかいませんが、同じ声をたくさんの耳が聞いています。エーコー ハム サルヴァ ブーターナム(私はすべてのものに内在する唯一なる実在である)。エーカム サット ヴィップラーツ バフダー ヴァダンティ(真理は一つ、賢者はそれをさまざまな名で呼ぶ)。

2009年4月29日の御講話
「2009年2010年講話集」pp.112-113

ヴェーダは宣言しています。「アハム ブラフマースミ(私はブラフマンである)」「タット トワム アスイ(タットワマスィ:汝はそれなり)」。このヴェーダの二つの宣言でさえ、「私」と「ブラフマン」(神)、「それ」と「あれ」という二つのことを述べています。真の英知は唯一性を見るところにあります。「アドヴァイタ ダルシャナム グニャーナム(不二一元を体

験することが真の英知なり)」根底にある一元性を見落として二元性を見ることは無知の印です。二元論は真理ではありません。仏陀はこのように深く探求し、最終的に「我は我なり」を体験したのです。これが真の悟りです。

2006年5月13日の御講話
「2006年講話集」pp.147-148



原理の実践

アーディヤートミティック(霊的な)知性は、神羅万象の一体性を認識します。ですから、他の人が感じるものが、その人にも同程度に感じられるのです。

1975年4月4日の御講話



例

太陽はただ一つしかありません。けれども、私たちは水のあるところならどこでも、川の中にも、池の中にも、容器の中にも、その反映を見ることができます。お皿に水を張ってごらんください。あなた方はその水の中にさえも太陽の反映を見ることができます。それは、お皿の水の中に太陽があるということでしょうか？ いいえ、それは太陽の反映にすぎません。

同じように、アートマはたった一つです。心(マインド)、知性、潜在意識、自我意識といったものは、それぞれ異なる容器のようなものです。すなわち、神は一つです。

2009年4月29日の御講話
「2009年2010年講話集」p.111

なぜ一体性が大切なのか？



原理の理解

世界から無秩序と争いを取り除くため

今日の世界には、無秩序、暴力、対立が見られます。世界は多くの病に侵されている病人のようです。その病気を治すものは何でしょう？人は、利己心、貪欲、その他の悪い性質を取り除いて、自分の内にある動物的な性質を乗り越えなければいけません。人は純粋性を獲得するために「慈善」(無私の精神)を培わなければいけません。「ハートの純粋性」によって人は「一体性」に到達し、一体性は神性へと導くでしょう。人生という館は、これら四つの基盤の上に建てられるべきものです。

1983年9月の御講話
PDF「母の榮譽を称えよ」

人間同士の不和と争いは、人がこの根本的な一体性を忘れた瞬間に始まりました。今こそ、この傾向を転換し、人間同士の生来の一体性を再度打ち立てるときです。一体性と共に、純粋性もあるべきです。一体性と純粋性が共にあるとき、そこには神性も存在します。一体性と純粋性と神性の組み合わせは、アートマ タットワ(アートマ原理)の悟りをもたらします。ウパニシャッドの中でも特に「タイッティリーヨーパニシャッド」(タイッティリーヤ ウパニシャッド)は、このアートマ原理(タットワ)を詳細に扱っています。このアートマ原理への信仰を育てさえすれば、その人のあらゆる努力が成功するでしょう。

2009年2月21日の御講話
「2009年2010年講話集」p.60

神の創られた世界全体には一体性があります。しかし人類はその中にさまざまな分裂を引き起こします。今必要なのは、人類全体の一体性です。

2008年5月31日の御講話

私たちの内面から 悪い思いを取り除くため

犠牲を通して、あなたは自分の本当の性質が慈善であることを知るようになるでしょう。慈善とは、個人や団体にお金を与えたことを意味するものではありません。あなたの内面にあるあらゆる悪い考えを取り除くことが真の慈善です。そのお返しに、慈善はあなたに純粋性を授けます。あなたに純粋性があれば、そこには一体性があるでしょう。あなたに一体性があれば、神に到達することができます。

Sathya Sai Newsletter USA
Vol.13, No.4, p.20

私たちの愛を拡げるため

皆さん一人ひとりの中に愛はあります。愛の姿はどんなものでしょう？愛の特質とは何でしょう？もし注意深く分析するなら、愛は人間だけに限定されるものではなく、あらゆる生き物の中にあることに気づくでしょう。すべての生き物はこの上なく神聖な愛という性質を授けられています。この真実を理解するには、敵対心を捨てて唯一性と純粋性を培わなければなりません。

愛という基本原理以外、この世のすべては変化する定めにあります。愛はあなたを神性へと導く唯一の真実であり永遠なる道です。神性は人間の身体のあらゆる部分に浸透しています。唯一性という原理を理解したとき、初めて私たちは神性のビジョンを見ることができるのです。

2004年11月22日の御講話
PDF「完全な静寂の中で内なる神性を体験せよ」

私はいつも愛の原理について語ります。私は愛の他には何も知りません。あらゆるものの中に等しく神が存在しているのであれば、どうしてあなた方はある人には愛を分け与え、別の人には愛を与えないことができるのでしょうか？

2004年11月22日の御講話
PDF「完全な静寂の中で内なる神性を体験せよ」

真の文化に従うため

神に到達するために、人間は、何よりもまず一体性を培わなければなりません。一体性の中に真の文化があります。一体性は、人間が達成しようと努力すべき理想です。どれほど大きな任務でも、一体性によって達成することができます。

2002年1月19日の御講話

人間であることにふさわしく生きるため

人間は五つのコーシャまたは鞘で包まれています。それらは、アンナマヤ コーシャ(食物鞘)、プラーナマヤ コーシャ(生気鞘)、マノーマヤ コーシャ(心理鞘)、ヴィグニャーナマヤ コーシャ(英知鞘)、アーナンダマヤ コーシャ(歓喜鞘)です。他の生き物は、せいぜい三番目のコーシャまでですが、人間は努力すれば簡単に四つ目まで、さらにはそれ以上まで行くことができます。これが、人間を非常に優れたものとしているのです。人間が万人に共通する真我と個我の間にある一体性を知覚できるのは、英知を通じてです。この能力が内なる神性の現れでないのであれば、他に何があるのでしょうか？

2000年5月20日の御講話
2000年布林ダーヴァンでの夏期講習 7章

至福に到達するため

今日では、エゴと虚飾が蔓延するようになりました。欲望は無制限になりました。人間の心は利己心に満ちています。そこに思いやりが入り込む隙はありません。それが、人間がアートマのビジョンを持つことができず、至福を体験できない理由です。

2004年11月22日の御講話
PDF「完全な静寂の中で内なる神性を体験せよ」

もし多様性という感覚を放棄せず、一体性という精神を培わなかったなら、あなたは決して至福に到達できません。

2008年5月31日の御講話

私たちの「良心」を「神意識」へと変容させるため

人には名と姿がありますが、チャイタニヤ(覚醒意識)に姿はありません。人間の身体の中にチャイタニヤが存在するとき、それは「良心」と呼ばれます。遍在のチャイタニヤは「神意識」と呼ばれます。個人が多様性における一体性の原理を理解するとき、「良心」は「神意識」に変わります。

2003年1月1日の御講話
PDF「一体性、純粋性、神性を求め努力しなさい」

アドワイタ(不二一元)を体験するため

シャンカラは、アドワイタには、人間の心(マインド)から一切のエゴの痕跡とあらゆる二元的な考えを取り除く、熱烈な霊性修行(サーダナ)が必要であることを知っていました。それゆえ、シャンカラは、人と宇宙の本質との真の一体性への気づきという夜明けのための予備的な修行として、ヨーガ(神との合一へと導く修行)とバクティとカルマ(無私の行為)という規則を教えました。シャンカラの言うところによれば、これらは知性を照らし、情動を清め、ハートを浄化するのです。アドワイタとは、あらゆるもの、あらゆる場所の内に存在する神に、完全に気づいていることです。

1963年4月28日の御講話
PDF「シャンカラの不二一元論」

原理の実践

私たちの霊性修行を微調整する

一体性の原理に気づかなければ、ジャパ(唱名)やタパス(苦行)といった霊性修行が皆さんの望む結果を生むことはありません。多くの人が数珠の玉を数えます。しかし、心(マインド)が世界を駆け巡り続けているなら、数珠を手繰ることが何の役に立つでしょう？心(マインド)が最も重要なのだということを理解しなさい。安定した心(マインド)を持つべきです。そうして初めて、皆さんの人生は救われるでしょう。ハエがゴミの上にもラッドゥー(インドのお菓子)の上にも同じようにたかるように、もし皆さんの心(マインド)がありとあらゆる対象物の上をさまようならば、何の役に立つのでしょうか？

善と悪の間、一体性と多様性の中で心(マインド)が揺らぐのを許してはなりません。善なるものだけに心(マインド)を集中させ、一体性の原理に気づきなさい。それこそが、皆さんを真理の体験へと導く王道です。一方、もし自分の心(マインド)にねじれた道に行くことを許すのであれば、心(マインド)はあなたをどこにも導きはしません。

2006年5月13日の御講話「2006年講話集」p.155

あなたは一体性の精神を自分のものとするべきです。あなたは誰に出会おうとも、「彼は私の兄弟、彼女は私の姉妹です」と言います。このように、万人をあなたの兄弟姉妹と見なし、一体性のある振る舞いをしなさい。すべての人は神の子供です。それゆえ、あなたと他の人の間に憎悪という気持ちが生じたときにはいつでも、自分と彼らは別個の存在ではないということを思い起こしなさい。すべては一つであると考え、一体性に到達し、その至福を体験しなさい。多様性の中に一体性を見ることが神性であり、真の霊性なのです。聖典を研究すること、儀式を執り行うこと、礼拝をすること等が、真の霊性を意味するものではありません。アートマ原理という一体性を認識することが真の霊性です。この一体性を実感認識するとき、あなた

は神の恩寵を得るでしょう。

2008年5月31日の御講話

私たちの信仰を確固たるものとする

人間が自分と肉体を同一視し、自分の中にある神性を実感認識しない限り、利己心は去らないでしょう。生物の多様性は、明らかな事実です。二人の人間は、たとえ双子であっても、同じではありません。しかし、多様性が不一致や紛争につながるべきではありません。私たちは、多様性の根底にある一体性に目を向けることを学ばなければなりません。この一体性は、宇宙の万物の中に存在する神性に基づいています。この一体性を実感認識することは、神への固い信仰を通じてのみ、可能となります。

1986年8月27日の御講話

真の精神で奉仕する

肉体との同一視から自由になったときに初めて、あなたは他の人に奉仕したいという本当の促しと靈感を得ることができます。ある人が急性胃痛に苦しむと、その目から涙が流れます。なぜでしょうか？なぜなら、目、胃などのさまざまな器官は、すべて同じ体だからです。同様に、一人の男性が苦しむと、あなたの目は涙を流し、その痛みを和らげてあげたいという思いに促されるに違いありません。あなたと男性が同一の神の身体の手足であるということを知っている場合に、このようなことが起こるのです。

考え方の違い(ベーダ バーヴァ)は、真理を知らないために生じます。人々は怒ると、歯を食いしばりますが、舌を噛まないように気をつけます。舌は自分のものだからです。たまたま少し舌を噛んだとしても、彼らは歯を追い出したりしません。歯は自分のものだからです。同様に、病人、貧しい人、苦しんでいる人、文字が読めない人、邪悪な人もまた、すべて同じ体の手足であり、私たちもその一部なのです。同一の電流がすべてを動かし

ているのです。これを悟り、その一体性に融合することが、人間の体で今生を生きる目的です。

1965年9月26日の御講話

あなたは他人の痛みを自分のものとして感じなければなりません。他の人が幸せでいるとき、あなたは幸せでなければなりません。それが万物との一体性を悟る方法です。何にもまして、不注意によってサーダナ(霊性修行)の成果が破壊されてしまうかもしれないことに注意しなさい。たとえあなたが、土地は干上がって休憩中だと思ったとしても、地中には草の種があり、雨が降れば大地は再び緑になります。サットサング(善良な仲間)、サットカルマ(善行)などは、生涯にわたって存続されなければなりません。

1971年4月18日の御講話

拡大する愛を育む

私たちの見方は愛に満ちていなければなりません。愛に満ちた見方は真の人間的特質です。すべては一つです。誰に対しても同じ心でありなさい。あなたが神聖な見方を発達させたときに初めて、多様性の中の一体性を理解することができます。サムヤクドリシティ(正見:物事をありのままに見ること)は、すべてのものの内にある神性に気づかせてくれます。

2001年5月7日の御講話
PDF「放棄と愛によって神の恩寵を獲得しなさい」

すべての存在を愛しなさい——それだけで十分です。何の見返りも期待せず愛しなさい。愛のために愛しなさい。あなたの本質は愛なのだから愛しなさい。愛はあなたが知っていて好きな礼拝の形なのだから愛しなさい。他人が幸せなときには、同じように幸せでいなさい。他人が苦痛を味わっているときには、最善を尽くしてそれを和らげようと努めなさい。セヴァ(無私の奉仕)を通じて愛を実践しなさい。そうすることによって、あなたは一体性を実感し、害をもたらすエゴを取り除くことができるでしょう。

1973年3月5日の御講話
PDF「教師の中の教師」

あなたは常に「サイラム、サイラム、サイラム」と唱えています。これだけではあなたの中に信愛が育まれることはないでしょう。真の信愛を育むために、あなたは神の御名を唱え、一体性の精神を自分のものとするべきです。もしあなたの中にわずかでも真の信愛があるのなら、他の人に対して善を行い、彼らと共に調和の中で生きなさい。誰をも嫌ってはなりません。すべてを愛しなさい。もしあなたに愛と信仰があるならば、あなたは非暴力を発現させるでしょう。そのとき初めて、あなたは至福を体験することができるのです。

2008年5月31日の御講話

あなたは自分が帰依者であると主張します。しかし、あなたの中に憎しみ、怒り、嫉妬、偽善、悪意などがあるのなら、それが何の役に立つのでしょうか？これらの邪悪な資質はあなたの人生を台無しにするでしょう。笑顔で他の人と語り、一体性の精神を培いなさい。

常に万人を愛しなさい。このような方法で万人を愛するのなら、憎しみ、怒り、欲張りといった邪悪な資質はすべてあなたから去っていくでしょう。あなたがこれらの邪悪な性質から解き放たれれば、簡単に解脱に到達するでしょう。

2008年5月31日の御講話

他人を憎んだり、非難したり、他人の過ちを探したりすることなく生きなさい。十八巻もの膨大なプラナを著した聖賢ヴィヤーサは、すべてのプラナを一行の対句にまとめました。「他人に善を行うことは唯一の賞賛に値する行為であり、悪を行うことは最も凶悪な罪である。」

あなたが善を行うことができないと感じるのであれば、少なくとも悪を行うことをやめなさい。それ自体が賞賛に値する奉仕です！違いを見つけようとしてはなりません。一体性を見つけなさい。信条、階級、出身国は異なるかもしれませんが、内なる渴望は万人に共通です。人生の目的は、愛を通じて愛の化身すなわち神を知ることであり、神を知ったことをあなた自身の愛を通じて示すこ

となのだと理解しなさい。

1975年4月4日の御講話

私が与えるもう一つの指示は、他人の善悪よりも自分自身の進歩や矯正に関心を持ちなさい、ということです。あなた自身が善良になった後でも、他人の善を心配する時間は十分にあります。ただし、できる限り、他の人にアーナンダ(幸福)をもたらすよう努め、他の人を苦しめないようにしなさい。

1971年4月18日の御講話

あらゆるところに神を見る

ハートが愛で満ちている人は至るところに神性の顕現を見るでしょう。自然と神は異なるものだと考えるのは誤りです。人は自分自身の体験を基にして神性にさまざまな名前をつけます。金でできた宝飾品はたくさんありますが、金は一つです。同様に、名と姿はさまざまですが神性は一つです。金はどこから出るでしょう？ 大地から出ます。同

様に、神は人間の身体の中に顕れます。「ダイヴァム マーヌシャルーペーナ(神は人間の姿をとって化身する)。」それゆえ、万人を神と見なしなさい。

2004年11月22日の御講話
PDF「完全な静寂の中で内なる神性を体験せよ」

現代の人々は、利己心という手の中の玩具になってしまいました。人は、利己心なしには一歩たりとも踏み出しません。利己心を取り除き、神性の道を歩むときにのみ、あなたは神聖なアートマ原理を理解できるのです。

1993年4月9日の御講話

神を想い、神を見、神を聞き、神を食べ、神を飲み、神を愛しなさい。それが、最も易しい道であり、無知を打ち破って、神と一体である自分の本質に気づくという目標に到達するための王道なのです。

「バガヴァン シュリ サティヤ サイ ババとの対話」p.253



例

ラーマとラクシュマナ

ラーマとラクシュマナ、そしてバラタとシャトルグナの間に強い愛の絆があり、お互いから離れることはありませんでした。この一体性がどれほどの力を持っているかをご覧ください！ 団結は強さです。互いに話をせず、一体性を育まなければ、あなた方は何一つ達成できません。

あなた方の中に憎悪の感情が生じたとしても、互いに歩み寄るよう努めなさい。帰依者たちは適切な理解と調整を行いながら、品格をもって振舞うべきです。たとえあなたが崇拝する神を誰かが批判したとしても、その批判に反応してはなりません。むしろ、あなたの神がその批評家の姿を取ったのだと考えなさい。神にとっては、賞賛も非難も大した違いはないのです。

2008年5月31日の御講話

ドリタラーシュトラの考え

神がすべてに遍満していることに人間が気づけば、そこに欲張りな利己心や不和が入り込む隙はなくなるでしょう。ドリタラーシュトラが「自分の」息子とパーンダヴァ兄弟を差別したとき、彼は自分が霊的に盲目で、世界の多様性を包み込んでいる一体性について無知であることを露呈したのです。

1988年1月9日の御講話

鏡の部屋の中にいる犬

いくつもの鏡がかけられた部屋に、一匹の犬が入っていきました。犬は鏡の中に何匹もの犬を見ました。その部屋にあまりにもたくさんの犬がいるのを見て、犬は、自分の命が脅かされるのではないかと怖ろしくなりました。その状況から逃れようとした犬は、鏡に映った自分の姿を別の犬だと考えて、鏡の一つに飛びかかりました。そのときその犬

は、鏡の中の犬も自分の方に飛びかかって来るのを見ました。そして鏡は割れました。その犬は、別の犬はいなくなったと感じて部屋から出ました。たいそうな数の犬から逃れられたと、犬は大変ほっとしました。しかし、たくさんの犬など、どこにいましたか？犬は何枚もの鏡の中に自分の反映を見ただけです。

今の人間の場合もこれと同じです。もし人が、他のすべての姿を、この世という鏡に映った自分の姿であると見るならば、一体性の原理を悟るでしょう。

つまり、父、母、兄弟、姉妹といった個別の存在はないのです。ところが、人間は自らの迷妄によって世俗的な人間関係を築き上げ、「彼女は私の姉妹です、彼は私の兄弟です、彼は私の父です、彼女は私の母です」と言うのです。これらはどれも身体的な関係にすぎず、あなたの神聖な本質に基づいた関係ではありません。同一のアートマがすべての人の中に存在することを理解するよう努めるべきです。ところが、あなたは世俗的な人間関係を育て、アートマの原理を忘れていてのです。

あなたは、「彼女は私の妻です」などと言います。けれども、結婚前、あなたと彼女は別個の存在でした。結婚して初めて、あなたは「私の妻、私の妻」と言うのです。あなたは一体どうやって夫婦の関

係を築き上げたのですか？

それはただ、あなたの迷妄のせいなのです。迷妄のせいで、人は多くの過ちを犯し、数多くの望ましくない活動にいそしむのです。

あなたがどこを見ても、神はそこに存在しており、神は一つです。人々は「彼はラーマ神、彼はクリシュナ神、彼はシヴァ神、彼はヴィシュヌ神」などと言います。これは何を意味していますか？それはヴィシュヌとシヴァとラーマとクリシュナは別個の存在だという意味ですか？これらは同一の神につけた異なる名前です。神はあなたの想像に基づいて、特定の姿をとってあなたの前に現れます。

あなたがラヴィ ヴァルマーといったような芸術家が描いたクリシュナの姿を想うなら、神はそのクリシュナの姿をしてあなたの前に現れるでしょう。それと同じように、神はラーマの姿でも、あなたの前に現れるでしょう。けれども、神はラーマでもクリシュナでもありません。ラーマもクリシュナも、あなたにほかなりません。ラーマやクリシュナの姿はあなた自身の反映にすぎません。あなたが「ラーマがいい」と言えば、神はラーマの姿をしてあなたの前に現れます。同じように「クリシュナがいい」と言うならば、神はクリシュナの姿でああなたの前に現れます。こうした姿はすべて、あなた自身の反映にすぎません。

2009年4月29日の御講話
「2009年2010年講話集」pp.115-117

個人レベルの一体性 (ヴィヤシテイ)



原理の理解

思いと言葉と行動の一体性

天国と地獄は人々の行為次第です。体は、マナス(心、マインド)、ヴァーク(言葉)、手足(行動器官)と呼ばれる三つの存在が住まう家です。

1995年1月14日の御講話
PDF「プレーマと三重の純粹さ」

思い、言葉、行動が調和していることは、靈的成長の第一歩です。人道主義が生まれ、表現され、開花するかどうかは、思いと言葉と行動が適切に統合されているかどうかによって決まります。それが最高の美德です。

考えと発言と行動の間に相関関係がなければ、自己欺瞞や偽善や精神的破綻につながります。破産につながります。別の言葉で言えば、精神活動と身体活動が調和していることが、靈性修行に不可欠な要素なのです。

1979年5月22日の御講話
1979年布林ダーヴァンでの夏期講習 3章

思いと言葉と行動が一致していることが、人間性の証です。

1993年4月9日の御講話
「真の教育」p.65

ヴェーダーンタでは、この一体性はトリカラナシュッディ(三重の純粹さ)と述べられています。「マナッスイエーカム ヴィチャッスイエーカム カルマンニエーカム マハートマナム(思いと言葉と行動が完全に一致している人は高潔な人である)」「マナッスヤンニャト ヴァチャッスヤンニャト カルマンニャトドラートマナム(思いが言葉や行動から逸脱している人は邪悪な人である)」

1995年1月14日の御講話
PDF「プレーマと三重の純粹さ」

己の語る言葉と考えが一致すれば、それは真実になります。己の語る言葉を実行に移せば、それはダルマ(正しい行動)となります。

1994年3月11日の御講話

「人類にふさわしい研究対象は人間である」と言われます。頭とハートと手が協力し、調和して機能すべきです。これが3HV(スリーエイチヴィー)です。これより大切な人間的価値はありません。

2000年9月29日の御講話

原理の実践

思いと言葉と行動の相乗効果

あなたが考えることを口にすべきです。あなたが口にしたことは実行に移さなければなりません。それが本当の人間らしさです。それがトリカラナシュッディ(三重の純粋性)です。

2008年8月6日の御講話

さて、さまざまな場合において、あなたはどのようにして、何がダルマで、何がダルマでないと決めるべきでしょうか？

マナス〔心〕とヴァーク〔発言〕とカーヤム〔体〕(思いと言葉と行動)を一致させなさい。言い換えれば、話すとおりに行動し、感じたとおりに話しなさい。

1962年10月5日の御講話
PDF「何がダルマで何がダルマでないか」

内在する魂(良心)から生まれた思考は、話し言葉で表現されるべきです。もし、内面にある思いが話されたもの異なっていたら、その言葉は真実として扱われるのでしょうか？それとも虚偽として扱われるのでしょうか？明らかに、それは真実ではありません。言行不一致なら、それはアダルマ(正しくない行動)です。真実と正しい行動は、最も深いところにある良心からの促しの表現なのです。

1994年3月11日の御講話

あなた自身の良心を裏切ってはなりません。嘘というマントであなたの思いを覆い隠してはなりません。あなたの内なる良心を強引に隷属させて抑圧したり、良心が認めない行動に着手したりしてはなりません。それがダルマにかなった生き方です。

1962年10月5日の御講話
PDF「何がダルマで何がダルマでないか」

何度も正しいことを行っていれば、それはますます容易になり、習慣は成長して良心となります。ひとたび自らを正しい行為に定めれば、あなたは自動的に正しいことに従うようになります。あなたが何をするかは、あなたがどういう人であるかによって決まります。あなたがどういう人であるかは、あなたが何をするかによって決まります。この二つは相当な度合いで相互に依存し合っています。

1962年10月5日の御講話
PDF「何がダルマで何がダルマでないか」

自己規制ができない者がどうして他人に規制を強いることができるのでしょうか？自分の言葉と行動の間に調和がある場合にのみ、人間は自分の人生で偉大なことを成就できます。

1990年6月2日の御講話
「ブリンダヴァンの慈雨 1990年夏期講習」p.230

愛が非常に大切です。あなたの思いと言葉と行動の中には愛があるべきです。思いと言葉と行動には一体性があるべきです。

2009年12月19日の御講話

アーディ シャンカラ

シャンカラの教えは広範囲に広まりました。ベナレスのパンディト(学僧)たちは、聖なる都市で学者たちの大会を準備しました。

多くの学者が盛装して集まりました。見せびらかしという意味において、その集會に欠けているものは何一つありませんでした。シャンカラは、膝までドーティーで覆い、肩に手ぬぐいをかけた簡素な姿で会場入りしました。シャンカラを見たパンディトたちは、それがすべて冗談であると感じたようでした。何人かのパンディトは言いました。「彼はルドラクシャのマーラー(数珠)さえも身に着けていません。パンディトは外見を立派にすべきです。この青年が私たちに何を言えるというのでしょうか？」彼らはシャンカラにこのように言いました。「私たちは、あなたがあらゆるヴェーダとシャーストラに精通しており、文法と論理学の権威であり、アドワイタ(不二一元論)教義の主導者であることを知りました。」

それからシャンカラはバジャ ゴーヴィンダムの歌を歌い、物質的な富の一時的な性質を指摘し、世俗的な欲望を放棄するよう皆に勧めました。シャンカラは、パンディトは平静な心を持つべきであり、己の行動の結果である富への欲望を放棄しなければならないと断言し、強い言葉で「金銭への渴望を放棄しなさい。神への渴望を育みなさい」

アブラハム リンカーン

リンカーンは最良の例です。彼は自分の言ったことを考え、自分が公言したことを固く守り、最終的に彼が信じていたことを達成しました。ですから、この三つの一体性が非常に大切なのです。そうでなければ人間性が失われてしまいます。

と主張しました。それから彼はアドワイタ(不二一元論)という形而上学について、素晴らしい解説を行いました。

すべてのパンディトとその弟子たちは、若いシャンカラのパフォーマンスに驚きました。彼らは、ここにいるのは偉大な教師であるだけでなく、己が教えたことを実践した人物であることに気づきました。とを実践した人であることに気づきました。この思いと言葉と行動が一致していることが、偉大さの証です。シャンカラはまさに、思いと言葉と行動における一体性と純粋性の体現者でした。

多くのパンディトが立ち上がり、シャンカラのもとへ押しかけて質問しました。彼はやすやすとすべての質問に完璧に回答しました。彼は、アドワイタとは真我と一つであるという意味であり、この一体性に目覚めることが真のグニャーナ(英知)であると主張しました。霊性の英知のみが真の英知です。現代のパンディトは、この悟りを得ていませんと、シャンカラは断言しました。

シャンカラは、名と姿はたくさんあるかもしれないが、真我はただ一つであると指摘しました。その真我はすべての人のハートの中に棲んでいます。シャンカラは、己のハートを浄め、良心の指示に従うことをパンディトたちに勧めました。信条はさまざまですが、神は一つであることをシャンカラは明らかにしたのです。

1996年9月7日の御講話

2000年9月29日の御講話

社会レベルの一体性 (サマシテイ)

家庭の中での一体性

● ● ● ● ● 原理の理解

家族と世界のつながり

「家庭」は世の中でもっとも重要な機能単位です。家庭が健全な道をたどっていれば、世の中も円滑に運ぶでしょう。家族の一員同士の一体性が少しでも揺らげば、世の中にもその影響が及びます。一体性は家族一人ひとりの生活に力を与えてくれます。ですから、どの家庭でも、家族の一員の間で、一体性と調和のある関係を築くよう努めるべきです。

2003年3月2日の御講話
PDF「一体性をあらゆる場所の底流としなさい」

平和は家庭で、家族の中で始まらなければなりません。家族の間に調和と理解があれば、平和は地域社会に広がり、そこから国や世界に広がるでしょう。それゆえ、今日最も必要とされているのは一体性なのです。一体性が喜びと平和をもたらします。

1990年11月20日の御講話

● ● ● ● ● 原理の実践

理解と調整

どの家庭も、円滑に機能するためには、お互いに理解し、調整することがもっとも大切です。たとえば、夫婦が本当に理解し合っていれば、夫が職場から非常に遅く帰宅しても、妻は気にしないものです。それどころか妻は、夫は仕事で忙しいのか、それとも交通渋滞に巻き込まれているのかと心配しながら、夫の帰りを待つでしょう。

しかし、二人が本当に理解し合っていないければ、ほんの五分遅れただけでも、けんかになります。本当に理解し合うときに初めて、たやすく調整できるようになるのです。学生の間でも、教師の間でも、家族の間でも、理解し合うことは非常に大切です。

2000年9月29日の御講話
「真の教育」p.55

自分たちは一つの家族の兄弟だと考えなさい。けれども、そこで立ち止まってはなりません。親族関係を超えて、アートマの一体性へと進みなさい。

利己心と私利私欲の一切を完全に捨て去り、人生の最高の目標としての奉仕活動に着手しなさい。奉仕はあなたの生命の息吹とならなくてはなりません。皆さんは理想的なセーブアク(奉仕者)となり、世界に模範を示さなくてはなりません。

1987年11月19日の御講話
PDF「奉仕するために生まれる」

● ● ● ● ●

例

五本指

一体性があればどんなことでも成し遂げられます。手の五本指を例に挙げてみましょう。五本の指が揃っていて、初めてあらゆる作業をすることができます。カウラヴァ兄弟〔パーンダヴァ兄弟の敵であるクル族の百人兄弟〕は総勢百人いましたが、善い目的のために協力し合うことはありませんでした。最後にカウラヴァ兄弟に降りかかった運命とはどのようなものでしたか？『ラーマヤナ』に出てくるヴァーリ〔猿王。ヴァーリンとも呼ばれる〕とスグリーヴァ〔双子の兄のヴァーリに猿の王国を追放された猿王〕も同様の運命をたどりました。ヴァーリとスグリーヴァは実の兄弟でありながら、いくつかの意見の食い違いから互いに憎むようになり、ついには、ヴァーリはラーマの手によって滅ぼされてしまいました。

2003年3月2日の御講話
PDF「一体性をあらゆる場所の底流としなさい」

シヴァの家族

シヴァは平静さの最高の見本です！聖典によれば、シヴァの家族は興味深い取り合わせですが、各自がとても穏やかで、興奮しないため、神の家族は平安と調和の内に存在しているのです。

シヴァの腕、首の周り、頭の上、腰の周りには、大蛇が巻き付いています！シヴァの息子の一人であるスツブラマニヤムは、蛇を攻撃する孔雀に乗っています。ガネーシャは、蛇に食べられる鼠に乗っています。ガネーシャには、ライオンの獲物である象の頭がついています。ライオンはシヴァの配偶者であるドゥルガーが使用する乗り物です。ドゥルガーはシヴァ自身の左半身で、シヴァと離れることができませんが、ライオンとシヴァ神自身の乗り物である雄牛は、まったく友好的ではありません！シヴァの額の中心には第三の目という火があり、頭上にはガンジス河という水があります。両者は相性最悪です！カイラーサ山での生活を円滑で幸福にするために、さまざまな要素がどれ

ほど愛情深く協力的でいなければならないかを想像してごらんください！

1971年5月15日の御講話

人間の体

人間の各部分には、それぞれに果たすべき役割があります。大きな仕事を成し遂げるときは、力を合わせて一つになって働きます。目が木の上の果物を見つけたら、足はその木に向かって歩み、手は石を拾って果物に投げつけます。果物が落ちれば、指がそれを拾い上げ、口に入れ、歯で噛み砕いて、胃へと送ります。このように、小さな行為を行うときでさえも、体の各部分が力を合わせて働かなければならないことがわかります。このような一体性が家庭の中に広がれば、どんなことでも成し遂げられます。

2000年9月29日の御講話

パーンダヴァ兄弟

一家族の兄弟は決して喧嘩をはいけません。兄弟は、パーンダヴァ兄弟〔パーンドウ王の息子たちの意。『マハーバーラタ』の主人公の五人兄弟〕のように一致団結しているべきです。パーンダヴァ兄弟がクリシュナ神の恩寵を手に入れることができたのは、彼らに一体性があったからこそです。一体性があればどんなことでも成し遂げられます。

2003年3月2日の御講話
PDF「一体性をあらゆる場所の底流としなさい」

サティヤ サイ オーガニゼーションの中での 一体性



原理の理解

サイ オーガニゼーションの第一の義務

サイ オーガニゼーションの第一の義務は、万物は神性の火花であり、一つの家族を形作っている、という基盤にある一体性を促進することです。基盤であるこの真理を悟らなければ、どんな種類の奉仕をしても無駄です。善良な思いと感情がなければ、奉仕に神聖さはあり得ません。ダルマ（正義）の行為としての奉仕は、心が純粹で、無私無欲であり、誰に対しても平等な心を持つ人によってのみ、捧げられ得るのです。

1987年11月19日の御講話
PDF「奉仕するために生まれる」

オーガニゼーションは人々が、一見多様に見える物事の背後にある一体性を悟ることを助けなければなりません。見かけの多様性は、人間の心（マインド）によって、このすべてである一なるものの上に重ねられたものにすぎません。

1976年3月29日の御講話

サイ オーガニゼーションにおいて、第一に必要なものは、一体性と相互信頼です。一体性がある初めて、世界の幸福を促進することができるのです。もしオーガニゼーションの内部に不調和があったら、どうして他の人々に奉仕することができるでしょう？ 忍耐をあなたの装飾品にしなさい。愛を通じて、あなたの悪い特徴を取り除きなさい。

1993年10月7日の御講話

サティヤ サイ セヴァ サミティ(オーガニゼーション)の唯一の目的であり、成長の土台である命の息吹は、唯一性、つまり、すべては一つである、ということ意識することです。ところが、蔓延する政治的抗争はこの組織をも襲い、十人の人間が十一の機関へと膨張していきます。ここでも政治と同じく、派閥、競争、権力や権威を求める喧騒、役員になりたいという貪欲が、頭をもたげます。人々は選挙や党派といった空気の影響を阻止することができずにいます。こうした策略や傾向は、靈的合一という目的地へと向かう求道者たちの組織には相応しくありません。

1968年10月1日の御講話
「模倣ではなくインスピレーション」
サイラム ニュース181号 p.13

サイ オーガニゼーションの複数のユニットは、サナータナ ダルマの説く多様性の中の一体性を促進し、その模範とならなければなりません。サイ オーガニゼーションが作られた目的は、その一体性を強調するためです。

この集まりには、多くの国々からやって来た、さまざまな言語を話す、さまざまな人種の人々が出席しています。彼らは皆、国籍や人種、信条や肌の色や着ているものは違っても、ひとすじの心で、サイへの愛と、サイからの愛で、結ばれています。これが私の本当の務めです。これがこの国の古代の預言者と聖仙たちが切に望んだ成就です。この唯一性、この愛との一体性を育み、それを理想としてずっと自分の目の前に掲げていなさい。

1980年11月19日の御講話
PDF「愛の中で成長しなさい」

どのような仕事であれ、五本の指が一緒になって初めて、成し遂げることができるのです。ある人はオーガニゼーションの会長であるかもしれませんが、それは、その人が自分の気の向くままに行動してよいということではありません。

すべての人が、宇宙という家族の一員なのです。同様に、会長であれ、書記であれ、コーディネーターやメンバーであれ、すべての人が素晴らしいのです。でも、仕事を成功させるには、皆が一つにならなければなりません。サミティ(サイセンター)、セヴァダル(奉仕部)、バルヴィカス(教育部)等々、オーガニゼーションのすべての部門が、調和して仕事をすべきです。異なった部門を、同じ手の指と考えると、一つになって働きなさい。このように、一体性は非常に重要です。皆さんは、一人で歩いたり一人で仕事をしたりすれば、ストレスや無理を感じます。でも、グループの中にいるときはそうではありません。

皆で共に成長しよう

共に楽しもう

共に働くことによって英雄的行為を行おう

争うことなく生きよう

[テルグ語の詩]

1998年11月20日の御講話
「一体性の実践」pp.11-12

無私の奉仕

私心のない奉仕こそは、人間の霊的成長の第一歩です。なぜなら無私の奉仕は、歴史や地理に人工的にかぶせられたあらゆる差別を超越できるように私たちを訓練し、人間社会が「一つ」であって、分割できないものであることを認識させてくれるからです。この真理を学び、行動の中で体験きなさい。それがセヴァダル オーガニゼーション(奉仕部)の義務です。

この一体感をしっかりと身につけ、それに基づいてあらゆる行為を方向づけていなければ、人はどうして、(人間は本来、皆そうであるように)神聖であると言えるでしょうか。人間は、自分の生得権、すなわち、唯一者を認識することによって生ずる

至福を味わうために、生まれてきたのです。個人のためだけに行われた行為は、まさにその理由ゆえに、空虚です。

1974年10月16日の御講話
「セヴァ 真のボランティア」pp.103-104

サイ オーガニゼーションは、万人に内在している魂が同一のアートマであることに基づいて機能するべきです。

1987年11月24日の御講話
PDF「セヴァによる平安」

霊性はビジネス活動ではありません。霊性とは神聖な邸宅です。それは一体性につながっています。多様性における一体性こそが、皆さんに幸福をもたらします。皆さんが一体性の原理を培うことを、私は強く望みます。そのとき初めて、皆さんの従事する奉仕活動に価値が生まれ、神聖なものとなるでしょう。あらゆる種類の差別によって神聖な奉仕活動を汚してはなりません。

2003年1月1日の御講話
PDF「一体性、純粋性、神性を求め努力きなさい」

万人の中に住んでいる神への捧げ物として捧げられた行為は、最高のセヴァ(無私の奉仕)と同じくらい神聖になります。このセヴァに全身全霊を捧げなさい。神のアヴァター(神の化身)たちはセヴァに従事しています。それがアヴァターたちが来る理由です。それゆえ、あなたが人類にセヴァを捧げるとき、アヴァターたちは自然と喜び、あなたは恩寵を勝ち得ることができるのです。これが、サティヤ サイ セヴァダルの一員としてあなたが持っている素晴らしいチャンスです。あなたがこのチャンスを最大限に活用することを私は望んでいます。そうなるように、私はあなたを祝福します。

1977年3月6日の御講話

仲間に思いやりを注ぐことができる人だけが、神の恩寵の中に居場所を求めることができます。これもまた、最高位の霊性修行なのです。それはあなたに、人間社会の一体性と、神の内在という栄光を理解させます。心からの喜びと共にセヴァダル(奉仕部)が始めたこの修行が、この国全体

に広がり、国土が幸福で繁栄しますように。世界に平和と幸福、そして愛に満ちた信頼がありますように。それが私の祝福です。私はあなた方に、全人類の幸福と繁栄を祈ってほしいのです。

1970年12月25日の御講話

お金ではなく、道徳が大切

人々は、自分の欲望を制限するという主要な問題をかわし、その代わりにサティヤ サイ オーガニゼーションが行う活動のためにわずかなお金を寄

付します。サティヤ サイ オーガニゼーションによって金銭が要求されることは決してありません。私たちのオーガニゼーションの主要なテーマは、人々が他の人々にとって見習うべき理想として確実に存在することです。これを達成することができると、私たちは少しずつ考え方を変えていくべきです。サティヤ サイ オーガニゼーションは、カースト、信条、国籍で差別することなく、一体性をもってこれに取り組むべきです。

1988年11月21日の御講話



原理の実践

サイを手本にする

一体性が欠如すると、国家やコミュニティや社会に分裂が生じます。ですから、私たちは何よりもまず、一体性を獲得すべきなのです。サイ オーガニゼーションのメンバーは、何よりも、一体性を命としなさい。身分、信条、国籍によって人々を区別すべきではありません。サイが示す手本を見習いなさい！サイ自身がすべての人々を平等に扱うのであれば、あなたもそうすべきではありませんか？いかなる差別にも介入する余地を与えてはなりません。

真の独立、自立は一体性を培うところにあります。それゆえ、神聖な人間的価値を育むためには、まず一体性を持たなければなりません。

サティヤ サイ オーガニゼーションの威信と名誉から目を離さないようにしていなさい。皆さんが何をしても、良いことであれ悪いことであれ、それがサティヤ サイに返ってくるのです。サティヤ サイの尊厳を維持するために、誠実な行動をしなさい。オーガニゼーションのメンバーの間に、いかなる差別も内輪もめもあってはなりません。すべての争いを、愛と理解によって解決しなさい。愛は神です。神に生きなさい。

1998年11月20日の御講話
「一体性の実践」 pp.5-8

三つのサイの資質

サイ オーガニゼーションの組織の人の特徴はどうあるべきでしょうか？彼らのハートは月のように涼やかであるべきです。彼らの心(マインド)はバターのように純粹であるべきです。彼らの話す言葉は蜂蜜のように甘くあるべきです。これらの特徴がある場合にのみ、あなたはオーガニゼーションの会員になることができます。これらの三つが存在するとき、そこには神性があるでしょう。

1995年11月20日の御講話

政治的活動(権力闘争)をしない

私の恩寵を求めるこれらの求道者団体に、競争意識や派閥争いというウイルスを感染させてはなりません。

1969年11月20日の御講話

皆さんの活動は政治的活動のようになってはなりません。さまざまな種類の人々と関わることによって、それは政治的活動に変わります。私はそのような状態を好ましく思っておりません。どこにいても、バジャンに集い、分離状態を許してはなりません。すべてが一つになるべきです。

2003年1月1日の御講話

サティヤ サイ オーガニゼーションの中に、権威ある地位を獲得したり、そうした地位にいる人から地位を奪うための白熱した政治的派閥争い、派閥の形成、噂の流布、人気取りを持ち込んではいけません。人の上に立つために帰依者の間に溝や派閥を作ってはなりません！たとえ自分が中傷されても、平静さを失ってはいけません。誹謗中傷には耐えることです。ヴィシュワミトラが気づいたように、怒りは靈性修行の最大の敵です。一度の怒りの発作は、三ヵ月分の健康と能力を消耗します。

1971年5月14日の御講話

愛を通じて愛を獲得せよ

愛を通じて愛を獲得しなさい。愛を通じてのみ、多様性の中の一体性を体験することができるのです。この種の愛を通じての一体性は、プラシャーンティニラヤムでのみ見ることができます。他の場所では見られません。

1990年11月25日の御講話

荒涼とした砂漠のようなハートに愛の種を蒔きなさい。そうすれば、愛が芽吹いて荒野を歓びの緑に染め、愛の花が開いて空気をかぐわしい香りで満たし、愛の川が谷に沿ってさらさらと音を立てて流れ、鳥や獣や子どもたちが皆、愛の歌を歌うでしょう。今、セヴァ ダルはいくつかの村と町にしかいません。すべての村と町にセヴァ ダルがいなければなりません。そうすれば、人による人への奉仕が、自らの実体である神の発見を人にもたらしることができるでしょう。

1970年10月4日の御講話

相違点が私たちを分離させてはなりません。サイ オーガニゼーションの会員たちは、そのような一体性を促進すべきです。何の争いもないようにしましょう。同じ家族の子供たちのように生きなさい。世の中に、サイ オーガニゼーションに匹敵する団体が他にないほどに、良い評判を得なさい。しなさい。愛を育み、一体となって働きなさい。

1998年11月20日の御講話

例

ユディシュティラ

今日は、パーンダヴァ兄弟の長男であるダルマラージャ(ユディシュティラ)が、かつて心に秘めていた原理を、皆で深く考える必要があります。

ある日、クリシュナが兄弟たちはどこにいるのかと尋ねると、ユディシュティラは「何人かはハステイナープラの町に、他は森にいます」と答えました。

クリシュナは明らかに驚き、このように言いました。「ダルマラージャ！あなたの脳はどうかしたのですか？ご存じのとおり、あなた方五人兄弟は全員ここに、森の中にいるではありませんか。ハステイナープラの町には誰もいません！」

ダルマラージャは答えました。「失礼ながら、主よ、私たち兄弟は全部で百五人です。」クリシュナは、その発言が間違っているようなふりをして、五

人の名前を数え上げ、さらに百人が追加された理由を尋ねました。

「私の父の息子は五人です。父の兄、盲目のドリタラーシュトラ王には百人の息子がいます。彼らと戦うときには、私たちは五人、向こうが百人です。しかし、戦わないときには、私たちは百五人です。」

このように、憎悪と食欲が戦いという終焉を迎えれば、兄弟愛は壊れ、心はバラバラになります。今日、私たちのサミティ(オーガニゼーション)を含むさまざまな分野で、このような分断が明らかになっています。当然の結果として、怒り、妬み、派閥争い、摩擦が急速に増加しています。

1979年11月22日の御講話

信仰における一体性



原理の理解

真理は一つだが、信仰はたくさんある

異なる信仰を存在させ、繁栄させましょう。あらゆる言語で、さまざまなメロディーで、神の栄光を歌わせましょう。それが理想的であるはずですが。一体性という炎を消さない限りは、信仰の違いを尊重し、それらは妥当であると受け入れなさい。

1968年7月4日の御講話
「Sathya Sai Baba, Light of Love」p.64

全人類は、一つの宗教——人間という宗教に属しています。すべての人にとって、神は父です。一なる神の子として、すべての人は兄弟です。したがって、この大会は家族の集まりです。この大会はさまざまな民族や宗教の集まりなのではありません。この大会はさまざまな心の集まりです。この大会はどれか一つの文化や哲学と関係のあるものではありません。この大会はあらゆる宗教の教えの中に存在する神聖な生き方に関するものです。この大会の目的は、神性の中のユニティ [単一性／一元性／一体性] を見ることです。

1983年10月30日の御講話

一つの神がいるだけです。神は遍在です。一つの宗教があるだけです。それは愛という宗教です。一つのカーストがあるだけです。それは人類というカーストです。一つの言語があるだけです。それはハートという言語です。

1972年12月24日の御講話

ヴェーダは、人が神の祝福に感謝して神を讃え崇拝すべきだと教えています。聖書は、平和を祈り、慈善を実践すべきだと教えています。クルアーン(イスラム教の聖典)は、人間は苦しんでいる人に慈悲を示し、己の意志を神に全託すべきだと教えています。仏教聖典は、無執着と感覚制御という教訓を教えます。アヴェスター(ゾロアスター教の経典)は、悪い傾向を取り除いて、自分自身が天から授かった栄光の中で輝きなさいと、人間に説いています。グル(バルヴィカス教師)は、これらの特質すべてを吸収すべきです。それから、教訓を語り手本を示すことによって生徒に教えなさい。

1978年6月6日の御講話

イスラム教徒がアッラーとして崇拝し、キリスト教徒がエホバとして崇拝し、ヴィシヌ派は蓮の花のような目をした者として崇拝し、シヴァ派はシャンブーとして崇拝し、どこにしようともさまざまな祈りに応えて万人に健康、繁栄、幸福を授ける唯一の神、それが全人類の神なのです。

1976年10月1日の御講話

私が来たのは、誰かの信仰の邪魔をしたり、破壊したりするためではありません。各人が自分自身の信仰を強め、キリスト教はよりよいキリスト教徒となり、イスラム教徒はよりよいイスラム教徒となり、ヒन्दゥー教徒はよりよいヒन्दゥー教徒となるために、私は来たのです。

1968年7月4日の御講話
「Sathya Sai Baba, Light of Love」p.64

宗教は多くありますが、道は同じです。花はたくさんありますが、礼拝は同じです。職業はたくさんありますが、生きていくということは同じです。

1961年4月30日の御講話

万物を結びつける見方

宗教は異なるかもしれませんが、それらはすべて人間を同一の目標、すなわち神へと導きます。衣服はさまざまですが、布は同じです。装飾品はさまざまですが、金は同じです。牛の色は様々ですが、牛乳は同じです。電球のワット数、サイズ、色はさまざまですが、それらすべてを点灯させる電気は同じです。

同様に、ジーヴァ(個我)と動物は無数かつ多様にありますが、それらすべての中にある生命力は、本質的に同じものです。この万物を結びつける見方を悟ることが、グニャーナ サマツワ(真我の知識を得ること)です。

1979年6月17日の御講話
1979年ブリンダーヴァンでの夏期講習 29章

宗教は多いが、目的地は一つ

衣類は多いが、糸は一つ

宝飾品は多いが、黄金は一つ

乳牛は多いが、牛乳は一つ

… 私は「宗教は多いが、ゴールは一つ」と言い続けてきました。

2008年5月31日の御講話

あらゆる宗教の根本的真理

国や人種に関係なく、すべての宗教の根本的な真理はまったく同一です。哲学的な見解や修

行やアプローチの方法は異なるかもしれませんが。けれども、最終的な目標とゴールはただ一つです。すべての宗教は神性のユニティを宣言し、カースト、信条、国、肌の色に関わらず普遍的な愛を養うことを説いています。この基本的な真理を知らない人は、自分の宗教を理由に慢心とエゴ〔自我意識／我執〕を膨らませます。そのような人たちは、神性を断片化することによって、大きな混乱とカオスを生み出しています。無限の神性をそのような狭いところに閉じ込めて分割することは、神性に対する反逆です。霊的な生活、神をベースにした生活の基盤は、内在の神霊すなわちアートマン(神の魂／アートマ)です。体は神霊の家です。

社会生活も、この霊的基盤に従うべきです。ところが人は、実在するのは体だけ、という信念に生活の基盤を置いています。この誤りをなくすには、神霊について教わる必要があります。個人も社会も両方とも神の意志の現れであるということ、そして、神は宇宙に浸透しているということを認識する必要があります。この真理を認識することによってのみ、人は自分のエゴを手放して、義務に献身する生活を送ることができます。社会は自分本位な個々人の戦場になるのではなく、神に導かれる個々人の共同体になるべきです。

科学の進歩に伴って、人は自分が宇宙の主であると思い、神を忘れる傾向に陥っています。現代人は、月に行き、宇宙を探検していますが、もし自分たちは創造における無数の謎と不思議をまだ知らないということを考えるなら、それらは心と知性の限られた能力をはるかに超えていることに気付くでしょう。宇宙の神秘と謎を発見すればするほど、人は、神がすべての創造物の創造者であり、動機を与える者であることに気付くでしょう。すべての宗教はこの真実を認めています。人にできることは、目には見えない無限の神を理解するために自分の限られた知性と知識を使って尽力し、神を礼拝し崇めることを身に付けることだけです。

1983年10月30日の御講話

どの宗教も、心からエゴという汚れ、ちっぽけな喜びを追い求めることを取り除くという、一つの根本的な修養を教えています。どの宗教も、人に自らの存在を神の栄光で満たすよう、つまらない自惚れを払いのけるよう、教えています。高みを目指して解脱を得ることができるよう、どの宗教も、無執着と識別力という方法で人を訓練します。

どの人のハートもただ一つの神によって突き動かされているということを信じなさい。どの教義もただ一つの神の栄光を称えているということを信じなさい。どの言語のどの御名も、人が想い描くことのできるどの御姿も、ただ一つの神を指し示しているということを信じなさい。そして、ただ一つの神を礼拝する最高の方法は愛であるということ信じなさい。このエーカ バーヴァ(一つであるという姿勢)を、すべての宗派の人々、すべての国の人々、すべての大陸の人々の間に育みなさい。これが、私が携えてきた愛のメッセージです。これが、あなた方がハートに取り入れることを私が望むメッセージです。

1968年7月4日の御講話
PDF「私が携えてきたメッセージ」

この国は、人類が根本的に一つであることを強調してきました。この真理は、献身的な奉仕という方法によって、経験の中に留めることができます。インドは色とりどりの庭園です。そこにはさまざまな信仰と信条があり、そのすべてが、悟りを得るために一体性と奉仕の道を強調しています。ここではすべての宗教が、万人が万人の兄弟または姉妹であると宣言しています。それが、この国のすべての聖賢聖者のメッセージです。

1970年12月25日の御講話

あらゆる宗教は人間に、悪意、貪欲、憎悪、怒りというハートを浄めることを強く勧めています。あらゆる宗教は、この浄化プロセスを成功させるための賞品として、恩寵という贈り物を提供します。誰かよりも優れている、劣っているという考えは、エゴイズムに毒されたハートの中でのみ生まれません。誰かが、自分の方が高次元にいるとか、自分

の宗教の方が神聖であると主張するのであれば、それは、その人が信仰の核心そのものを失っていることの証です。葉、花、果物——これらはそれぞれの植物種に特有のものかもしれませんが、幹に着目すれば類似点が見えるようになるでしょう。同様に、サーダナ(霊性修行)は、あらゆる宗教の根源的な教えの中にある一体性を明らかにします。もちろん、これは難しい道ですが、いつかは全員が通らなければならない道なのです。

1969年1月13日の御講話

宗教に基づく世界の紛争

宗教は人間のハートに神聖な理想を植えつけようとしますが、人間はそれが発芽して成長することを許しません。ほとんどの場合、競争上の成功と権力を追い求める利己的な渴望が人間に働きかけて、宗教を拷問と迫害の道具として利用したのです。

それは、人類を共通の努力で結びつける代わりに、ヘイトと狂信によって守られた壁に囲い込むシステムと化しました。そのため、それぞれの宗教は、他の人を宗教そのものから引き離そうとしながら、宗教そのものからの離脱は阻みつつ、己の権力拡大の中に沈んだ武装キャンプとなっています。それゆえ、カオスと紛争の根源として宗教が糾弾されているのです。他の多くの分野においては大きな進歩があつたにもかかわらず、世界の多くの地域では今も宗教的敵意という炎が燃えさかっています。

1976年10月1日の御講話

宗教がこの状況の根本原因ではないことを強調する必要があります。派閥間の争いと狂信的な憎しみは、粗暴な利己心をエゴを自由に活動させていることによるものです。宗教は、まさにこの悪質な傾向を破壊するために努力しています。ですから、宗教は非難されるのではなく、支援されるべきなのです。非難されるべきは、世界を動かしている神秘的な力について異なる意見を持つ人々や、自分に同意しない人々を憎むという狭

量で歪んだ姿勢です。

宗教的な戦争や紛争は、無知と貪欲というスライム(粘液)の中で繁殖します。人々が、人類という家族は分かつことのできない結合体であるという真理に対して盲目であるとき、彼らは暗闇の中で手探りし、見慣れぬ感触があると恐れます。一つのカーストがあるだけです。人類というカーストです。一つの宗教があるだけです。愛という宗教です。——この真理を人間に確信させることができるのは、愛を培うことだけです。暴力を擁護したり、愛を軽視する宗教はないのですから、混乱を宗教のせいにするのは誤りです。

1976年10月1日の御講話

すべての存在は普遍なるアートマの映しであり、外見上、名前と姿形をまとっているだけです。これこそは、インドの経典にあつて、詳述され、例示されている真理であり、バーラタ文化の基盤を成

しているものです。このように、すべての宗教と信仰の神髄は、その一なるものに帰融することであり、あらゆる探求の目的は、その一なるものを知ることです。ところが、この明白な事実は無視されて、人々は散り散りになった心の大切な支えである分裂をもたらすために、自ら敵意と不安と動揺を作り出しています。

1972年12月24日の御講話
PDF「キリストが告知した人物」

信じられないかもしれませんが、今後二十五～三十年のうちに、人類全体が一つになるでしょう。ヒन्दゥー教徒、イスラム教徒、キリスト教徒など、あらゆる宗教の人々が団結するでしょう。世界には完全な一体性があるでしょう。神への信愛という精神が、バーラタ(インド)から世界中に広がるでしょう。この真理をあなたのハートの中に大切にしまっておきなさい。

2008年5月31日の御講話



原理の実践

互いに対する尊敬の念を育む

その人の宗教が何であつたとしても、誰もが他の人の信仰への敬意を育むべきです。そのような他宗教に対する寛容と尊敬という姿勢を持たない人は、自分自身の宗教の真の信奉者ではありません。自分自身の宗教の修行を厳守するだけでは十分ではありません。人は、あらゆる宗教の本質的な一体性に目を向けようとするべきです。そうして初めて、人は神との一体感を経験できるようになるでしょう。宗教の分野においては、いかなる種類の強制も強要もあつてはなりません。宗教的な事柄は、落ち着いて、公平に議論されるべきです。ある宗教が優れていて、別の宗教は劣っているという気持ちを抱いてはなりません。宗教に基

づく紛争は完全に排除されるべきです。宗教を理由に人間を分裂させることは、人道に対する罪です。

1983年10月30日の御講話

無私無欲で奉仕する

人生の充実は、無私無欲の姿勢で、何の見返りも期待せずに行う奉仕にあります。この精神で与えられた奉仕は、人間の暗い内面に光を注ぎ、ハートを広げ、衝動を浄化し、永続するアーナンダを授けます。

1970年12月25日の御講話

どのようにして各宗教の内部に違いが生じたのでしょうか？ 宗教の開祖が死んだ後、弟子たちは開祖の教えに背き、私利私欲のために内輪で争いました。時が経過するにつれて、各宗教の中に分派が現れ、別々の宗派が形成されました。これは個人的、利己的な動機の結果であり、初代の開祖のせいではありません。

人は、第一に私利私欲と自分本位を避けなくてはなりません。人は、愛と寛容と慈悲を育てなくてはなりません。人は、仲良く生きるよう努力しなければなりません。そうして初めて、私たちは国の平和と世界の幸福を愛する者であると主張できるのです。奉仕が指針であるべきです。奉仕においては、いかなる種類の相違にも余地を与えるべきではありません。社会に奉仕したいと望むなら、あなたの個人的な利益と、あなたの属する共同体の利益を犠牲にする覚悟がなくてはなりません。そのような犠牲だけが、人生を純化するでしょう。

1990年12月25日の御講話

集団のサーダナ(霊性修行)に参加する

社会の一員であるすべての人と愛と和をもって生きていくことを身につけなさい。これは、キリスト教とイスラム教の基本となっている教えです。グルナーナク(シク教の開祖)は、独りで祈るよりコミュニティで祈ることを好みました。すべての人が声をそろえて祈りに加われば、その祈りは神のハートを溶かすことでしょう。大勢の集団の中には、少なくとも一人くらい、純粋なハートで祈る人がいるに違いありません。その祈りが神に届くでしょう。それゆえ、帰依者たちは、自分の属するコミュニティのバジヤンに参加すべきなのです。帰依者たちは、コミュニティの奉仕に参加し、コミュニティでの生活に関わるべきです。これが最も崇高な道です。

1990年12月25日の御講話
(英語版の1986年は誤り)
PDF「宗教 — 愛と犠牲と一体性」

しばらく前に、タミル ナードゥ州でリキタ ジャバム(礼拝の形式として神の御名を書くこと)と呼ばれる帰依の運動が始まりました。それは集合的な(サマシティ)運動でした。多数の帰依者が一か所に集まり、神の御名を「霊性修行」として書きました。そのようなグループでの修行から得られる喜びは、言葉では言い表せないほどです。

皆で声を合わせて歌うグループ バジヤンも同じように至福に満ちた体験です。このグループで歌うことは、グル ナーナクによって始められました。グループで歌う間に、神聖なバイブレーションが生まれ、大気全体を聖別します。一人で歌っても、同じ結果は期待できません。グループで歌うことは、純粋さと神性につながる一体性を促進します。現代には、一体性も純粋性も神性もありません。今、人類が必要としているのは、人類が霊的に一つであることに基づく一体性です。

1994年12月18日の御講話

社会の中での一体性



原理の理解

人間の生活と霊性の基本原理

人間の生活は、サマター(平等心)、サマイキヤ(一体性)、サウブラトゥルトゥヴァム(友愛)、サウジャニヤム(高潔さ)に基づいています。それらは、人生という大邸宅のまさに基礎を構成しています。もしそれらのうちの一つでも欠けていたら、人生は無意味なものとなるでしょう。

2002年7月21日の御講話

サナータナ ダルマの最も注目すべき特性は、人類全体の幸福を気にかけているということです。この気遣いは、万人は一なる母の子供であるという意識から起こるものです。人々の間には、心や体の能力の違いはあるでしょう。人々が持っている主義や、人々が身につけている知識や技能の違いはあるでしょう。人々の性格もさまざまでしょう。しかし、ある一つのことに關しては、違いはありません。それは万物に共通している創造のプロセスに關係しています。それは私たちに万物は等しいということを受け入れざるを得なくさせるものです。新しい社会は、こうした考えを基盤に建設されるべきです。

1984年7月13日の御講話

人間は単なるヴィヤシティ ジーヴィ(個人)ではなく、サマシティ ジーヴィ(社会の一部)です。ヴィヤシティはジーヴドゥ(個人)に關連し、サマシティ(社会)はデーヴドゥ(神)に關連しています。人は、個人のレベルから社会のレベルへと進まなければなりません。このために定められている道とはどのようなものでしょうか？ 第一に、人はすべての中に存在するジーヴァナ ジョーティ(生命の光)という共通原理を認識しなければなりません。人は、エーカットヴァム(一体性)の原理を理解したときに初めて、サマツヴァム(平等)の原理を体験し、実践することができます。

2002年7月21日の御講話

社会は非常に重要です。あなたは社会の中で生まれ、社会の中で成長し、社会の中で死にます。あなたはほんの一瞬も社会から離れられません。社会の中でよい評判を得なさい。あなたが社会と共にあるとき、それが真の一体性です。この一体性があなたを純粋性へと導くでしょう。この純粋性は、今度はあなたを神性へと連れて行くでしょう。一体性、純粋性、神性。一体性がないところには敵意が入り込みます。今日では、社会の中に一体性も純粋性も神性もありません。そこには敵意だけがあります。したがって、一体性が必要なのです。

1993年4月9日の御講話

愛の化身である皆さん！多くの人々がジャバ(唱名)やディヤーナ(瞑想)といった異なる種類の靈性修行を行っていますが、一体性の原理に気づけずにいます。舌はラーマの御名を唱えますが、心はうつろです。これではまったく時間の無駄です。そのようにして自分の時間を無駄にする代わりに、すべての人の中に神を見ながら社会奉仕を行いなさい。それこそが本当の靈性修行です。あらゆる存在に生まれつき備わっている神性に気づきなさい。

2006年5月13日の御講話

靈性(スピリチュアリティ)とは、人里離れた場所で一人で生きることではありません。靈性とは、すべてに対して平等な見方をし、万物の中で生き、一つであるという思い(エーカートマ バーヴァ)をもってすべてに奉仕することを意味します。

1997年4月26日の御講話

すべては一つです。

誰に対しても同じように接しなさい

ただ一つのカーストがあります。

人類というカーストです。

ただ一つの宗教があります。

愛という宗教です。

ただ一つの言語があります。

ハートという言語です。

この真の思いを培いなさい。あらゆる不和から距離を置きなさい。愛を育みなさい。寛容(サハナ)を育みなさい。共に行動しなさい。一体性の中で人生を送りなさい。

1993年4月9日の御講話

不和と苦しみを除くために不可欠なもの

今日の世界の悲惨な窮状の原因は何でしょうか？不調和と差別を発展させることにより、人類は墮落してしまいました。魂の一体性を無視することによって、人間はどん底まで墮ちてしまいました。世界で平和が求められている原因は、人間の利己心にまで遡ることができます。

今、必要なのは人類全体の一体性です。あなたが一体性を育めば、あなたのハートには純粹性があるでしょう。純粹性があれば、神性があります。一体性、純粹性、神性は密接に関連しており、相互に依存しています。しかし今日の人々は一体性から離れたところを漂っています。

2008年5月31日の御講話

人が苦しんでいる原因は、自分の愛を自分と家族に止めていることにあります。すべての人は自分の兄弟姉妹であるという広い心を持つべきです。愛の拡大は生であり、愛の縮小は死です。すべての人は神の子です。すべての人は神の火花です。主クリシュナはバガヴァッド ギターの中でこう宣言しました。「ママイヴァームショー ジーヴァローケー ジーヴァブータツ サナータナハ(あらゆる体の中に在る永遠のアートマは、私の存在の一部である)。」ですから、人は自分をすべての人と見なす広い心を持つべきです。広い心がなければ人間性は決して発達しません。

1999年3月25日の御講話

アートマ(神我)においては全人類が一つであることを無視して、人間は不和や派閥争いを楽しんでいます。人は、自分と同時代の人の中で、何人かは自分の友人、何人かは自分の敵と分類します。基本的には一体性しかないところに、人が二元性をでっち上げるのです。それを反映して、愛や憎しみというすべての反応や、派閥争いや摩擦という響き渡る反響を生み出すのは、自分自身の好き嫌い、偏見、愛着なのです。友情と敵意はあなたのハートから生じます。それらは他の人々が生まれつき持っているマークではなく、あなたによってつけられたラベルなのです。同じ人物が、ある人にとっては親友であり、別の人にとっては不倶戴天の敵になります。どちらもその人の一つの行為、一つの言葉で決まるのです！

1975年5月11日の御講話

ヴァイシェーシカ学派の哲学は、間違えようのない言い方で、「あなたは自分が世の中で経験する苦しみと喜びの著者である」と断言しました。世界がどれほどあなたの喜びに貢献しているかを問うのではなく、あなた自身が社会の幸福にどれほど貢献しているかを自問しなさい。ヴァイシェーシカ学派の哲学は、私たちが社会に対して負う義務を主張します。それゆえ、人間の行動と行為が人類の安寧と幸福にどれほど貢献しているかを知ることが、人間側の義務なのです。

1993年5月28日の御講話
1993年布林ダーヴァンでの夏期講習 10章

社会の進歩の秘訣

生まれ持っている神性を示す代わりに、人は自分自身の物質的な達成という牢屋に囚われています。人間のあらゆる科学や技術の進歩よりも偉大なのは、神の意識が授けられている存在としての人間自身です。物質世界のみを現実と見なすという選択をすることで、当分の間は、科学的、技術的、物質的な社会の繁栄をもたらすことができるかもしれません。

けれども、もしその過程で人間の利己心や貪欲や憎悪が増すならば、人々が通常しているのと同じように、社会が社会を破壊してしまうでしょう。反対に、もし人間の本質をなす神性が示されるなら、人類はユニティに基づいた、そして、愛という神聖原理の順守に基づいた、立派な社会を築くことができます。この重大な変化は、個々人の心から始まらなければなりません。

物質的な快適さは社会生活の唯一の目的ではない、ということを悟るべきです。個々人が物質

的な福利のみに関心を寄せる社会では、和合や平和を達成することは不可能です。たとえ達成されたとしても、それは継ぎはぎだらけの和合でしかないでしょう。なぜなら、そのような社会では強者が弱者を抑圧するからです。自然の恵みを平等に分配しても、名ばかりの平等以外は何も保証されません。物質でできた品物を平等な分配することで、どうやって欲望と能力に関連する平等を達成できますか？ ですから、霊的なアプローチを明らかにすること、そして、心を物質的なものから各人のハートの中に鎮座している神に向き直させることによって、欲望を支配する必要があるのです。

ひとたび内在する神霊の真理(すべての中にある一つのアートマ)を知ると、世界は一つの家族であるという意識のあけぼのがやって来ます。すると、人はその人のあらゆる行いの原動力となる神の愛で満たされます。人は終わりのない欲望の追求に背を向けて、平和と平静の探求へと向かいます。物質的なものへの愛を神への愛に転換することによって、人は神を体験します。その体験は人間を凌ぐものではありません。実際、それは人間に固有の性質の一部です。それは人の人間性と神性の神秘です。

1983年10月30日の御講話

個人が変わると、社会が変わります。そして、社会が変わると、世界全体が変わります。ユニティは社会の進歩の秘訣であり、社会への奉仕はユニティを促進する手段です。ですから、誰もが献身の精神で社会への奉仕に身を捧げるべきです。

1983年10月30日の御講話

原理の実践

寛容と互いに対する尊敬の念を育む

「国は多く、地球は一つです。人は多いが、呼吸は一つです。」この真理が認識されなければなりません。空気などの大自然の資源すべては、国籍や信条や人種に関わりなく、万人が利用可能です。これが実現されなければならない「多様性の中の一体性」です。一体性から純粋性が生まれます。すべての人が兄弟姉妹として生きようと努めるべきです。誰一人として、どの国も、信仰も、文化も、批判してはなりません。この広い視野を培えば、あなたの文化は他の人々から尊敬されるでしょう。世界が今日必要としているのは、この一体性の精神です。

1995年7月11日の御講話

この真の思いを培いなさい。あらゆる不和から距離を置きなさい。愛を育みなさい。寛容(サハナ)を育みなさい。共に行動しなさい。一体性の中で人生を送りなさい。

個人が己の義務を確実に果たせば、その家族は進歩するでしょう。「サマージャ」という単語の中で、「サム」は到達したことを意味し、「アージャ」は純粋を意味します。サマージャ(社会)は、純粋性を獲得するという意味なのです。社会が進歩すると、私たちも進歩します。社会の幸福を念頭に置きながら、あらゆる活動と霊性修行を行いなさい。

1993年4月9日の御講話

必要なことは何でも言いなさい。話しすぎはいけません。真実だけを話しなさい。何が虚偽であるかという議論に耽ってはなりません。あなたに知識のない事柄について議論することはまったくの無知です。なぜならそのような無益な議論は憎しみを生み出すからです。それは一体性を促しません。無意味な議論は憎しみを引き起こします。

1996年6月21日の御講話

個人にとっての肉体は、村人にとっての村です。体内のすべての器官は、他のすべての部分と協力しながら機能します。もし足がトゲを踏んだら、痛みを感じて、目が涙を流します。もし目が路上にトゲや石があることに気づいたら、それを避けるよう足に警告します。村人たちは一つの有機体として、一体性という同一の感覚を育み、喜びや苦しみを分かち合うべきです。一体性という強みがあれば、あなた方にできないことは何もありません。

1986年5月22日の御講話

私の願いは、あなた方の間でどんな小さな誤解が生じても、いつも愛と寛容を実践しながら、自分たちの間でそれを正すことです。激情に駆られて、物ごとを口論や派閥的な分裂の炎にして燃え上がらせてはなりません。あなた方は、自分たちのハートを広くする修行、愛を表現することによって神の御足に到達する修行に従事している、ということに気づきなさい。愛、寛容、謙虚さ、信仰、そして、尊敬を培わない限り、どうして神を悟ることができるでしょう？

1970年11月20日の御講話

真理に対する怒りや憎悪を募らせると、人々はそこから離れます。彼らの愛や憎悪にかかわらず、私たちは彼らを愛すべきです。意見の相違があるために、人々は互いに距離を置きます。実際には、あなたと他の人々には違いがありません。今日、彼らは違っているように見えるかもしれませんが、明日になればあなたの近くに来るかもしれません。すべての人は兄弟姉妹なのです！それゆえ、すべての人は愛と一体性のある兄弟姉妹のように生きるべきです。

2008年10月9日の御講話

あなたは社会の鏡です。社会の幸福を常に考えなさい。他の人が幸せなら、あなたは幸せを感じるべきです。他の人が不幸なら、彼らが幸せに

なるのを助けなさい。

1997年4月26日の御講話

一つであることを見出す

無私の奉仕のみが人類に一体性をもたらすことができます。一体性を通して初めて、人類は神に到達することができます。ですから、人類の一体性を理解するためには、奉仕が非常に大事です。人々は、奉仕とは身寄りのない人や弱者を助けることだという印象をもっています。皆さんが他社に対して奉仕を行っていると考えるのは大きな誤りです。実は、皆さんはそれを自分のために行っているのです。というのも、同じアトマの原理が、同じ愛の原理が、すべての人の内に存在しているからです。すべての人間が本質的に一つなのです。ただ、感情の面にさまざまな違いがあるだけです。ですから人間は、自分の感じ方を変えて、同じ神が万人の内に宿っているという真理を認めるよう努力する必要があります。そうして初めて、人間の内に変容を起こすことができるのです。

2000年11月20日の御講話
「神に向かって飛ぶための左右の翼」
サイラム ニュース76号 pp.7-8

あなたの心(マインド)とハートを神に集中させながら、平静さをもって社会の中で行動しなさい。すべてがただ一つであるという意識とビジョンをもって生きなさい。自分が他の人々とは別個の存在であると考えないようにしなさい。そのとき初めて、あなたは神性を体験することができます。神への愛を育み、一体性に到達しなさい。

1997年4月26日の御講話

神の心にながって神聖な任務を遂行するときの精神について、ヴェーダの祈りには次のように示されています。「皆で仲良く暮らせますように。皆で共に行動できますように。調和と理解をもって、皆共に暮らせますように。一体性と友愛の情を強めていくことができますように。」私たちが一体性をもつことさえできれば、どれほどの喜びを体験できるでしょう！一体性は力です。一体性を培うためには、すべてが靈的に一つであると

いう意識をもたなければなりません。

1990年11月24日の御講話
サイラム ニュース 73号 p.6

絶えず奉仕する

人間は、社会に何も貢献せずに、社会に多くを期待しています。社会に何の良いこともしていないのに、どうして社会から良いことを期待できるのですか？あなたが社会の平和と向上を目指して努力するならば、社会もあなたの平和と向上を目指して努力するでしょう。

1993年5月28日の御講話
1993年布林ダーヴァンでの夏期講習 10章

社会に奉仕することによって、唯一性に到達しなさい。唯一性の中であなたは神の至福を見出すでしょう。一人で旅行するならば、あなたは恐れを感じ、いくつかの困難に直面しなければならないかもしれません。しかし、十人の人と一緒に旅行するならば、彼ら全員の力があなたのものとなるでしょう。一体性という力を体験することは、至福(アーナンダ)です。

1997年4月26日の御講話

誰もが、人生が続く限り仲間の人間への奉仕に献身するというディークシャ(確固たる決意)を持たなければなりません。それによって、自分は全人類と一つであると悟るでしょう。このような一体感は、神の実感認識につながるでしょう。神の実現につながります。奉仕は、利己心と自己中心性を取り除く唯一の方法です。そのような奉仕に取り組むことを決意した帰依者は、主にとって愛しい存在です。

1990年11月20日の御講話

エゴという悪を取り除くのに最も効果的な道具は奉仕です。さらに奉仕は、奉仕をしている本人に、全人類は一つであるという印象を植えつけます。己の時間と技能と力を奉仕に捧げる人は、決して敗北や苦悩や落胆を味わいません。というのは、奉仕すること自体が奉仕の報酬だからです。奉仕する人の言葉は常に甘く優しく、その動作は

常に深い尊敬の念と謙虚さに満ちています。奉仕をする人には、敵も疲れも恐れもないでしょう。

1976年8月28日の御講話

愛はすべての人間への神の贈り物です。それを社会の奉仕に役立たせなければなりません。一体性は、コミュニティの発展に必要不可欠です。人は自分の愛を他の人と分かち合わなければなりません。そうして初めて社会の一員となる権利を得るのです。

2003年11月22日の御講話

愛は神であり、真理は神であると信じなさい。愛は真理、真理は愛です。あなたに愛があるときにだけ、あなたは恐れを抱きません。なぜなら、恐れは虚偽の母だからです。恐れがなければ、あなたは真理を固く守るでしょう。プレーマという鏡は、あなたの中のアートマを反映します。そして、アートマが普遍的であり、万物の中に内在することを、あなたに啓示します。

1953年7月27日の御講話



例

五本指の物語

私たちの手には五本の指があり、それぞれに特定の義務が割り当てられています。すべての指は、任務を遂行する間、一斉に調和して働きます。

あるとき、手の五本指の中で、どの指が偉いかという議論が起きました。親指は言いました。「私なしで仕事をするのは不可能です。ですから私が偉いのです。」

すると人差し指が微笑んで言いました。「こちらをご覧ください、親指さん！あなたはどうやって、私のサポートなしで任務を遂行できるのですか？ さらに、私は人を指し示すために使われています。ですから、私はあなたよりも偉いのですよ。」

中指が割り込んで言いました。「あなた方が言っていることは的外れです。私はすべての指の中で一番背が高いのですよ。そして私の両側にはアシスタントとして仕える指が二本ずついるのです。したがって私が最も偉いのです。」

それから薬指が発言しました。「あなた方が何も知らないで私は笑いたくなってしまいます。人々が私を、ダイヤモンドやエメラルドやトパーズなどの宝石がちりばめられた金の指輪で飾っているのを知らないんですか？ですから、私があなた

方の王様なんですよ！」

最後に小指が言いました。「誰かに教訓を教え、罪を罰するとき、私はいつも前からリードします。したがって、私が皆さんのリーダーであり、皆さんは私に従う必要があります。」

指たちがこのように議論していると、ハートが口を挟みました。「おお、無知な者たちよ！あなた方それぞれが、他の指と同じくらい大切なのですよ。あなた方の間に一体性と調和がなかったら、どんな任務も遂行できません。実は、あなた方は、人間の五つの生気のような、五つの人間的価値を象徴しているのですよ。」

これらの英知の言葉を聞いて、五本指は己の間違いを悟り、恥ずかしさで頭を下げました。深い探求は、ハートが何よりも偉大であることを明らかにします。身体、心(マインド)、知能は単なる道具にすぎません。それゆえ、人はあらゆる取り組みにおいてハートの助言に従うべきです。すべては一つであり、それぞれが等しく重要であることを理解しなさい。自分だけが非常に重要な存在であるという利己的な思考に陥ってはなりません。無意味な議論で貴重な時間を無駄にしてはなりません。万人に対して友好的でありなさい。一体性と調和をもって人生の課題に取り組みなさい。

2005年8月17日の御講話

世界レベルの一体性 (スルシテイ)

自然の中での一体性



原理の理解

大自然—神の衣

大自然は神の衣です。宇宙は人間にとっての「大学」です。人は敬意をもって自然に接すべきです。人には、自然を征服したり、自然の力を利用したりすることについて語る権利はありません。人は、自然の中にその神のビジョンが見えるように進まなければなりません。

Sathyam Shivam Sundaram Vol.4, p.55

神にとって、宇宙の中にある物はすべて同じです。なぜならそれらは神の顕現であるからです。聖典はこの神の顕現について宣言しました。「サルヴァム カルヴィダム ブラフマー(このすべてがまさにブラフマンである)」。それゆえ、至高神を礼拝する人は誰でも、大自然(プラクリティ)も礼拝すべきです。彼は大自然を愛し崇拝すべきです。なぜなら、大自然は至高我と何ら変わりがないからです。大自然は結果であり、神がその原因です。

1995年4月9日の御講話

万物すべては神の意志の力の顕れです。プラクリティ(自然)は、至高神(パラマートマ)の顕現です。人は神性を顕現させ、映し出すために生まれるのです。

1997年7月19日の御講話

全世界は唯一の实在であるブラフマン〔神〕にほかならないという悟り。このブラフマンの悟りがあれば、一瞬で心さえも存在しなくなります。全世界に多様性を見ることをもたらしているのは、もっぱら心(マインド)の働きです。唯一無二を体験すれば、心(マインド)は跡形もなくなります。その意識状態では一切がブラフマンです。この境地にはプレーマ(愛)のための場所があるのみです。その愛が真理なのです。

1996年7月31日の御講話

あなた方は、大自然も神の現れであることに気付かなければなりません。ですから、自然が無視されてはなりません。自然は結果であり、神がその原因です。あなた方は、全宇宙に神が内在していることを認識すべきです

1996年6月20日の御講話
PDF「無私の愛と固い信心」

内面に求める

現代人は、自然と宇宙に関するすべてを知っていると空想しています。ですが、もし自分自身を知らないのであれば、その知識の一切は何の役に立ちますか？ 自分自身を理解したとき、初めて外の世界についての真実を知ることができるようになるのです。外の世界を探索することによって、人間の内なる実在を知ることはできません。目を内に向け、自分の本質をなす神性を悟るとき、人は万物への平等心を手に入れます。すべては一つという思いから、人間は人智を超えた至福を体験するでしょう。

1983年10月30日の御講話

あなたがこの世界で見るものは、何であれ真実(サティヤ／真理)の顕現です。神性が至るところに充満しているというのに、どこに真実でないもの(アサティヤ)が存在できるでしょう？ ところが、あなた方は神性の遍在を実感できません。目を内

に向け、完全な静寂を守りなさい。そうして初めて、遍在の神性を実感することができます。ただ知性を訓練するだけでは、その助けにはなりません。何を見ようと、何を聞こうと、何を体験しようと、それは神性の顕れです。神だけがあらゆる場所に存在しているのです。

2004年11月22日の御講話

外的世界の中であなたが目にするものすべては、小宇宙から大宇宙まで、あなたの中に存在します。山、海、町、村などは、あなたのハートの中に存在します。生きとし生けるすべてのものがあなたの中にいます。あなたは万物の土台です。そのような場合に、あなた方が外的世界の中で見たいものとは何でしょうか？ 外側の反射に夢中になって、内なる実体を無視するのは、あなたにとってどれほど愚かなことでしょうか！

2002年7月21日の御講話

原理の実践

自然を敬うことを通じて、神を礼拝する

あなたに神の力を授けてくれる礼拝の一形態について話しましょう。至高神は、まず始めに、空、風、火、水、地という五大元素となって自らを表しました。一切の創造物は、二つ以上の元素がさまざまな割合で結合したものにすぎません。……五大元素には神が満ちているのですから、人は畏敬の念を持って、謙虚に、感謝して、五大元素を使わなければいけません。

ですから、五大元素を効果的に使うことは、それ自体が一つの礼拝の形態となるのです。肉体には一定の体温を持つ機能が備わっており、体温がそれ以上や以下になると、人は健康でいること、活動的であることができなくなってしまいます。自然(プラクリティ)は本質的には神そのものです。「イーシャーヴァースヤム イダム サルヴァム(このすべては神で満ちている)」「ヴァースデーヴァス

サルヴァミダム(このすべては神である)」)。ですから、静かに歩き、畏敬の念を持って動き、感謝して使いなさい。

1966年10月15日の御講話

自然から学ぶ

自然(プラクリティ)はあなたの学校であり、研究室であり、解脱への入口であり、神の多様な尊厳のパノラマです。その教訓を知ろうと努めなさい。自然は教える準備ができています。自然界にあるものはすべて、あなたと同様にブラフマン(神)です。ですから、どんな行為も神であり、どんな仕事も神への礼拝なのです。すべてはブラフマン(神)であるということへの信仰を堅固な基盤として、あなたの人生という家を建てなさい。

1970年10月4日の御講話

一体性という原理を理解して、あなたのハートに神を安置しなさい。一体性という原理を抜きにして多様性はあり得ません。一体性を理解しなければ、自然の多様性を理解することはできません。自然は最高の伝道師です。プリーティ(愛)をもって、この伝道師が示した理想に従いなさい。

愛を育てれば育てるほど、より早く神を見ることが出来ます。肉体への執着はあらゆる相違の原因です。肉体への執着を捨てたとき、初めてあなたは多様性の中の一体性を理解し、体験するでしょう。ひとたび肉体への執着から自由になれば、その瞬間に神を体験できます。何であれ、あなたが見るものはすべて神の顕現です。多様性の中の一体性という原理は神です。ところが、あなたはこの真理を理解すること、正しく認識することが、できていません。この真理を理解するには、あなたの気持ちがすっかり変わってしまわなければなりません。外の景色の色は、掛ける眼鏡の色のおりになります。肉体への執着という色付きの眼鏡を外して、実在を見なさい。

2004年11月22日の御講話
PDF「完全な静寂の中で内なる神性を体験せよ」

空気のような自然のあらゆる資源は、国籍や信条、人種に関係なく万人が利用できます。これは実現しなければならない多様性の中の一体性です。一体性から純粋性が生じます。万人が兄弟姉妹として生きようと努めるべきです。誰一人として国家や信仰や文化を批判すべきではありません。あなたがこの広い視野を培えば、あなたの文化は他の人々から尊敬されるでしょう。世界が今日必要としているのは、この一体性の精神なのです。

1995年7月11日の御講話

神レベルの一体性 (パラメーシテイ)

一体性は神性

• • • • •

原理の理解

人間は神である

至高我と個我は同じです。個我もまた神です。この一体性を実感認識する人は真の悟りを得ています。

2000年5月20日の御講話
2000年布林ダーヴァンでの夏期講習 7章

あなた方は皆、神の化身です。あなたの姿は神です。あなたと神は一つです。あなたは神と異なっていません。この一体性を体験しなさい。真理は一つ(エーカム サット)です。一体性が真理です。一体性が神性です。

2004年10月25日の御講話

あなたはソーハム(私はそれである)の意味を熟考しなければなりません。あなたは誰ですか？あなたは「それ」です。あなたは神の火花です。あなたは、今あなたが自分自身と同一視している身体や感覚や心(マインド)や知能などではありません。あなたは神です。あなたはこの肉体に縛られているという迷妄に囚われているだけなのです。この種のサーダナ(霊性修行)は、すべてのサイワーカーにとって必須です。なぜなら、それだけが彼らにシャーンティ(平安)と最も貴重な贈り物であるプレーマ(愛)を与えられるからです。それは彼らの物の見方を変え、以前は言語、宗教、国籍、信条、色、カーストという多様性に惑わされて見えなかった一体性を見えるようにします。

1978年6月6日の御講話

ブラフマン〔神〕とアハム〔我／私〕は同一です。二者の同一性を悟るために、サーダナに着手しなさい。それこそが「神への道」です。もし神を瞑想したいなら、決してあなたの思考が世俗のものによって乱されるのを許してはなりません。あなた自身の本性を瞑想しなさい。あなたの本性は神性です。その神性の中には他の一切が含まれています。このようにして、あなた自身に生まれつき具わっている神性を瞑想するなら、あなたと神性は一つであることを悟るでしょう。実は、その一体性こそが神性なのです。

2004年10月25日の御講話

神に特定の名はありません。神は人間の中にアートマという形で存在します。アートマとは何を意味するのでしょうか？アートマが意味するものは愛のみです。万人をつなぐものは、愛です。もしあなたが、この一体性の原理を自分のものとするならば、すべては一つになるでしょう。あなたがこの一体性に到達すれば、純粋性を得るでしょう。あなたに純粋性があれば、あなたの中にアートマタットワ(真我の原理)が顕現するでしょう。ですから神性に到達するためには、一体性がなければなりません。私とあなたは一つです。神とあなたは一つです。神はあなたから離れたどこか遠い所にいるわけではありません。あなた自身が神なのだという想いを育むべきです。あなたが「私」と言うとき、それは一体性を表しています。一体性から派生する至福を評価することはできません。すべて

は一つです。

2007年12月15日の御講話

名前と姿が脇に置かれ、根本的な源が確認されたとき、初めて真理を認識することは可能となるのです。……この真理を悟ることができたとき、皆さんは「私」の原理が、この宇宙のすべてのものに、一体性の原理として横たわっていることを見いだすでしょう。私たちは、普遍なる「私」の原理を認識しなければなりません。……皆さんが悟らなければならない唯一の様相は、「私はブラフマンである」というものです。

2004年10月20日の御講話

バガヴァッド ギーターは、「ドリタラーシュトラ ウヴァーチャ ダルマクシェートレー クルクシェートレー」(ドリタラーシュトラは言った。ダルマクシェートラ[ダルマの地]であるクルクシェートラ[クル族の地])という一節から始まります。「ダルマクシェートラ」はアートマの座です。「クルクシェートラ」は身体であり、あらゆる活動の源泉です。それは、アートマと身体の結合体であり、人間の苦境を説明する「クシェートラ クシェートラグニャ」の関係です。アートマを忘れ、「デーハ ダルマ」(身体の主張)に関与することによって、人は無限の苦しみに身を委ねています。人は嘆くに値しないものについて悲しみ、己を悲しませるべきであるものについて悲しみません。この迷妄の状態は、人が自分自身を身体と同一視し、内在する神性を忘れた結果なのです。もし人が、自分はオムニセルフ(すべての真我)と一つであることに気づけば、悲しみの原因はなくなるでしょう。彼は、己の霊的実体の中に真理と至福が内在していることに目覚めるでしょう。

1988年1月9日の御講話

このように、至高神の持つ神聖な性質はこの肉体に包まれています。ですから、外側の包みに満足しているべきではありません。神性は私たちに内在しているのです。皆さんはまさしく神なのです！神はすべてに遍満しています。ですから、皆さんもすべてに遍満しているのです。神性はあら

ゆる生き物の中に存在しているのと同じように、皆さんの中にも存在しているのです。

もしあなたが神を見たいのなら、純粋で、揺らぐことのない、無私の生活を送らなければなりません。この物質世界の中で見えるあらゆる多様性はごみ屑です！ですから、多様性を取り除いて一体性を育みなさい。一体性のあるところには純粋性があります。純粋性があるところには神性が顕現するでしょう。

実のところ、あなたは一人の人間ではないのです。あなたの中には三人の人間がいます。それは、①あなたが自分だと思っているあなた、②他人があなただと思っているあなた、③本当のあなた、です。皆さんはまさに神聖なアートマの化身です。この真理を認識することなく、皆さんは体や心(マインド)や知性を重視しながら生活を送っています。これらはすべていつの日か朽ちてしまうものです。

2006年8月16日の御講話
「アティルッドラ大供儀祭」p.104

不二一元の体験

ヴェーダーンタの用語で、グニャーナは「アドワイタ ダルシャナム(即座に一なるものを認識すること)」と定義されています。それは、さまざまな「多様性の中の一体性」の中に「一なるもの」を見ることがです。この集会には何千人もの人々がいます。彼らの名前と姿は多岐にわたっています。しかしあなたは、彼ら全員のアートマ原理は同一であることを認識しなければなりません。このことを言葉で語るだけでは十分ではありません。あなたはそれを実体験としなければなりません。そのとき初めて、永続するアーナンダ(至福)を体験することができます。そのような人物だけが、グニャーナ(至高の英知を知る者)と呼ばれ得るのです。

1989年10月4日の御講話

不二一元の状態は、愛の原理だけに含まれているものです。けれども、人は、体への執着と身体的な人間関係に心を奪われて、自らの愛をさまざまな方法でバラバラにしています。言葉本来の

意味においては、それは愛とは呼べません。愛を育てる必要性をスワミが何度も繰り返し強調しているの、人々の中には愛はどんな姿形をしているのかと思っている人もいるかもしれません。その答えは「プレーマ イーシュワラ ヘー、イーシュワラ プレーマ ヘー(愛は神、神は愛)」です。愛はすべてのものの根本的な土台です。アートマ[真我]、ブラフマー[梵天]、フリダヤ[ハート/フルダヤ]、ウニキ(存在)は、愛の同意語です。愛はアートマです。愛はブラフマーです。すべてのものは愛で満ちています。そうであれば、どうやって愛の姿形を説明することなどできるでしょう？ 同じ愛の原理があらゆるものの中に存在しています。一度この一体性の原理を理解すれば、憎しみが存在する余地はなくなるでしょう。

2000年7月16日の御講話

ヴェーダは、人が自分自身に勝利するため、すべての創造物の根底に横たわる一体性を発見するため、そして、すべてを一つにする真理との接触到打ち震えるための、原初の経典です。「サルヴァブータータラートマ(神はすべての生き物の内なる実存である)」「イーシャーヴァースヤム イダム サルヴァム(このすべてが神で覆われている)」「ヴァースデーヴァハ サルヴァミダム(このすべては神である)」とヴェーダは明言しています。

すべての人の内にある神性原理は、私の前にあるこれらの電球を、さまざまな色、さまざまな明るさで灯す、電流のようなものです。教義、肌の色、種族、地域に関わらず、同一の神が一人ひとりの内におり、一人ひとりを通じて輝いています。電流は、すべての電球に活力を与え、活性化させます。神は、すべての人に活力を与え、活性化させます。違いを見る人は惑わされます。そして、偏見、利己心、憎しみ、敵意で覆われてしまいます。愛はすべての人を一つの神の家族と見ます。

1968年7月4日の御講話

サレンダー(降伏、全託)とは、あなたが敗北し、もう一人が勝利したことを意味するものではありません。霊性においては、それは二つのものが一つ

に融合することを意味します。そこには与えたり受け取ったりといったことは何ともありません。あらゆる場所に行き渡っている宇宙的一体性を認識なさい。この一体性の基盤にあるのは神に他ならないことを受け入れなさい。そうすればあなたは自動的に神を体験するでしょう。

2000年5月24日の御講話
2000年布林ダーヴァンでの夏期講習 11章

あなたの中には愛というただ一つの原理が存在しています。しかし、あなたは多種多様な方法でそれを分散しています。皆さんは愛にはさまざまな形があると思っていますが、それは皆さんの想像にすぎません。霊性の原理を理解する努力をなさい。自分はアートマの化身であり、この世には第二の存在はいない、という揺るぎない確信を持ちなさい。母、妻、子ども等のあらゆる世俗的な人間関係は、あなた自身が作り出したものです。それは一時的な関係であって真実ではありません。そのような世俗の人間関係に惑わされるべきではありません。あなたの真の王国、すなわちアートマを固く信じなさい。この世界を信じてはなりません。あなた自身を信じなさい。神があらゆる場所にいることを固く信じなさい。「その手、足、目、頭、口、耳を万物に行き渡らせ、神は全宇宙に遍満している。」

2004年10月17日の御講話

バクタ(帰依者)は、全世界は神の顕れであり、神が浸透している、ということをつつも意識しています。バクタの生活は、神は万物に内在しているという認識に基づいています。この心(マインド)の状態は、「プレーマ アドワイタ」(愛の中での不二一元/愛の中で一つであること)と呼ばれます。この愛によって、バクタは自分が神と一つであることを体験します。……主への絶え間ない愛が、その人にとってのすべてとなります。こうしたバクティは、「アナニャ バクティ」(一なるものへの完全なバクティ/不異のバクティ)と称されています。

1986年1月19日の御講話

原理の実践

別々の存在であるという思いを取り除く

自分を神は別々の存在であると考えてはなりません。この一体性の原理原則を認識する人が真の人間です。神への礼拝を祭日のみに限定してはなりません。神を憶念しながら、あらゆる瞬間を過ごすべきです。

あなたは「すべての時間を神を憶念しながら過ごすなら、どうやって自分の仕事をするのが可能だろうか？」と思うかもしれません。自分の仕事と神の仕事を区別してはなりません。あなたと神は一つなのですから、あなたの仕事は神の仕事です。礼拝堂でする仕事だけが神の仕事で、礼拝堂の外でする仕事は自分の仕事、などと考えるはなりません。そのような分離感を抱いてはなりません。あなたのハートを神の祭壇と見なして、目を内に向けなさい。この真理を理解して、それに従って生きる者こそ、真の人間です。

2000年9月1日の御講話

愛を強く打ち立てるとき、人は神と一つになるために神へと帰融する資格を得ます。

1991年10月18日の御講話

愛は神です。神は愛です。愛に生きなさい。そうして初めて、皆さんは一体性の原理を悟り、人生において成就を得ます。……あなたと私は一つであるという一体感を育てなさい。決して私とあなたは違うなどと考えるはなりません。それが真のバクティのしるしです。

「I」〔私〕という文字は、一つであることを表しています。「あなた」(個人という自己認識)というものは、純粋性を育てて神との一体感を味わえば、存在しなくなるでしょう。ですから、二元的な感情を捨てなさい。一体性の原理は、愛を通して体験しなければなりません。それは言葉では説明できません。しかし、皆さんは愛というものの本当の意味を理解していません。皆さんは、身体的、世俗的な感覚で愛を解釈しています。その結果、あな

た方の愛はまったく一様ではなく、折りに触れて変わり続けています。体への執着によって愛を汚してはなりません。……一体感(エーカトマ バーヴァ(一つの真我がすべての中にあるという感覚))を育てなさい。すべては一つです。誰に対しても同じように接しなさい。

2005年4月13日の御講話

エゴを避ける

人は「私」や「私のもの」という意識を取り除いたときに初めてアートマ原理(アートマ タットワ)を体験することができます。今日、多くの人がアートマ原理を理解しようと努めています。しかし、「私」や「私のもの」という意識を取り除くことができないので、彼らの努力は成功しません。実はそれらが真我実現の障害なのです。

何よりもまず、「私が」という意識(エゴ)を手放さなければなりません。そうすれば悟りが得られるでしょう。キリスト教のシンボルである十字架(+)は、「I」(私)というエゴを絶つことも意味しています。「私が」という自己中心的な主張が、あらゆる悲しみ、悩み、困難の根本原因なのです。人はこの真理を実感認識しなければなりません。「私のもの」という意識もまた捨て去らなければなりません。師が「これらは皆私の弟子である」と考えるなら、そこでもエゴが鎌首をもたげるでしょう。それゆえ「私」や「私のもの」という意識は取り除かれなければなりません。そうして初めて、アートマ原理を実感認識することができるのです。

2008年7月18日の御講話

PDF「バガヴァッドギーターは神の息吹」

平等な見方を育む

私たちには友人と敵、好きと嫌いがあります。一方、ヴェーダーンタは私たちに平等な心を育むよう教えます。自分の歯が誤って舌を噛んでしまったとき、私たちはどちらの器官も自分の身体の一部であると考えるので、歯を罰したりしないように、私たちは、永遠の普遍なるアートマが万人の

中に、あらゆる場所に存在することを心に留めておかなければなりません。私たちは、違いを強調するのではなく、一体性に集中すべきです。

もし私たちが身体的な関係にこだわるならば、個人差が目につくでしょう。その一方で、教師、友人、俳優、師、弟子は、名と姿だけが異なっているのだということを、私たちは覚えておかなければなりません。それらすべての照覧意識であるアートマは同一です。これらすべての名と姿の中にあるアートマの存在が、それらすべてが一つであることを証明しています。

1973年6月5日の御講話
1973年布林ダーヴァンでの夏期講習 16章

思いやりをもって生きる

万人が結束し続けなくてはなりません。一体性があるところに純粋性があります。純粋性があるところに、神性があります。皆さんのすべてが、一体性、純粋性、神性というこれら三つの側面から目を離さずに、生活しなくてはなりません。

他者の困難や苦しみに無関心ではなりません。彼らの苦しみを、あなた自身のものであるとして受け止めなさい。すべての人のハートの中に棲むのは、ただ一つの神です。「イーシュワラサルヴァターターナム〔神は万物に内在する〕」。蟻や蚊の中にさえも神は内在します。ハートの中には慈悲の心があるべきです。

2008年7月20日の御講話
PDF「エデュケアを發展させ、団結しなさい」

もしあなたが自分の体ではなくアートマを愛するならば、あらゆる存在の中心核は同じアートマであるということに気づき、自分を愛するのと同じくらい、すべての存在を愛し始めるでしょう。これが本当の悟りです。

1971年8月1日の御講話
PDF「愛に生きよ」

人々は愛の本当の意味を理解していません。彼らの愛は、肉体的で世俗的な感情に汚染されています。あなたが愛の原理を理解し、愛と愛の関係を育めば、すべてが一つになるでしょう。ヴェーダは「サハスラシールシャー プルンヤハ」と言います。それは、すべての頭、すべての目、すべての足が神のものであることを意味します。あなたがひとたび、すべての中に存在する一なるものという原理を理解すれば、兄弟愛という真の精神をもって、調和の中で生きることができます。

2005年8月17日の御講話

純粋な愛を育みなさい。なぜなら、純粋性は一体性であり、一体性こそが神性であるからです。あなたの個人的な愛を、純粋な神への愛へと変容させなさい。

しばしば、人々は自分に対する神の愛が変わってしまったのではないかと疑いを持ちます。断じて違います。神の愛は、決して変わることはありません。たとえば、丸太を一本持っていたとします。それで椅子やベンチなど、どんな種類の家具でも作ることができます。けれども、原材料である木は同じままです。同様に、神の愛はつねに不変であり続けます。

2005年10月11日の御講話
PDF「神のヴィジョン」

神は愛の化身です。神にはまったく私心がありません。ですから、神に従う者にも私心があってはなりません。あなたのハートが神聖な愛で満ちているとき、全宇宙の中の唯一性をつきとめることが可能になります。その一体性がハートに浸み込んでいるとき、他人への憎悪が入り込む余地はなくなります。そして、すべての存在は一つであるという体験と共に、永遠の愛がハートの中に定着するでしょう。ですから、神に従い、神の愛を心に植えつける者たちは本当に幸運なのです。

2001年11月19日の御講話
PDF「善良は母の国の誇り」

例

仏陀

仏陀が教えたのは、アートマの一体性の原理がこの世界において唯一、真実の原理であるということでした。己の靈的知力を使うことによってそれを悟る者が真の仏陀である、と仏陀は言いました。この世界にはアートマ以外何も存在しません。

2006年5月13日の御講話
「2006年講話集」p.150

仏陀は教えました。私たちは怒りを持つべきではない、他人のあら捜しをすべきではない、他者を傷つけるべきではない、なぜならあらゆるものは純粹で永遠なるアートマの原理の具現なのだから。貧しい人々に対する慈愛をもって、可能な限り助けなさい。皆さんは食べるものがない人のことを貧しい人と考えています。お金や食べるものがないというだけで、その人を貧しい人と呼ぶことはできません。本当のことを言えば、誰も貧しくはないのです。すべての人は貧しいのではなく、豊かなのです。皆さんが貧者だと考える人々は、お金を持っていないかもしれませんが、すべての人にフルダヤ(ハート)という富が授けられています。

根底をなすこうした一体性の原理と、すべてに内在する神性を理解し、尊重して、至福を体験なさい。誰それは自分の友人で、誰それは自分の敵で、誰それは自分の親類などといった狭量な考え方を持つてはいけません。万人は一つです。誰に対しても等しくありなさい。これは皆さんの第一の義務です。これが仏陀の最も重要な教えです。しかし、人々は仏陀の教えを探究せず、仏陀のハートの神聖さを理解していません。人々は仏陀の物語を話すだけです。

本当のことを言えば、仏陀は一人の人間ではありません。皆さん全員が仏陀です。一度この真理を理解すれば、皆さんは至るところに一体性を見ることでしょう。一見すると多に見える中に一体性があります。たくさん鏡に囲まれると、たくさんの自分自身の反映が見えます。反映はたくさんありますが、人物は一人です。あなたの反動、反映、

反響はたくさんありますが、実在は一つです。

ここで私が話していると、このホールにあるすべてのスピーカーを通して私の声が聞こえます。これと同じように、私たちが気づかなくてはならない一体性の原理が、私たちのハートの中に存在しているのです。人間の生涯は、その人の心(マインド)が一体性の原理を体験したときに、初めて充実したものとなります。自分たちの心(マインド)を団結させることなく、人々の間に一体性をもたらそうとしても無意味です。

「マナ エーヴァ マヌッシャーナム カーラナム バンダ モークシャヨー (心(マインド)は人を束縛する原因であり、解脱させる原因でもある)。」皆さんは誰かを見て、あの人は悪い人だと言います。また別の人を見て、あの人はいい人だと言います。しかし、実際には、善悪は周りの人々にあるのではなく、あなたの心(マインド)の中にあるのです。皆さんは、このハンカチは白で、このマイクは黒だと言います。色の違いは皆さんの目が知覚するものですが、本質的に黒と白は一つであり同じものです。すべての人が、多様性の中に一体性を見ることができるよう努力すべきです。そうして初めて、人は神性を体験することができるのです。

2006年5月13日の御講話
「2006年講話集」pp.153-154

このはかない束の間の世界において、真理かつ永遠なるものが一つあります。それは神です。それこそ私たちが到達したいと切望しなければならないものです。

「サッティヤム シャラナム ガッチャーミ(真理に帰依し奉る)」「エーカム シャラナム ガッチャーミ(唯一性の原理に帰依し奉る)。」この世界ではあらゆるものが神の具現です。神以外の第二の存在はありません。世界全体を支配しているのは神性原理です。

この真理を悟った仏陀は、弟子たちと共に村々を回って、それを人々に伝えました。仏陀は

一度も休憩したいと思いませんでした。この無上の知識を人類同朋と分かち合うことが自分の義務だと考えていたからです。仏陀の父シュッドーナさえも、仏陀のもとにやってきました。そして、真理を認識して変容しました。

仏陀は何を教えたのでしょうか？誰もが同じ神性原理を授けられているということを、仏陀は教えたのです。「エーカム サット ヴィップラーツ バフダー ヴァダンティ（真理は一つ、しかし賢者はそれをさまざまな名前で呼ぶ）。」

クリシュナは「バガヴァッド ギター」の中で仏陀と同じメッセージを伝えています。あらゆる生き物は神自身の反映であり、一人として神と異なる人はいない、とクリシュナ神は言いました。

仏陀はこの真理を悟るために大きな困難を経験しなくてはなりません。仏陀と同時代に生まれた多くの崇高なる人々は、仏陀の偉大さを認めていました。そして、自分たちには悟ることのできなかつた真理を仏陀は体験したと言いました。仏陀はあらゆる欲望を放棄したので、完全なる捨離の権化となりました。仏陀の中には愛の他には何もありませんでした。仏陀は愛を命の息吹と考えました。愛を失えば、この世界は虚空となるでしょう。

2006年5月13日の御講話
「2006年講話集」pp.150-152

仏陀が説いた原理には深遠なる意味があります。しかし、人々はそれを理解しようとしていません。皆さんは仏陀は巻き毛だったということに気づいたかもしれません。一束の髪の毛をもう一束と絡ませていました。これは、根底をなす一体性のメッセージがあります。

仏陀の心の中にはただ一つの思い、愛の思いしかありませんでした。仏陀は「ダルマム シャラナム ガッチャーミ(ダルマに帰依し奉る)」「プレーマム シャラナム ガッチャーミ(愛に帰依し奉る)」ということを教えました。愛が失われたら、人間性は存在しません。

相手が貧しいか、お金持ちかという事実に関係

なく、私たちはあらゆる人を愛するべきです。愛を仲間と分かち合う基準はお金ではありません。お金は重要ではありません。お金は生じては去りますが、道徳は生じると育ちます。他の人を傷つけてはなりません。つねに助け、決して傷つけてはなりません。そうして初めて、皆さんは仏陀の境地に到達することができるのです。

もし、皆さんが神性の中の一体性という原理を実感しないなら、長い講義をしても役には立ちません。皆さんは、神を、ラーマ、クリシュナ、仏陀、サイなど、いろいろな名で呼んでいるかもしれませんが、それらはすべて、まったく同じ神性の原理が化身したものです。皆さんのハートの祭壇に、唯一性という花を飾り、その芳香をあらゆるところに広げなさい。

2006年5月13日の御講話
「2006年講話集」pp.154-155

皆さん全員の中には、まったく同じ愛という神性原理が存在しています。皆さんが愛の道をとるならば、皆さん自身が仏陀となることでしょう。今日は仏陀プールニマーです。プールニマーとは満月を意味します。心(マインド)は満月の要に完全なる清らかさで輝くべきである——これが仏陀プールニマーの根底にあるメッセージです。

心(マインド)は自らの源、すなわち、純粋で光り輝くアートマと結合しなくてはなりません。満月の夜に暗闇はありません。仏陀プールニマーというこの吉祥なる日に、私たちは心(マインド)の完全な清らかさを獲得すべきです。

プールナマダ (ハ) プールナミダム

プールナー (ト) プールナムダッチャター

プールナッスヤ プールナマーダーヤ

プールナメーヴァーヴァシヤター

(あれは完全、これは完全。)

完全なるものから完全なるものが生じ、
完全なるものから完全なるものを取っても、
完全なるものが残るのみ)

私たちはこの真理を認識しなければなりません。

2006年5月13日の御講話
「2006年講話集」p.156

シルディ サイ ババ

1917年に、ババがアブドゥル ババ、ナーナー
チャンドルカル、マハルサパティ、ダス ガヌー、そ
他の人々を呼び、一人ひとりに尋ね始めたこと
がありました。「お前は自分が何者か知っている
か？」各自が「私はあなたのシシヤ(弟子)です」と
答えると、ババは言いました。「なんと愚かな！今
後一切その言葉を使ってはならない。この世に私
の弟子は一人もいない。私には数えきれないほど
の帰依者がいる。お前たちには弟子と帰依者の
区別がついていない。誰でも帰依者にはなれる。
しかしそれは弟子であるということではない。弟子
とは、暗黙のうちにグル(師)の命令を実行する者
のことである。シシヤの印は、師に対する完全な
献身である。弟子なら、師から離れているという
感覚をまったく持たず、あなたと私は一つと感
じるはずだ。」

1990年9月28日の御講話

私がシルディ サイ ババに化身していたとき、一
部の人々は私の言動の微妙な意味を理解できま
せんでした。彼らはババのところに来て、「ババ！
あなたが来ると約束したので、私たちはあなたを
待っていました。なぜ私たちを失望させたのです
か？なぜ私たちをそんなに苦労させるのです
か？私たちがどんな罪を犯したのでしょうか？」

ババはこう答えたものでした。「お前たちは本当
にとっても愚かだ。私はお前の家に行ったが、お前
が私を棒で追い払ったのだ。」

この帰依者たちはいぶかしんで言いました。
「何ですって、ババ！私たちがこれまでにあなた
を棒で追い払うなんて冒瀆を犯したことがあります
か？」

それでババは、自分が黒犬の姿で彼らの家に行
ったことを話しました。このようにして、ババは
生きとし生けるものすべての中に神が存在してい

るという真理を示したのです。

1996年7月14日の御講話

ラーマクリシュナ パラマハンサ

ラーマクリシュナ パラマハンサは、いつも一日
中ずっと、さまざまな方法でカーリー女神を礼拝
していました。ある日、カーリー女神が目の前に
顕れて尋ねました。「ラーマクリシュナ！そなたは、
日増しにおかしくなっています。そなたは特定の
姿の中の私を崇めています。なぜ、この姿、あの
姿、と私を限定するのですか？実際には、あらゆる
姿は私のものなのです。誰に出会っても、その
人を神性の化身と見なさない。」

2005年10月9日の御講話
PDF「心の清らかさが真のサーダナ」

何人かの人々がラーマクリシュナ パラマハンサの
周りに集まり、彼に尋ねました。「先生、あなたは
神をご覧になったのですか？」ラーマクリシュナは
心から笑い、言いました。「はい！私はあなたを見
ているように神を見ました。すべては神の御姿で
す。しかし、あなたの目に見えるものはそうではあ
りません。あなたはすべての人を人間として見て
います。しかし、あなたが見ているものすべては
神なのです。なぜあなたは神を見ないのです
か？あなたは自分の妻、自分の子供、自分の財
産、自分の地位のことで泣きます。あなたはこれ
まで、神のために同じように泣いたことはありま
すか？あなたは自分の富と地位について泣きます。
同じように神様のために泣いたことはありま
すか？ありませんね。神のために激しく泣けば、あ
なたの前に神が現れるでしょう。」悪い性質を放
棄すれば、すぐにあなたは神を体験するでしょう。

1996年8月27日の御講話

人生の終末に近づいていたラーマクリシュナ
パラマハンサは、喉のガンに苦しんでいました。
彼の弟子たちは皆、ラーマクリシュナが崇拝した
母なるドゥルガー女神に、病を緩和してくださいと
祈るよう彼に訴えました。ラーマクリシュナは「私は
母に祈りました」と語りました。弟子たちは、母が
何と答えたか、尋ねました。ラーマクリシュナは言

いました。「母は私に言いました。『私がこんなにたくさんの口でたくさんの物を食べているというのは、あなたが一つの口で食べられないということが、何かたいへんな問題なのですか？』彼女の言葉は私の目を開きました。

すべての口は神の口です。ヴェーダは、神は無数の頭と無数の目と無数の足を持っていると宣言しています。これは、すべての頭が神のものであり、すべての目が神のものであり、すべての足が神のものであるという意味です。

1997年12月25日の御講話

イエス キリスト

サーダナは、この一体性を実感認識するための精神的鍛練と知的努力の名称です。イエスは、他の人が幸せなときは幸せになり、他の人が悲しんでいるときは悲しむように、人間のハートの中に愛と慈悲を吹き込むため、自分の命を犠牲にし、血を流しました。

1976年12月25日の御講話

イエスに関する論争がありました。これらの不一致が、彼が経験しなければならなかった試練の原

因でした。しかし、イエスにはどんなトラブルや罰にも直面する心構えがありました。彼は慈愛を最高の資質と考えていました。彼は最初に、自分は「神のメッセンジャー」と宣言しました。次に、「私は神の子である」と発表しました。最終的には「私と父なる神は一つである」と宣言しました。あなたはこの一体性に着目しなければなりません。あなたは、己の多様性ではなく、一体性を宣言しなければならないのです。

今日の人々は一体性について話していますが、それを実践していません。すべての講話の中で、スワミは愛について語っています。何人がそれを実践していますか？何院が愛の原理を理解しようと努力してきましたか？誰がこの愛を持っているのですか？愛がどこにも見えません。

愛があるところに、憎しみの余地はありません。誰をも妬んではなりません。この邪悪な性質が現れたら、愛は逃げ出します。純粋なハートが愛の住処です。純粋性があるところに一体性があります。一体性は神性につながります。

1997年12月25日の御講話

一体性がサティヤ サイ アヴァターの目的

三位一体の化身の使命

質問： それでは、この三代にわたる化身の聖なる使命と目的は何ですか？

ババ： 宇宙という構造の基盤であるすべての男性女性の中に一体性を確立し、一つのカーストまたは家族の中に全人類を結束させること——すなわち、真我を悟ることです。一度これを実現すれば、人と神を人と結びつける共通の神聖な遺産が明らかになり、宇宙の導く光として愛が広がるでしょう。

私たちは、思い、言葉、行動を相互に関連付けた統合を育むために、神を悟らなければなりません。この主要なレッスンが、家庭、学校、大学、社会、都市、州、世界の国々で教えられると、人は全人類が一つの家族に属しているという事実を自覚するようになります。キリストが説いたように、すべては一つです。全員に対して同じように接しなさい。

きわめて重要な課題は一つになることです。人類という一つのカースト、一つの階級、一つの信条。このことは、純粹で無私無欲で普遍的な愛と信愛に、自分自身または自我を明け渡すことによるのみ達成することができます。愛がその基盤であり、共通の分母です。信愛は神の火花であり、人間と人間、そして人間と神を結びつけ、一体化させ、統合する要因なのです。

例を挙げて説明させてください。(ババ様は地面にハンカチを広げられました。)これは布です。見てのとおり、すべて糸で構成されています。糸を別々に引き抜くと、布は弱くなります。それらを一緒にまとめると、しっかりと強くなります。人類も同じです。愛は、布の中にある百万本、十億本の糸のように、人類を結びつけます。信愛が神と人類を再結合させるのです。それゆえ、人間を生まれ変わらせ、信愛という助けを借りて人類の兄弟愛を創造するために、私は愛を体現し、己の道具として愛を使うのです。

God lives in India, pp.7-8

現在のアヴァターの使命は、カースト、肌の色、信条に関係なく、人々はお互いを尊重し、愛し、助け合うべきであるということを皆に実感認識させることです。というのは、すべての人の中に同一の神または神性が存在するからです。それゆえ、あらゆる仕事が礼拝という行為になり得ます。

God Lives in India, p.7

私の目的は、人類の間に一体性を確立し、ブラフマンという、人が求めるべき唯一のゴールである神性の側面を人類に明らかにすることです。あなた方に人と人との間にあるべき類の関係を気づかせること、神性が万人の中に隠れて存在していることに気づかせることもまた、私の義務です。

1974年6月19日の御講話
PDF「サティヤサイババとは誰か？」
1974年ブリンダーヴァンでの夏期講習2 32章

「私は愛のランプを灯すために来ました」

私は、あなた方のハートに愛の光を灯し、その光の輝きが日ごとに増していくのを見届けるために来ました。私は、ヒンドゥー教のダルマといったような、特定のダルマを話すために来たのではありません。私はいかなる宗派、信条、主義を広める目的のために来たのでもなければ、いかなる教義の信奉者を集めるために来たのでもありません。私は、信奉者や帰依者を自分の信者として引きつけようとはまったく思いません。私は、普遍的な唯一の信仰、アートマの原理、愛の道、愛のダルマ、愛の義務、愛の責務を、あなた方に教えるためにやって来たのです。

1968年7月4日の御講話
PDF「私が携えてきたメッセージ」

私が携えてきたメッセージ

このエーカ バーヴァ(一つであるという姿勢)を、すべての宗派の人々、すべての国の人々、すべての大陸の人々の間に育みなさい。これが、私が携えてきた愛のメッセージです。これが、あなた方がハートに取り入れることを私が望むメッセージです。

1968年7月4日の御講話
PDF「私が携えてきたメッセージ」

「すべてのものは私自身の姿である」

この体は七十五歳の誕生日を迎えようとしています。これまでの年月、ずっと私は至福の状態のままです。なぜなら、私は一体性の原理をよくわかっているからです。あなた方もこの真理を理解すれば至福を味わうことができます。私は誰のことも憎みませんし、どんな敵もいません。私には恐れはまったくありません。なぜなら、すべてのものは私の姿だからです。同じアートマが万物の中に存在しています。

2000年7月16日の御講話
PDF「愛の本当の名前は愛」

皆さんが今日、ここに集まっているのを見ることは、私に大きな喜びを与えてくれます。皆さんは愛という絆で互いに結びついています。愛はただ一つです。あなたと私と他の人々の中の愛はどれも異なるものではありません。あなたの愛はスワミの愛と結びついています。愛は一つです。愛の中に生きなさい。

2006年5月13日の御講話
「2006年講話集」p.157

終わりに

私たちへの最初と最後のメッセージ

サティヤ サイ ババ様は、愛を通じて一体性を確立することが彼の真の任務であり、これが私たちの理想とすべきであると、さまざまな機会に語られました。

この集まりには、多くの国々からやって来た、さまざまな言語を話す、さまざまな人種の人々が出席しています。彼らは皆、国籍や人種、信条や肌の色や着ているものは違っても、ひとすじの心で、サイへの愛と、サイからの愛で、結ばれています。これが私の本当の務めです。これがこの国の古代の預言者と聖仙たちが切に望んだ成就です。この唯一性、この愛との一体性を育み、それを理想としてずっと自分の目の前に掲げていなさい。

1980年11月19日の御講話
PDF「愛の中で成長しなさい」

最初の公開講話

1953年に最初に記録された公開講話は、バガヴァン ババ様の「私の人類へ向けた最初のメッセージ」という呼びかけで始まりました。この講話の中で、ババ様はすべての個人と神の間に存在する宇宙的一体性について言及されました。

マーナサ バジャレー グル チャラナム ドウスタラ バヴァー サーガラ タラナム (おお、心よ！グルの御足を崇めなさい。そうすれば、輪廻の大海を渡ることができる。) …神は自分自身へ個我を引き付けます。この親和性は、両者の本来の性質です。なぜなら両者は同じだからです。……このことを私はあなた方に告げましょう。神から逃れることはできません。生きとし生けるものすべてが、いつの日か神にたどり着かなければならないのです。

1953年10月18日の御講話

このように、「神性を通じての一体性」が、ババ様の最初のメッセージでした。そしてこれがババ様の最後のメッセージでもありました。

最後の公開講話

2010年11月22日、サティヤ サイ ババ様は最後の御講話を行い、私たちに一体性を維持するよう呼びかけられました。

誰もが人間です。誰もが神の子供です。ですから、どんな相違感にも余地を与えることなく、一体感を有して生きていきなさい。これが皆さんへの今日の私のメッセージです。

2010年11月22日の御講話
「2009年2010年講話集」p.352

ババが私たちに贈られた最初のメッセージは、一体性を達成する勧めでした。最後のメッセージは、一体性を維持しなさいという願いでした。したがって、一体性はババの使命なのです。一体性はババの遺産でもあります。私たち一人ひとりがその遺産の相続人です。



セクション2 ー御講話集

| | |
|--------------------------|----|
| ユニティは神性..... | 45 |
| 社会の一体性のための奉仕活動..... | 48 |
| 個から神へ..... | 54 |
| 一体性、純粋性、神性を求め努力しなさい..... | 58 |
| 多様性の中に一体性を見ることが真の霊性..... | 67 |
| 一体性、純粋性、神性..... | 75 |
| サイ教..... | 81 |

ユニティは神性

神 聖アートマの具現たちよ！「すべての道はローマに通ず」という古くからのことわざが、今日、ここで立証されています。人々が多くの国からこの歴史的な都市に集まったことに、大きな意味がないわけがありません。あなた方は、今まで聞いたことがないことを学ぶため、そして、人間の冒険に関する新たな理想からインスピレーションを得るためにここに来た、ということを確認する必要があります。

この大会は、どれか一つの宗教、国家、人種、カースト、個人と関係のあるものではありません。この大会は、あらゆる経典の根底にある本質的な真理を明らかにし、真理と正義を確立することを通してすべての人の平和と福祉のために努力することを意図しています。

全人類は、一つの宗教——人間という宗教に属しています。すべての人にとって、神は父です。一なる神の子として、すべての人は兄弟です。したがって、この大会は家族の集まりです。この大会はさまざまな民族や宗教の集まりなのではありません。この大会はさまざまな心の集まりです。この大会はどれか一つの文化や哲学と関係のあるものではありません。この大会はあらゆる宗教の教えの中に存在する神聖な生き方に関係するものです。この大会の目的は、神性の中のユニティ[単一性／一元性／一体性]を見ることです。

すべての宗教は神性のユニティを宣言している

国や人種に関係なく、すべての宗教の基本的な真理はまったく同一です。哲学的な見解や修行やアプローチの方法は異なるかもしれませんが、けれども、最終的な目標とゴールはただ一つです。すべての宗教は神性のユニティを宣言し、カースト、信条、国、肌の色に関わらず普遍的な愛を養うことを説いています。この基本的な真理を知らない人は、自分の宗教を理由に慢心とエゴ[自我意識／我執]を膨らませます。そのような人たちは、神性を断片化することによって、大きな混乱とカオスを生み出しています。無限の神性をそのような狭いところに閉じ込めて分割することは、神性に対する反逆です。霊的な生活、神をベースにした生活の基盤は、内在の神霊すなわちアートマン(神の魂／アートマ)です。体は神霊の家です。

社会生活も、この霊的基盤に従うべきです。ところが人は、実在するのは体だけ、という信念に生活の基盤を置いています。この誤りをなくすには、神霊について教わる必要があります。個人も社会も両方とも神の意志の現れであるということ、そして、神は宇宙に浸透しているということを認識する必要があります。この真理を認識することによってのみ、人は自分のエゴを手放して、義務に献身する生活を送ることができます。社会は自分本位な個々人の戦場になるのではなく、神に導かれる個々人の共同体になるべきです。

科学の進歩に伴って、人は自分が宇宙の主であると思い、神を忘れる傾向に陥っています。現代人は、月に行き、宇宙を探検していますが、もし自分たちは創造における無数の謎と不思議をまだ知らないということを考えるなら、それらは心と知性の限られた能力をはるかに超えていることに気付くでしょう。宇宙の神秘と謎を発見すればするほど、人は、神がすべての創造物の創造者であり、動機を与える者であることに気付くでしょう。すべての宗教はこの真実を認めています。人にできることは、目には見えない無限の神を理解するために自分の限られた知性と知識を使って尽力し、神を礼拝し崇めることを身に付けることだけです。

社会への奉仕はユニティを促進する手段

生まれ持っている神性を示す代わりに、人は自分自身の物質的な達成という牢屋に囚われています。人間のあらゆる科学や技術の進歩よりも偉大なのは、神の意識が授けられている存在としての人間自身です。物質世界のみを現実と見なすという選択をすることで、当分の間は、科学的、技術的、物質的な社会の繁栄をもたらすことができるかもしれませんが、けれども、もしその過程で人間の利己心や貪欲や憎悪が増すならば、人々が通

常しているのと同じように、社会が社会を破壊してしまうでしょう。反対に、もし人間の本質をなす神性が示されるなら、人類はユニティに基づいた、そして、愛という神聖原理の順守に基づいた、立派な社会を築くことができます。この重大な変化は、個々人の心から始まらなければなりません。個人が変わると、社会が変わります。そして、社会が変わると、世界全体が変わります。ユニティは社会の進歩の秘訣であり、社会への奉仕はユニティを促進する手段です。ですから、誰もが献身の精神で社会への奉仕に身を捧げるべきです。

物質的な快適さは社会生活の唯一の目的ではない、ということを知るべきです。個々人が物質的な福利のみに関心を寄せる社会では、和合や平和を達成することは不可能です。たとえ達成されたとしても、それは継ぎはぎだらけの和合ではないでしょう。なぜなら、そのような社会では強者が弱者を抑圧するからです。自然の恵みを平等に分配しても、名ばかりの平等以外は何も保証されません。物質で出来た品物を平等な分配することで、どうやって欲望と能力に関連する平等を達成できますか？ ですから、霊的なアプローチを明らかにすること、そして、心を物質的なものから各人のハートの中に鎮座している神に向き直させることによって、欲望を支配する必要があるのです。

神性体験は人に内在する天性

ひとたび内在の神霊の真理を知ると、世界は一つの家族であるという意識のあけぼのがやって来ます。すると、人はその人のあらゆる行いの原動力となる神の愛で満たされます。人は終わりのない欲望の追求に背を向けて、平和と平静の探求へと向かいます。物質的なものへの愛を神への愛に転換することによって、人は神を体験します。その体験は人間を凌ぐものではありません。

実際、それは人間に固有の性質の一部です。それは人の人間性と神性の神秘です。

自分の宗教が何であれ、誰もが他の信仰への敬意を培うべきです。他の宗教への寛容と尊敬の態度を持たない人は、自分の宗教の真の信徒ではありません。単に自分の宗教の慣行を厳守するだけでは十分ではありません。すべての宗教の本質をなすユニティを見ようとも努めるべきです。そうして初めて、神性は一つであるということを体験できるようになります。宗教の分野では、いかなる類の強制も強要もありません。宗教的な問題は、穏やかに、そして、冷静に議論されるべきです。ある人の宗教は優れていて、別の人の宗教は劣っている、といった感情を抱いてはなりません。宗教に基づく対立は完全に排除されるべきです。

宗教に基づいて人を分けるのは、人道に反する罪です。

現代人は、自然と宇宙に関するすべてを知っていると思っています。ですが、もし人間が自分自身を知らないなら、その知識の一切は何の役に立ちますか？ 自分自身を理解したとき、初めて外の世界についての真実を知ることができるようになるのです。人の内なる実在を、外の世界を探索することによって知ることはできません。目を内に向け、自分の本質をなす神性を悟るとき、人は万物への平等心を手に入れます。その、一つであるという気持ちによって、人は理解を超える至福を体験するでしょう。

ローマで開催された
国際シンポジウムへのメッセージ
1983年10月30-31日

社会の一体性のための 奉仕活動

もしあなたに純粋な心と善良な性格が欠けているのなら、
どうして、平安と愛と幸せと繁栄を授けるサイが
あなたを賞賛すると期待できようか？
どうして、プレーマ サイがあなたを
身内として扱ってくれると期待できようか？

[テルグ語の詩]

人

間の一生は悲しみそのものです。時は神性です。心は純粋で思いは甘露のようです。そのように神聖な、人として生を受ける恩寵を得て、人は何をすべきでしょう？人生という館を築くための基盤は何でしょう？すべての人が平安と幸せを求めています。どうすれば平安に満ちた人生を送ることができるでしょう？それは人間的価値を実践しないかぎり可能ではありません。人間的価値は外から得る必要はありません。それはすべての人に内在しています。このような価値が忘れられて、どうして人は人生において進歩を遂げることができるでしょう？まず始めに、人として生まれて来た目的を探究するべきです。

あなたは他人に奉仕しているのではない

人の一生は平等心(サマター)、一体性(サマイキヤ)、同胞愛(サウブラートラ)、高貴さ(サウジャニヤ)から成り立っています。これらは人生の館の基盤そのものです。たとえそのうちの一つが欠けても人生は意味をなくしてしまいます。すべての人がこの四つの徳を培い、保護しなくてはなりません。

まず始めに、人間であることの意味を認識するべきです。真実(サティヤ)は道徳心(ニーティ)を育てます。正義(ダルマ)は名声(キヤーティ)を与えます。自己犠牲(ティヤーガ)は人生の光(ジョーティ)です。人間(マーナヴァ ジャーティ)とは道徳心(ニーティ)と名声(キヤーティ)と光(ジョーティ)の三つが合わさったものです。

ところが今日、人は真実、正義、自己犠牲の原理をないがしろにしています。社会のためではなく自分自身を救うために、これらの原理を守らなければなりません。すべての人から尊敬されることを期待するなら、自分を敬う心を育てなければなりません。自分を敬う心は人生の基盤です。自分を敬うことのできない人は、他人からも尊敬されません。何よりもまず、他を敬い、心から愛を分かち合うべきです。これが人間の第一の務めです。

人間は単なる個人(ヴィヤシティ ジーヴィ)ではなく、社会の中の一部(サマシティ ジーヴィ)です。個人(ヴィヤシティ)は個々の魂(ジーヴドゥ)と関連しており、社会(サマシティ)は神(デーヴドゥ)に関連しています。人は個人のレベルから社会のレベルへたどり着かなければなりません。このために用意されている道とは何でしょう？まず、人はすべての人に内在する「個々の魂の輝き」(ジーヴァナ ジョーティ)という普遍的な原理を認識しなければなりません。平等心(サマツワム)の原理は、一体性(エーカツワム)の原理を理解して初めて体験し、実践することができます。

私たちの行っている奉仕活動は社会においての一体性を体験するためのものです。もしあなたが他人に奉仕をしていると考えているのなら、それは大きな間違いです。実際、すべては神の具現なので誰のことも「他人」と考えるべきではないのです。しかし、人はこの真理を認識する努力をしていません。そのため、人は困難に遭うのです。ひとたび、神がすべてのものに満ちているということを認識すれば、苦しみから解放されます。苦しみを取り除くには、人は社会の中の一体性の原理を実践しなくてはなりません。ひとたび一体性の原理を理解すれば、人は宇宙の原理に到達することができます。

肉体への執着を手放しなさい

すべての人は肉体を授けられています。自然は鏡のようなものです。この鏡の中に見えるものは、あなたの反映以外のなにものでもありません。今日、人は利己的で自己中心的な生活を送っています。利己主義は社会に蔓延しています。肉体への執着(デーハ ビーマナム)は増加をたどる一方で、国家への愛(デーシャ ビーマナム)は衰退しています。霊性求道者や純粋な心をもつ聖者でさえ、肉体への執着を手放すことができないでいます。人間は、肉体への執着(デーハ ビーマナム)がある限り、神への愛(ダイヴァ ビーマナム)を育てることができません。

五大元素からなる肉体は

弱く崩れ去る運命にある

百年の寿命を与えられたにもかかわらず

実際にそこまで生きられるかはわからない

人はこの死すべき身体から

いつ旅立つのかを知らない

それは幼年時代か、青年時代か、

あるいは年老いてからか

死は必ずやって来る

したがって、肉体が滅びる前に

人は己の本性を知る努力をすべきである

[テルグ語の詩]

肉体は真の「自分」を知るために、あなたに与えられました。あなたの時間とエネルギーを世俗的な探求のために無駄にするのは愚かなことです。もしあなたが真の「自分」を知ったら、それ以外のすべてのことも理解することができます。

愛の化身である皆さん！あなた方が見ている外の世界は、小宇宙から大宇宙に至るまですべてあなたの中に存在します。山、海、都市、村などは、すべてあなたの心の中に存在します。生き

外側の世界はあなたのハートの反映にすぎません。もしあなたがハートを愛で満たすなら、あらゆるところで愛を体験するでしょう。

とし生けるものすべてがあなたの中にあるのです。あなたはすべてのものの基礎です。そうであるのなら、あなたが外の世界で見たいと思うものは何ですか？内面にある実在を無視して、外部にある反映に心奪われるとは、なんと愚かなことでしょうか！

人間的価値を実践しなさい

まず最初に、人間的価値(ヒューマン バリュース)を理解しなさい。その中で最初に来るのは真実です。真実は変わることがなく、時間と空間を超えています。アメリカの真実、ロシアの真実、インドの真実、パキスタンの真実などと言うものはありません。真実は一つであって、すべての国で、いつも同一です。あなた方は真実の化身です。真実は神です。ですから、真実を理解する努力をしなさい。「サッティヤム ブルーヤート(真実を話しなさい)、プリヤム ブルーヤート(心地よいことを話しなさい)、ナ ブルーヤート サッティヤム アプリヤム(不快な真実を話してはいけません)。」人は、このような真実という永遠の原理を忘れて、はかないものを追い求めています。真実に忠実であることは道徳心(ニーティ)で、それは正しい行い以外の何ものでもありません。サッティヤンナースティ パロー ダルマハ(真実に忠実である以上のダルマはない)。真実(サティヤ)と正義(ダルマ)が共にあれば、平安がもたらされるでしょう。真実と正義に忠実な人は、常に平安を保つでしょう。外に平安を探し求める必要はありません。真実があるところに平安があります。平安があるところに非

暴力があります。

私たちは、真実(サティヤ)、正義(ダルマ)、平安(シャーンティ)、愛(プレーマ)、非暴力(アヒムサー)を人間的価値(五大価値)と呼びます。実は、愛が真実と正義の基盤なのです。愛は神であり、真実は神であり、正義は神です。これらの原理から離れてしまった人は、まったくの生ける屍です。この五大価値は、私たちの中に存在する五つの生命原理(プラーナ)と比べることができます。もし真実を話さなければ、あなたは一つのプラーナを失ったこととなります。正しくない行いをするならば、もう一つのプラーナを失ったこととなります。同様に、その他のプラーナも失われるでしょう。それゆえ、あなたはあらゆる努力を払って、神であるプラーナを守るべきなのです。

人間性の中には神性があります。このことを理解しなさい。今日、人間の活動のあらゆる分野は汚染されています。ひとたび人間がハートを浄化すれば、あらゆるところに純粋性を見ることができるでしょう。外側の世界はあなたのハートの反映にすぎません。もしあなたがハートを愛で満たすなら、あらゆるところで愛を体験するでしょう。もしあなたの心に憎しみがあれば、同じことが外部に反映されます。あなたが外で見、聞き、体験することは何でも、あなたに内在するものの反映と反応と反響にすぎません。よいことであれ、悪いことであれ、あなたが外の世界で出会うことは、すべてあなたの反映にすぎないのです。ですから、他人を指さして非難してはなりません。全世界は人間の行動次第で変わります。もし人間が善良なら、世界もそうなるでしょう。あなたは、周囲が神への冒瀆に満ちていると考えます。それは誤った認識です。実際のところ、あなたの内面にある神への冒瀆が、外の世界に反映されているのです。もしあなたの気持ちが悪魔的であれば、あなたは周りにあるものすべてに同じものを見るでしょう。も

しあなたの思いが神聖であれば、あなたはあらゆる場所に神を見出すでしょう。

愛の化身である皆さん！あなたのハートは愛に満ちています。あなたのハートから生じる神を求める気持ちは愛です。真実と正義を、あなたの言葉と行いにそれぞれ反映させましょう。真実と正義と愛が調和すれば、平安へとつながるでしょう。

あなたの呼吸のプロセス、ソーハムは、一日に二万六千六百回、真のあなたを思い出させてくれます。毎日、毎日、それほど何回も教えられている真理を思い出せないのであれば、あなたの受けた教育は何の役に立つのですか？あなたはいくつもの説教に耳を傾げるかもしれません。何冊もの聖典を学ぶかもしれません。何人もの聖者のもとを訪れるかもしれません。しかし、あなたの内なる声が教える真理の原理を忘れたら、これらすべては徒労に終わるでしょう。

仏陀は、宮殿での快適な生活をすべて捨てて、出家(サンニャーサ)の道を選びました。彼は森を歩き回り、聖者たちの教えを聞き、聖典を学びました。しかしこれらはどれも彼を満足させませんでした。最終的に仏陀は、自分のハートが神から与えられた聖典であり、神が自分の真の友であると悟りました。彼はすべての書物を捨て、聖者のもとを訪れることもやめました。彼は内面に目を向け、真理を探究しました。人は、聖典(ハート)を無視し、真の友(神)を忘れ、平安を求めてあちらこちらを彷徨っています。

まず始めに、神から与えられた目を神聖に使いなさい。そこで初めてあなたの生活は聖化されます。善良な心(マインド)を持ち、その振る舞いが模範的である人だけが真の人間です。もしあなたの見る目が曇っていたら、あなたの行うすべての霊的探究に大した成果は上がりません。あなたの目(ネートル)は、神から与えられた聖典

ひとたび自信を得れば、あなたは自己満足という壁を建て、その上に自己犠牲という屋根をつけ、自己実現という人生を送ることができます。

(シャーストラ)です。この聖典(シャーストラ)を理解し、それに従って振舞いなさい。ひとたび自分のものの見方をコントロールできれば、あなたは自分の話す言葉をコントロールできるようになるでしょう。真実だけを話しなさい。真実ほど素晴らしいものは他にありません。サムヤク ドルシティ(純粋な見方)とサムヤク ヴァーク(純粋な話し方)は、サムヤク シラヴァナ(純粋な聞き方)、とサムヤク バーヴァ(純粋な気持ち)へとつながるでしょう。

若者たちは特に視覚のコントロールを実践すべきです。ひとたび人間的価値の重要性を理解し、それらを実践に移せば、マーナヴァ(人間)はマーダヴァ(神)となります。今日の若者たちは、国の未来を担っています。ですから、彼らは心(マインド)の安定と自信を培うべきなのです。

自信があるところに愛があります。

愛があるところに真実があります。

真実があるところに平安があります。

平安があるところに至福があります。

至福があるところに神がいます。

自信(真我を信じること)がなければ、あなたは決して神に到達できません。あなたの自信があなたの神なのです。ですから、真我に対する揺るぎない自信を培いなさい。真我を信じ、真我を尊重することは、アートマの至福と、真我のビジョンへと導くでしょう。あなた方は、たくさんの柱で支えられた壮麗なホールの中に座っています。あなた方はその美を堪能しています。強固な土台がな

全世界は一軒の邸宅のよう
なもので、さまざまな国々
はその中にある別々の部屋
のようなものです。だから、
国籍によって人間を区
別してはなりません。

ければ、このホールは存在できなかったでしょう。同様に、真我を信じるのが、人生という邸宅の土台なのです。ひとたび自信を得れば、あなたは自己満足という壁を建て、その上に自己犠牲という屋根をつけ、自己実現という人生を送ることができます。それゆえ、自信(真我を信じること)という土台を、強固かつ頑丈に築きなさい。

真実あらゆる文化の基盤

バーラタ(インド)の文化は、サッティヤム ヴァダダルマム チャラ(真実を語り、正義に従いなさい)と宣言しています。インド文化だけでなく、あらゆる国の文化が、この同じ真理を宣言しています。真実あらゆる文化の基盤です。文化の違いによるいかなる差別にも機会を与えてはなりません。全世界は一軒の邸宅のようなもので、さまざまな国々はその中にある別々の部屋のようなものです。ですから、国籍によって人間を差別してはなりません。このような区別があるために、人間性が低下しているのです。サイの帰依者たちは、このような区別を一切受け入れてはなりません。すべての人が力を合わせるべきです。名も、姿も、肌の色も違うかもしれませんが、人類は一つです。神は一つです。すべての人は一つの家族に属しているのです。

牛はたくさんいるが、牛乳は一つ
人はたくさんいるが、内在者は一つ
カーストはたくさんあるが、人類は一つ
花はたくさんあるが、礼拝は一つ
道はたくさんあるが、神は一つ

したがって皆さんは、人種、宗教、国籍に基づいたあらゆる区別を捨てて、愛の精神を培うべきです。若い男女は国の発展のために働かなければなりません。青年たちが健全な人格を育んだとき、初めて国は繁栄するでしょう。人間の生活は、人格に基づいています。今日、説教をするときにはヒーロー(英雄)ですが、実践においてはゼロという人がたくさんいます。あなたは言行一致であるべきです。神聖な思いを培いなさい。そのとき初めて、あなたは神聖な活動を行うことができるのです。信愛(神を愛すること)とは、単に礼拝のような儀式を執り行うことではありません。純粋で無私の愛をもって行うなら、どんな仕事でも信愛なのです。

愛の化身である皆さん！今日からただちに、あなたの生活を愛で満たされたものとしましょう。あなたの手を、社会全体の役に立つような行いに取り組ませましょう。あなたの思いの中心に愛の原理を据えましょう。あなたはヴィヤンティ(個人)レベルからサマシティ(社会)レベルへと上がり、最終的にはパラメシティ(神)と融合すべきです。この物質的ではない世界の中で、あなたが何を目にしようとも、そこに安らぎはありません。ときには、あなたの肉体が病に冒されることがあるかもしれません。必要以上に動揺してはなりません。肉体は来ては去るものなのです。

この肉体はゴミの貯蔵庫であり、

病に冒されることがある

肉体は輪廻の海を渡ることができない

おお、心よ！

肉体が永遠であるという迷妄に

縛られてはならない

そうではなく、蓮華の御足に身を寄せなさい

[テルグ語の詩]

説教ではなく実践の中に偉大さがある

むやみに肉体に執着してはなりません。しかし、

肉体の手入れは適切に行わなければなりません。時々、自分の責任を果たさなかったために、あなたが病気に苦しむことがあります。私は帰依者を愛するがゆえに、彼らの苦痛を引き受けます。それは現れたのと同じように消滅します。ここに小さな例があります。ある幼い少年が、おたふく風邪（頬が腫れて痛みが生じる病気。耳下腺炎）のため、たいそう苦しんでいました。医師は、完治するまでに最低二十日から二十五日はかかるだろうと言いました。少年は激痛に耐えられず、号泣して泣いていました。私は彼を部屋の中へ呼び、「スワミがあなたと一緒にいるのに、どうして泣いているのですか？」と言いながら彼を慰めました。私は彼のためにお菓子を物質化し、彼に食べさせました。私は自分自身で彼の痛みを引き受けたのです。他の誰であっても、その痛みには耐えられなかったでしょう。

スワミがそれほどの痛みを被っていたので、シュリーニヴァーサンは、どうやってこの大会を実施したらいいのか、大変心配していました。両あごの間が腫れていたため、食べることも話すこともできませんでした。数日間肉体に食べ物を与えられなかったからといって、何の問題があるでしょう？ですから、私はそのことを気にしませんでした。私は主催者に大会を進行させるよう話しました。彼は「スワミ、開会式の御講話はどのようになさるおつもりですか？」と尋ねました。私は「これが私の肉体だと思えば、私は苦痛を感じます。しかしこれは私の身体ではなく、あなたのものなのです」と言いました。あなた方の肉体はすべて私のものです。それゆえ、私はあなた方の苦痛を私自身に引き受けます。それが私の義務なのです。これは私の身体ではありません。ですから私はこれを気にしないのです。

今だけではなく、どんな時でも、私が苦痛を気にすることはありません。私は自分が人に説くこと

は何でも実践します。だから私は「私の生き方が私のメッセージ」と言うのです。私の神性を理解し、悟ることは誰にも不可能です。私は公衆の面前でそのことを言いたくありません。

私のものはすべてあなたのもので、逆もまた真です。私にはまったく何の欲望もありません。私の望むことすべては、あなた方に幸せを与えるためのものです。偉大さは、説教することではなく、それを実践することにあります。真のアーチャーリヤ（教師）とは、自分で実践してから人に説く人です。それが、私が行っていることです。

青年の皆さん、男性、女性の皆さん！あなたの真の本性を理解しなさい。真実の道を歩みなさい。サティヤム（真理）は、この肉体の名前です。この真理をあなたの中で発展させなさい。真理は神です。愛は神です。愛の中で生きなさい。あなたが、真理と愛という道をたどるなら、確実に至福を得るでしょう。何人かの人は、自分自身の過ちを無視して、私のせいになります。それは大きな間違いです。私にはまったく何の過ちもありません。私はきよらかな鏡のようなものです。私の中にはほんのわずかな不純もありません。あなたは、あなた自身の気持ちの反映を私の中に見ているのです。あなたのハートを浄めなさい。そうして初めて、あなたはこの真理を理解できるでしょう。

愛の化身である皆さん！今日この大会が開幕しました。たくさんのプログラムが行われる予定です。他のプログラムに十分な時間を与えるために、私はここで講話を終えることにします。あなた方に必要な指針を与えるために、私はいくらでも時間を費やす用意ができています。

2002年7月21日の御講話
国際セヴァ大会開会式
「サイセヴァ」pp.58-72

個から神へ

愛

の化身である皆さん！人類は世界中でさまざまな難しい問題に苦しめられています。一つの問題が解決すれば、また別の問題が現れます。そのような状況にある理由は、個人と社会の間の正しい関係が欠如しているからです。

私たちはまず、四つの存在に着目しなければなりません。一つ目は、どんな問題も一瞬で解決できる力です。これはパラメシティ(至高我)です。第二の存在はスルシティ(創造された宇宙、万物)です。三番目はサマーシティ(集合的存在—社会またはコミュニティ)です。四つめはヴィヤシティ(個人)です。これらの四つは、別々の存在ではありません。身体は別々の機能を遂行する別々の器官で成り立っていますが、それらは一つの身体に不可欠な一部です。たとえば、手には指をもつ手のひらがあります。すべてが完全につながっています。同様に、パラメシティの主要な役割が認識されなければなりません。パラメシティが理解されたときに初めて、創造の神秘を把握することができるのです。この神秘が理解されれば、社会の意義が明白になります。その結果、個人の役割を理解することができるのです。

どうしたらパラメシティ(神)を認識できるのでしょうか？神聖な性質を育み、パラメシティ(至高我)を崇めることによって、個人はスルシティ(万物)の神秘と社会の重要性を理解します。今日、もしあなたがプラクリティ(大自然または現象世界)を理解したいのであれば、サマシティ(社会)を理解する必要があります。

サマーシティという用語は、あらゆる社会的組織を網羅しています。一つのサマシティ(地域社会)は、集まってきた個人で構成されています。この個人が一体となることが、神を悟るためには不可欠なのです。

集団行動を促進する三つのルール

例を挙げましょう。さまざまな信仰を公言し、さまざまな文化に属している人々が、さまざまな国からこの大会に集まりました。しかし、彼らを結び付けている共通の要素とは何でしょうか？それは、サイの原理を信じる心です。それがあなた方を一つにまとめています。彼ら全員が多様性の中に一体性を見出そうとしています。一体性を促進するためには、サマシティ(集団行動)という考えを理解しなければなりません。集団行動を促進する中で守るべき三つのルールがあります。サッティヤム ブルーヤート(真実を語りなさい)、プリヤム ブルーヤート(快いことを語りなさい)、ナ ブルーヤート サッティヤム アプリヤム(真実でも不愉快なことは決して口にしてはならない)。私たちが、道徳性、世俗的生活、霊的進歩について考えても、考えなくとも、最も重要なのは真実です。倫理的視点からすると、あなたは真実を話さなければなりません。世俗的生活という文脈では、喜ばれることを話さなければなりません。霊的な視点からすると、たとえ真実であっても相手を不愉快にすることは避けなければなりません。バガヴァッド ギーターもまた、興奮を引き起こす言葉は口にしてはならず、有益かつ喜ばしい真実を語らなければならないと教えています。

実在の三つの顔

ヴェーダーンタには、真実を構成するものに関して、パーラマールティカ、ヴィヤーヴァハーリカ、プラーティバーシカという類似した三つの概念があります。パーラマールティカは至高神に関連し、ヴィヤーヴァハーリカは世俗的な存在に関連し、プラーティバーシカは霊性に物質を重ね合わせることに関連しています。これらの三つは、互いに相反するものではありません。それらは、海と波と海の泡のように、三つの姿を取る同一のものです。

海の中に存在する冷たさと塩味は、波と泡の中にもあります。

世俗に関連した物事を考えているときには、ヴィヤーヴァハーリカという言葉が使われます。心に関連した体験を熟考しているときには、それらはパーラマールティカ(神に関連している)と称されます。思考と物体を関連づけて考えるときには、それらはプラーティバーシカと描写されます。形容する言葉は異なりますが、その根底に流れる真実は同一です。

神の本性を知るための最初のステップは、社会的プロセスを理解することです。パラメーシティ(神)から始めて、あなたはスリシティ(万物)を理解し、サマーシティ(社会またはコミュニティ)に目覚め、ヴィヤシティ(個人)の役割を悟ります。理解するというプロセスは、お互いを結びつける複合的なものです。個人がいなければ、社会は存在できません。社会がなければ、万物には意味がありません。ヴェーダーンタの用語では異なる意識レベルを説明するために異なる用語が使われてきましたが、この一体化のプロセス全体を理解することは、個人が社会から宇宙へ、そして神へと進むということです。

個と神の関係は正しく理解されるべきです。神はすべてを包含する統一体です。個は普遍なるものと自分が一つであることを体験しなければなりません。この普遍なるものは、ヴィシュワ ヴィラート スワルーパム(神の宇宙相)と呼ばれています。あなたがここで目にするすべての人間は、宇宙相の顕現です。このことは、万人が本質的に神であることを意味します。個人が別々であることに固執することによって、人は神の宇宙的本質を見ることに失敗します。あなたの中にあるエゴを忘れて、あなたの霊的本質を認めなさい。人間が平安を

自己探求とは、真我を顕現させる方法です。自己探求は、あなたが身体でも感覚でも心（マインド）でもないことを明らかにします。あなたはその主人です。

失っている原因は、身体への執着です。

人は外側の世界にあるすべてのものを探求しましたが、自分自身の本当の性質を知ることができないでいます。その結果、人はビンナトワム(分裂)を生み出しました。ひとたび本当の己の真我を知れば、分裂という感覚はなくなるでしょう。人はすべての生命が一つであることを受け入れるでしょう。

サイ ボランティアの役割

なぜこの大会が開催されているのでしょうか？これについては、三つのことが重要です。まず、サイ オーガニゼーションに属する人の特徴はどうあるべきでしょうか？彼らのハートは月のように涼やかであるべきです。彼らの心(マインド)はバターのように純粋であるべきです。彼らの話す言葉は蜂蜜のように甘くあるべきです。あなたのハートが月のように涼やかで、心(マインド)がバターのように純粋で、話す言葉が蜂蜜のように甘いとき、初めてあなたはオーガニゼーションの価値ある会員になるでしょう。これらの三つの特質があるとき、そこには神性があるでしょう。

バガヴァッド ギターの中で、クリシュナはアルジュナにすべてのダルマ(義務、行動規範)を放棄して、彼(クリシュナ)のもとへ身を寄せるよう助言します。放棄すべきダルマは、肉体に関連したダルマです。それが無数の心配を引き起こします。サイの愛は、これらすべての心配事を確実に解決することができます。(バガヴァンは、生まれて

から死ぬまでの間に人間が支配されるさまざまな心配事を描写したテルグ語の詩を歌われました。)自然の仕組みを理解しない限り、ありとあらゆることが心配になります。しかし、ひとたびそれ(自然の仕組み)を理解すれば、あなたはつねに幸福です。その理解が、あなたをパラメーシティ(神)の意識へと導くでしょう。ひとたび神の本性が理解されれば、さまざまな種類のお菓子に含まれる砂糖の甘さのように、あらゆる体験が至福に満ちたものとなるでしょう。

ヴェーダーンタと科学は同じ真実を宣言している

万人の内に存在する神性は同じであることを受け入れなさい。この真理は、ヴェーダーンタによって宣言されました。科学者たちは現在、異なるアプローチを通じて同じ見解に向かっています。何千年も前に、古代の賢者たちは神が遍在であることを宣言しました。ラーマダースやポータナもまた、自作の詩の中でこの真理を表現しました。科学者たちは現在、宇宙全体はエネルギーで構成されていると宣言しています。数年前、バンガロールの科学研究所で行われた会議の席上で、ある科学者が太陽の年齢について言及し、数十億年という数字を示しました。古代の人々は太陽をアナーディと呼んでいました。それは、起源がはっきりしないという意味です。数十億という数字を明らかにしたことによって、科学は賢者たちよりも有意義な事実を示したと言えるでしょうか？アナーディ(始まりがない)という呼び名は、科学者たちが計算で出した何十億年よりも正確に太陽の年齢を描写しています。

古代人たちは、パラメーシティ(至高の創造主)を理解しようとすることで、創造の神秘を理解しました。彼らは、創造を理解することによって、社会と個人に関する真理を悟ったのです。

自己探求とは、真我を顕現させる方法です。

自己探求は、あなたが身体でも、感覚でも、心(マインド)でもないことを明らかにします。あなたはその主人です。あなたはアートマ(真我)です。肉体に基づく知識はブーティカ グニャーナム(世俗的な知識)です。心(マインド)に基づく知識はスグニャーナム(合理的知識)です。ハートに基づく知識はアートマ グニャーナム(真我の知識)です。

私たちは一つの家族

この世界大会で最も重要な関心事は、どうしたら会員たちにパラメーシティ(神)を実感認識させられるか、であるはずで、この目的のために第一に必要なことは、善良な仲間です。善良な仲間は、善良な思考へと導きます。アニル クマールは、バガヴァンの講話の前に行ったスピーチの中で、「最新の神」に言及しました。これは思い違いです。神はただ一人であり、永遠です。サファヤ博士は、韓国からの帰依者から贈られた毛布に感謝を表明しました。長年にわたってスワミの近くにいるにもかかわらず、多くの人はスワミの教えを些細なことすらも理解していません。あなたが感謝を表すのはいつですか？あなたは第三者には感謝しますが、自分の身内には感謝しません。よそのお宅

で夕食を御馳走になれば、その家の主人に感謝しますが、家で食事を給仕してくれる母親には誰が感謝するのですか？サイ オーガニゼーションの中には「他人」はいません。私たちは一つの家族です。「ありがとう」という言葉を、サイ オーガニゼーションの中で使用すべきではありません。しないでください。それは、普通の世界では、純粋な決まり文句です。家族のために働く家族のメンバーは、賃金のために働く雇用者とは違います。サイ オーガニゼーションのメンバーは、何の見返りもお礼の言葉も期待せずに、奉仕を提供すべきです。

サイ オーガニゼーションのメンバーは、少なくともこの世界大会に参加した結果として、ある程度まで自分自身を改善しようと努めるべきです。過去を気にしてはなりません。現在に集中しなさい。今このときから、あなた方全員が崇高な道を歩むべきです。お互いへの嫉妬、憎しみ、嫌悪に居場所を与えてはなりません。

「つねに助け、決して傷つけてはならない」というルールに従いなさい。

1995年11月20日の御講話
第6回SSO世界大会にて

一体性、純粹性、神性を 求め、努力しなさい

知性 教育 豊かな学識
言い争いに勝つこと
相手を肉体的に打ち負かすこと
広大な王国を支配する権利
気前よく牛や黄金を寄付すること
無数の星や生物を数えることのできる鋭敏な目
八種の神秘力に達すること
月面を歩くこと これらはすべて
力のある人にとっては簡単なこと
しかし 肉体と諸器官の衝動を抑え
感覚を内に向けることは難しい
さらには 至高の平安の内に心を鎮め
神のヴィジョンを得ることは 至難極まりない
(サンスクリット語の詩節)

巧みな言葉は 富の女神までをも誘い
甘美な言葉は 家族や友人を勝ち得る
言葉 それは人生の縁を結ぶもの
悪意の言葉は 即座に死をもたらす
(サンスクリット語の詩節)

愛の化身である皆さん！言葉という神聖な力を授かっ
ながら、人はそれを正しく使うことができません。内なる平
安を獲得する強力な知性と能力をもつ生物は、人類の
他には存在しません。この世界のあらゆる事物には五つの側面、す
なわち、サット(絶対実在)、チット(純粹意識)、アーナンダ(至福)、
ルーパ(姿)、ナーマ(名)があります。サット チット アーナンダ(絶対
実在・純粹意識・至福)は、人間の核となる三つの属性です。それら
は真実であり永遠です。名と姿は一時的なものです。名と形が永遠
であるという錯覚によって、人類は貴重な人生を無駄にする方向に
導かれます。

この世界には、二つのタイプの知識人がいます。第一のタイプは完全に物質的な見方をする科学者です。彼らの頭にあるのは、物質的で世俗的な目的と金儲けだけです。彼らは無数の枝をもつ巨木の外見に惹きつけられて、その「根」を見出すことには関心がありません。ヴェーダに精通する者(賢者)は第二のタイプです。彼らは木の外見には惹かれず、「根」を見出すことに大きな喜びを表します。世俗的な展望をもつ人々は、「枝」に水を与えることで時間を無駄にしますが、賢者は、根に水を与えるゆえに、その「果実」を享受します。

かつて、アスラ(魔神)たちとデーヴァ(神々)が不死の霊水(アマリタ)を手に入れようとして乳海を攪拌しました。彼らは攪拌棒にマンダラ山を使いました。しかしながら、最初、彼らは猛毒の出現に耐えなければなりません。アスラたちはアマリタの代わりに猛毒が現れたことに意気消沈し、攪拌することをあきらめようと思いましたが、神々は休むことなく、勇気と決意をもってその作業を続けました。彼らの一貫した努力は、豊かな報いをもたらし、ラクシュミー(富の女神)、イラヴァータ(聖なる白象)、カーマデーヌ(願望成就の牛)、カルパタル(願望成就の樹)という姿で現れました。そして、最後にはアマリタそのものが現れました。同様に人もまた、心をかき混ぜ、自らの真の本性を知る努力をすべきです。霊性の道を塞いでしまうような障害や妨害が初めに現れても、思いとどまったり、落ち込んだりしてはなりません。

サット チット アーナンド(絶対実在・純粹意識・至福)は、人の本質そのものです。しかし、人はこのことを忘れてしまい、はかない喜びを空しく追求する中で、時間を無駄にしています。人はサット チット アーナンド(絶対実在・純粹意識・至福)

という自らの内なる本質の価値に気づくことができません。一旦、人がその価値をはっきりと理解し、それを体験すれば、どのような高貴な状態にも至ることができます。実際、人は真の神になるのです。人が内なる神性を悟るなら、どんなに膨大な仕事も成し遂げることができます。人に内在する力は、他のどこを探しても見つかりません。すべての人にサット チット アーナンド(絶対実在・純粹意識・至福)という三つの主要な属性が備わっています。しかし、幻影という網に絡まってしまったために、人は「名と姿」が実在であると考え、サット チット アーナンド(絶対実在・純粹意識・至福)という生来の特質を無視しています。まず初めに人が明確に理解しなければならないことは、自分自身が生まれもっている神性です。しかし、人はこの方向に向かって少しも努力をせず、感覚の奴隷となり、些細なことで時間を無駄にしています。それゆえ、人間の本来の義務は、生まれもった人間性を正しく理解し、それを実践に移すことです。人間性という価値とその重要性は、計り知れません。人間的価値が実践されて、初めて人生を取り戻すことができます。人は本当に神の火花です。それゆえ、クリシュナ神は「バガヴァッド ギター」の中で、「マーマイヴァムショー ジーヴァローカ ジーヴァブター サナータナ(あらゆる存在の中にある不変のアートマは、私という存在の一部である)」と言ったのです。実際、アンタルヴァーニ(内なる声)は朝から晩まで、人に自らの神性を思い出させようとしています。しかし、人はその内なる声を聞こうとする努力を少しもしていません。人は自らの神性を忘れ、物質的ではかない事物を追い求め、人生の究極の目的から自分を遠ざけてしまっています。名と姿は水泡のように一時的なものです。人は名と姿によって惑わされ、神性という極めて貴重な宝石を見失っています。人には

すべての身体は電球のようなもので、愛はそのスイッチです。このスイッチを入れたとき、初めて身体という電球が、すべての人に向けて光と幸福を放射することになります。

無限の神聖な力が備わっています。赤く熱せられた鉄片は、火そのものよりも役に立つことがあります。身体はこの鉄片に、火は内なる神性に、たとえることができます。それゆえ、人はこの真理を理解し、自らの身体を正しく用いるべきです。

愛の化身の皆さん！初日の出を迎え、人々は希望と情熱に溢れています。実際のところ、皆さんは瞬間瞬間を新年の始まりとみなすべきです。不変の美德を伴うことがなければ、名や姿には価値がありません。人はさまざまな精神的、肉体的病気に苛まれます。医者は肉体的病気を治すことができます。アートマであるという思いのみが、すべての精神的病気を治療することができます。皆さんはアートマの原理を知ろうと努力すべきです。アートマとは、あらゆる人間に浸透しているチャイタニヤ（純粹意識）にほかなりません。それはブラフマー（創造主）と同義語です。人には名と姿がありますが、チャイタニヤには姿はありません。チャイタニヤが人間の身体に存在するとき、それは「良心」と呼ばれます。遍在のチャイタニヤは「神意識」と呼ばれます。個人が多様性における一体性の原理を理解するとき、「良心」は「神意識」に変わります。そのような神聖な力を授かっているにもかかわらず、人は世俗の気まぐれによって惑わされています。人は、束の間のものである新年を大切にしますが、実際には、人は変わることはない「時間」を大切に、正しく時間を使うことに

よって時を神聖にするべきなのです。

この世界において、私たちと共に永遠に留まるのは、真理と善のみです。真理と善の価値は計り尽くせません。ですから、私たちは真理と善を発展させるように努力すべきなのです。名声や名誉を望んではなりません。例えば、私たちは自分たちがテルグのガンジス河の水をチェンナイに供給しているという錯覚に支配されてはなりません。（註：当時インドのS.S.O.ではチェンナイ（旧マドラス）に水を供給する奉仕プロジェクトを行っていた。ここではテルグ語地域の尊神からもたらされる水ということで、聖なるガンジス河に例えて表現している。）水は人が他に与えるようなものではないのです。それはすべての人に対する自然からの贈り物です。一人ひとりがそれぞれの功罪（プラプティ）に応じて分け前を得ます。人の活動はカーラ（時間）・カルマ（行動）・カラナ（原因）・カルタヴィヤ（義務）がお互いに調和したときにのみ、望ましい結果を生み出します。したがって、人は誠実な努力をし、適切な時が来るのを待つべきです。行動が実を結ぶとき、人は時と環境に応じてそれを活用すべきです。

青年たち（サイ大学を卒業した男子学生）は、たくさんの良い仕事を行っています。彼らはさまざまな村へ行って、奉仕やバジャンを行い、村人たちを幸せにしています。こうした活動は愛の精神をもって行うべきです。愛よりも偉大なものはありません。皆さんは無私の愛に溢れた人生を送るべきです。

愛の化身である皆さん！奉仕とバジャンを行うだけでは十分ではありません。皆さんは「自分は他者に奉仕をしている」という思いをなくすべきです。それはとても重要なことです。他の人に奉仕しているとき、皆さんは自分自身に奉仕しているのです。すべてがあなたのものであるとみなしなさ

い。実際、他の人々は他人ではなく、神の姿そのものなのです。したがって、人に行う奉仕は、神に行う奉仕なのです。すべての奉仕活動は、皆さんの中にこのような感情を育むために行われるのです。無私の愛をもって奉仕の現場に身を投じなさい。それこそが真の奉仕です。それ以外の奉仕活動はすべて、世俗的で一時的なものです。

学生の皆さん！皆さんは、自分は他人に奉仕を行っている、という間違っただけの考えをもっています。そのような思いは捨て去るべきです。そのとき初めて、皆さんの行う奉仕は、厳密な意味で、真の奉仕となります。奉仕とは単に他の人を助けることではありません。神を愛する最良の方法は、すべての人を愛し、すべての人に尽くすことです。「奉仕」という行為は、愛の精神で溢れているべきです。愛という肯定的な側面がなければ、皆さんの行うすべての奉仕は、現実には否定的なものとなってしまいます。

すべての身体は電球のようなもので、愛はそのスイッチです。このスイッチを入れたとき、初めて身体という電球が、すべての人に向けて光と幸福を放射することになります。皆さんはスイッチを入れないまま、幸福を享受しようとします。それは不可能なことです。Hridフリ+ Dayaダヤ(慈愛) = Hridayaフリダヤ(ハート)です。皆さんのハートは慈愛に溢れているべきです。皆さんの活動すべてが愛に溢れているべきです。愛に勝る力はありません。いにしえの聖者や預言者は、野生動物のいる森の奥深くに暮らしていたものでした。彼らは何も武器を持っていませんでした。それにもかかわらず、彼らは恐怖という感覚をもつことなく、動き回ることができたのです。彼らの勇気の源は何だったのでしょうか？ 彼らは、野生動物から守ってくれるただ一つの武器である「愛」をもっていたのです。

人類全体が一つの家族です。すべての人が兄弟姉妹です。世界全体が一つの邸宅です。このような広い心を発展させたときに皆さんが体験する幸福を言葉で言い表すことはできません。

古のバーラタ文化は神聖であり、極めて高貴で、素晴らしく、至福に満ちていました。しかし、皆さんはその偉大さを理解しようとする努力を少しもしていません。実際、皆さんはこのような神聖な文化を軽んじています。皆さんはカースト(世襲的階級)と文化に基づく相違点に惑わされています。実際にはカーストは一つしかありません。それは人類というカーストです。ハートに生じた愛が、真の宗教です。人類全体が一つの家族です。すべての人が兄弟姉妹です。世界全体が一つの邸宅です。このような広い心を発展させたときに皆さんが体験する幸福を、言葉で言い表すことはできません。それゆえ、人類の中に神性を見出すためにあらゆる努力をなさい。

神の創造は最も素晴らしく、最も神秘的です。夜空には無数の星があります。光の速度は秒速何千マイルものスピードであるにもかかわらず、その星々から発せられた光のいくつかはまだ地上に届いていません。このことから、地球と星との距離が容易に想像できるでしょう。創造そのものがこのように無限であり言語を絶する現象なのです。ですから、創造者がいかに力強く、強大であるかがわかるでしょう！

三界の中で最も素晴らしく最も神聖なもの
それは神の物語

俗世に縛る蔓(かずら)を切る鎌のごとし

[テルグ語の詩]

私たちに内在する神聖な力を、社会に奉仕するための技能へと変容させなければなりません。知識が技能に変わるとき、人生のバランスが得られます。

単なる言葉だけで、神の物語を描写することはできません。人は自らの推測に基づいて神を想像し、描写します。本当のことを言えば、神はあらゆる定義を超えています。この世界にはさまざまなタイプのプラマーナ(体験)があります。それらには、プラティyaksha プラマーナ(直接の体験)、アヌマーナ プラマーナ(推測に基づく体験)、ドワイタ プラマーナ(二元性に基づく体験)、そしてアドワイタ プラマーナ(不二一元論に基づく体験)があります。神はこれらすべてのプラマーナを超越しています。

神はアプラメーヤ(計り知れない、定義することができない存在)として知られています。神はあらゆる人のハートの中に、すべての神聖な力と共に存在します。神の美と荘厳さを言葉で言い表すことはできません。神は「ヒラニヤガルバーヤ ナマハー(黄金の母胎をもつ神に帰命し奉る)」といて褒め称えられます。ヒラニヤとは黄金という意味です。それは神のハートの中にあります。摂取した食物のエッセンスが身体のあらゆる部分に行き渡ると同じように、黄金は神の身体全体に浸透しています。したがって、神は最も美しい存在なのです。神はあらゆる存在の根源的な基盤です。すべてが神の意志に従って起こります。神はあらゆる存在の創造主であるがゆえ、プラジャーパティ(註:創造物の主)と呼ばれます。また、神は最も高い知性を備えているため、ダクシナムール

ティ(註:「南の像」あるいは「南面」の意、師としてのシヴァ神を表す)とも呼ばれます。このように神は無数の名を持っています。

人は限られた理解に基づいて、さまざまな名や姿を神として崇拜します。神は、ニルグナム(特定されぬ者)、ニランジャンナム(純粋な者)、サナータナ ニケートナム(終の棲家)、ニッティア(永遠)、スツダ(穢れなき者)、ブッダ(悟りを得た者)、ムクタ(束縛されぬ者)、ニルマラ スワルーピナム(神聖さの化身)です。このような神性原理が人間自身の内に存在するとき、なぜ人は自分を小さく弱いものであると考えるのでしょうか? 皆さんはそのような劣等感を手放すべきです。人間よりも偉大な存在はありません。実際、人類すべての中に神性が内在しています。しかし不運にも、皆さんは人間として生を受けたことを取るに足らないことのように考えています。あなたが思えば、そのとおりになります。先に述べたような狭い考えは、あなたの狭量な心に起因しています。

丘から煙が立ち昇っているのが見えたら、それはそこで火が燃えているしるしです。直接火を見るとき、それはプラティyaksha プラマーナ(直接の体験)と呼ばれます。煙だけが見えて火が見えなければ、煙の向こうには火があるだろうと推測します。それは単なる可能性です。これはアヌマーナ プラマーナ(推測に基づく体験)と呼ばれます。ときには、煙のような霧が現れても実際には丘の上には火がない、ということもあり得ます。それゆえ、アヌマーナ プラマーナは疑いをもたらすのです。

人間の中にある神性を直接体験(プラティyaksha プラマーナ)するのは、愛のみです。「神はどこにいるか?」という疑問に対し、すぐに出る答えは「神は愛、愛は神」です。同様に、「真理は神」です。真理よりも偉大なものはありません。真理よ

りも崇高な神性はありません。真理はすべてに浸透しています。国は異なりますが、真理は一つ、ただ一つです。アメリカの真理とか日本の真理とかドイツの真理などというものはありません。こうした区別をするのは心の狭い人々の性質なのです。

私たちの心は狭くも卑しくもありません。私たちは無限なるものの化身です。人は常に自らが真理の化身・愛の化身・至福の化身であることを、自分自身に思い起こさせるべきです。人は霊的な思索や霊的な探求ができる無限の能力を有しています。しかし人は自分の真の本質を理解しているでしょうか？

皿の上にある一握りの海の砂を例にとってみましょう。科学者は砂の色や重さなどから、この砂はどこそこの国のものだと判定します。しかし賢者は全くそのようには考えません。彼らは、砂は神の創造物であり、マヤー（迷妄）であると言います。このように科学者と賢者の認識の仕方には大きな隔たりがあるのです。科学は半円のようなものです。それはある一点から始まって、別の点で終わります。それに反して、霊性は源の一点から始まって同じ点に戻ってきます。ですから、それは完全な円となるのです。それがまさしく神性です。そのため、次のように言われているのです。

プールナマッター プールナミダム

プールナ プールナムダチャート

プールナシア プールナマダーヤ

プールナメーバ アワシチャート

(あれも完全 これも完全

完全なものから完全を取っても

完全のまま)

このような完全さの化身である神性は、あらゆる人の中に内在しています。しかし、不運にも人は内在する神性を理解しようとする努力を少しもしていません。熟睡しているときに、身体を保護してい

喜びとは、二つの悲しみの狭間のことです。それゆえ喜びを探しに出かける必要はありません。それはまさに私たちの中にあります。実際、あなた方自身が至福の化身なのです。

るのは誰でしょうか？身体についての知識がなくても身体が完全に機能するのはどうしてでしょうか？答えは誰も知りません。創造・保護・維持、すべてを担っているのは神です。そのような神聖な力がすべての人に内在しているのです。それにもかかわらず、人は困難に遭うと落ち込み、喜びのときには得意になります。しかし、それが人生のゴールなのではありません。真のゴールとは、喜びや悲しみに左右されることなく、いかなるときにあっても完全な平静の状態を保つことです。喜びとは、二つの悲しみの狭間のことです。それゆえ喜びを探しに出かける必要はありません。それはまさに私たちの中にあります。実際のところ、皆さん自身が至福の化身なのです。

愛の化身の皆さん！常に幸せで快活でいなさい。皆さんの生まれつきの本性は至福なのです。幸せを探しに行く必要はありません。至福はアートマから生まれます。至福を求めればいつでも、それを得ることができます。幸福とは神と一つになることです。それゆえ、常に神と共にいなさい。神と共にいるなら、幸福は影のようにあなたについていきます。

今日、人は幸せを探しています。そしてその過程で幸せの奴隷となっています。これは正しいことではありません。実際、幸福があなたの奴隷になるべきなのです。なぜならあなたこそ神聖なアートマの化身だからです。信じられないかもしれま

一体性は純粹性をもたらし、純粹性は神性へと導きます。それゆえ一体性と純粹性と神性の間にある切っても切れない関係をつねに覚えておき、それを達成しようと努めなさい。

せんが、私は常に至福の状態にあります。皆さんもそのような至福の状態を体験することができるのです。幸せを求めて出かけてはなりません。そうではなく、あなたがどこへ行こうとも、幸せがあなたのあとをついてくるべきなのです。

ハヌマーンはラーマヤナの物語の中の偉大な英雄でした。勇敢で、力強く、無敵でした。善なる人格と平安が備わっていました。ハヌマーンはラーマの御名を唱えながら、常に幸せで快活でした。皆さんもそのような高貴な資質を伸ばすべきです。まず第一に、皆さんは真の意味での人間になるべきです。すべての人に対して親切心を表しなさい。そのとき初めて皆さんは人類の一員としてふさわしい存在となります。

愛の化身の皆さん！皆さんは世俗的な高等教育を受けています。何冊かの素晴らしい書物を読んでいます。大きな力を身に付けています。しかし、これらすべては一時的ではかないものです。ですから、皆さんの思いは、常にハートを至福で満たしてくれる神の力の上に留めるようにしなさい。神の力に限りはありません。神を思えば思うほど、得られる至福は何倍にも増えます。そのような無限の神聖な力が皆さん自身の中にあるとき、なぜ皆さんが困難にさらされなければならないのでしょうか？

今日は私たちの学校の卒業生たちもここに集まっています。彼らはインドのみならず外国のさま

ざまな地域で、さまざまな種類の奉仕活動に従事しています。そして、こうした活動から彼らは大きな喜びを得ています。ですが、私の考えでは、彼らは地元に残り、自分の資力の範囲内で、社会に奉仕すべきです。奉仕活動をする上で、他と連携し、奉仕がビジネスになってしまうのは良いことではありませんし、その必要もありません。できる限りそれぞれが自分の村で奉仕活動を行い、村人に幸せを与えるべきです。

地方にはさまざまな領域の奉仕活動が幅広くあります。二、三十年前に、私はマイソールのような大都市に移住しないかと誘われました。私のために大きな宮殿を用意するとも言われました。しかし、私には宮殿は必要ありません。私はこの小さな村にいなければなりません。私は生まれたこの地を捨てたことはありません。このような場所であつてもなお、私は膨大な仕事をなさなければなりません。そういうわけで、私はプッタパルティから移る話を断りました。

当時のプッタパルティは、近代的な設備もない、人里離れた村でした。プッタパルティに来るには、一番近い駅であるペヌコンダで汽車を降りて、そこから牛車で旅をしなければなりません。これが当時の交通機関だったのです。しかし、今や直行便の飛行機で快適にプッタパルティまで来ることができます。当時、医者にかかるためには、アナンタプールまで行かなければなりませんでしたが、今は目と鼻の先にスーパー スペシャルティ ホスピタルがあります。かくして今、プッタパルティには、このようなあらゆる近代的な設備と便宜が整えられています。

ゆえに、住む場所として村に勝るところはありません。村は国家にとって最も価値ある資産です。もし、皆さんが村人に適切に奉仕をすることができるのなら、それに勝る偉大な奉仕はありません。

「グラマセヴァはラーマセヴァ、村への奉仕は、ラーマ(神)への奉仕」なのです。

町や都市で行われる奉仕には満足できるものはありません。都会の人々は、無関心で自己中心的です。たとえ隣家に泥棒が侵入しても、彼らは気にしません。一方、村では、ほんの小さな事件でも村人全員が集まります。そのような種類の一体性と同朋意識が、村にはまだ存在しています。一体性のあるところに神性があります。神性があるところに至福があります。ですから、皆さんは今住んでいる村の発展のために誠実に働きなさい。このようにして、皆さん全員がそれぞれの村の発展のために働くべきです。

皆さんの活動は政治的活動のようになってはなりません。さまざまな種類の人々と関わることによって、それは政治的活動に変わります。私はそのような状態を好ましく思っていない。どこにいても、バジヤンに集い、分離状態を許してはなりません。すべてが一つになるべきです。

どこにいても、協力と一体性の精神で奉仕活動に従事しなさい。不調和を起こしてはなりません。長い間、インドは平安に満ちた国で、すべてのインド人たちは大家族のようにまとまっていた。しかし、今の状態はどうですか？昔は誰かが村を訪ねてくればいつでも、村人全員が訪問者を取り囲んで、親切に相手の暮らし向きについて尋ねたものでした。今日、そのような愛と一体性の精神は完全に失われています。どこに行こうとも相違点が指摘され、些細なことで緊張が生じています。特にインド独立の後、国のほとんどの地域で暴動や騒乱が起きています。人命の尊厳が完全に失われてしまったかのようです。人命の価値はなくなってしまう。人々は蟻や蚊のように殺されます。こうしたことは非人間的な、悪魔のような所業です。人間として求められているのは、

村は国家にとって最も価値ある資産です。もし、皆さんが村人に適切に奉仕をすることができるのなら、それに勝る偉大な奉仕はありません。

このようなことではありません。

私たちに内在する神聖な力を、社会に奉仕するための技能へと変容させなければなりません。知識が技能に変わるとき、人生のバランスが得られます。そのような落ち着いた状態の中で洞察力が発達します。そのような洞察力と神聖な力をもって奉仕活動を行うとき、それは社会にとって最も有益で良い結果をもたらすものとなります。

故郷のすべての村が、あらゆる点で発展すべきです。皆さんは、ハイデラバードやマドラス、アメリカなどから奉仕活動に参加するためにやって来ました。とはいうものの、その必要性はどこにあるのでしょうか？これ(註:プッタパルティの近隣の村への奉仕活動、通称グラマセヴァ)は、自分たちの商品売るために、さまざまな地域からさまざまな人々が集まる定期市ではありません。

あなたのいるところがどこであっても、あなたの奉仕でああなたの住む地域を発展させなさい。ある場所に住む人が別の場所に行って、その地域に貢献しようとするかもしれません。しかし、この種の異なる出身の人々の交じり合いは、目的そのものの質を低下させます。それは混乱で終わり、墮落に変わります。不必要な差異で、心が混乱したり墮落する余地を与えてはなりません。

あなたは常に純粋な心で奉仕活動に従事すべきです。皆さんが犠牲の精神で共に集まり、共に働くことは差し支えありません。しかし、こうしてさまざまな地域の人々がグラマセヴァのために集う

なら、村にとって良いことは起こりません。各々が自らの思いをもっており、一緒になることで墮落します。そうして、その場所はビジネスセンターになってしまいます。

霊性はビジネス活動ではありません。霊性とは神聖な邸宅です。それは一体性につながっています。多様性における一体性こそが、皆さんに幸福をもたらします。皆さんが一体性の原理を培うことを、私は強く望みます。そのとき初めて、皆さんの従事する奉仕活動に価値が生まれ、神聖なものとなるでしょう。あらゆる種類の差別によって神聖な奉仕活動を汚してはなりません。小さな例を挙げましょう。金は金鉱に埋まっていますが、それを取り出し、精製することによって純粋な二十四

金となり、大きな価値を得るようになります。しかしながら、それに銅のような他の金属を加えるとその価値は下がってしまいます。それだけではありません。輝きもまた失われます。さらにもっと金属を加えるなら、金の価値は全くなくなってしまう。私たちのハートは金でできた寺院のようなものです。それはヒラニヤガルバです。決してそのヒラニヤガルバを汚してはなりません。それは常に光り輝いているべきです。

愛の化身の皆さん！すべての人と愛を分かち合いなさい。常に一体性と純粋性を保ちなさい。皆さんがあらかじめ計画したように、今から音楽プログラムを開始して結構です。

2003年1月1日の御講話

多様性の中に一体性を見ることが真の靈性

すべての名と姿は至高神の顕現である

彼は平安と吉祥の具現である

彼は実存、知識、至福、絶対者、非二元性である

彼は真、善、美（サティヤム シヴァム スンダラム）である

（サンスクリット語の詩）

神性アートマの化身である皆さん！今日、人々はこの世界でたくさんの種類の教育を受けていますが、人間性という知識に欠けています。彼らは一体性の中に多様性を見ますが、多様性の中に一体性を見ることができません。愛の化身である皆さん！一体性の中に多様性を見ることは非常に簡単で、誰にでもできます。しかし、この世界の中に存在する多様性すべての根底にある一体性を認識するには、たくさんの努力が必要です。

万物の中に存在する神性原理を認識せよ

今日の人々は、万物の中に均一に存在するアートマ原理の知識を得ようとすべきです。アートマ原理を知る人は、すべてを知ります。この世界にいるすべての人間を一つとして考え、人類全体が一つであることを認識しなさい。

宗教はさまざまですが、目的地は一つです。

衣類はさまざまですが、糸は一つです。

宝飾品はさまざまですが、黄金は一つです。

牛はさまざまですが、牛乳は一つです。

神が創造した世界全体には一体性がありますが、人類がその中に多くの分裂を生じさせます。人類全体が一体となることが、今必要とされています。一体性を育めば、あなたのハートの中には純粋性があるでしょう。純粋性があるところに神性があります。一体性、純粋性、神性は密接に関連しており、相互に依存しています。しかし、現代の人々は一体性から離れて彷徨っています。私は言い続けています。「宗教はさまざまですが、目的地は一つです」と。

つねに万人を愛しなさい。
あなたがこのようなやり方で皆を愛するならば、憎悪、怒り、強欲のような邪悪な資質はすべてあなたのもとを去るでしょう。あなたがこれらの邪悪な資質から解放されれば、容易に解脱に到達するでしょう。

非常に多くの人々がこのホールに集まりました。彼らはここに来るためにさまざまなルートを使いましたが、皆の最終目的地は同じでした。同様に、皆が一つの神に到達しなければなりません。神性はすべての人間に内在しています。人間の命は、神性なしにはあり得ません。「神は人間の姿をしている(ダイヴァム マヌシャルーペーナ)」のです。人間とは誰のことですか？この言葉の意味を理解することなしに、人々は、誰かのことを、人間のように手、足、耳、目などの人間の姿形を授けられた人間と見なします。しかし、そうではないのです。

実際のところ、人間と神の違いはありません。人間は分離した存在ではありません。神と一つであることを実感認識しているのが本当の人間です。人間の肉体的な姿形には違いがあるかもしれませんが、万人の中に同一の神性原理が存在しています。しかし、さまざまな方法で人と人との間に相違点を生み出す人がいます。これが今日の世界におけるあらゆる種類の争い、悲しみ、悲惨さの原因です。ひとたび同一の神性原理が万人の中に存在するという真理を理解すれば、相違点やトラブルが入り込む余地はなくなります。ですから、つねに人類の神性に焦点を合わせなさい。私たちのあらゆる困難は、自分が神であることを忘

れて、相違点を増やすときに起こります。ですから私たちは己のハートの中に神性原理をしっかりと据えるべきです。それは誰にとっても同じです。

神の名前を唱えることで あらゆることを達成できる

私は数日前に、ラーマという神の御名の力によって、ハヌマーンがどのように海を渡り、ランカにたどり着いたかを話しました。この出来事の前に、すべてのサル(ヴァーナラ)が海岸に集まり、疑問を呈しました。「誰が一飛びで海を渡ることができるだろうか？」何人かは、自分は40リーグ(約192 km)は跳べるだろうと言いました。50～60リーグ(240～288km)は跳べると言ったサルもいました。しかし、同じ質問をハヌマーンにすると、彼は「ラーマ様の恩寵によって、私は何kmでも跳ぶことができる」と言いました。他のサルたちはラーマの神性について限られた理解しか持っていなかったのですが、ハヌマーンだけが実在を完全に把握していたのです。

私たちに神の直接的認識をもたらすのは、神の御名を繰り返し唱えること、苦行、ヨーガ、儀式のような霊性修行ではありません。多くの人々がこれらの修行を行ってきましたが、彼らは何を体験し、達成したのでしょうか？これらは単なる肉体的修行、外側の修行にすぎません。

最も大切なのは神の御名です。この真理を知れば、あなたはすべてを知るでしょう。そのため私は時折あなた方に「ハリ バジャナ ビナー スカ シャーンティ ナヒン...(神の御名を唱えることなしに幸福と平安はありえない)」と、語りかけ続けているのです。神の御名だけを唱えることによって、あなたはあらゆることを達成できます。ハヌマーンはラーマの御名を絶えず唱えながら、広大な海を渡りました。しかし、他のサルたちは、この真理を読み

誤ったのです。

海に架かる橋を建設していたとき、ハヌマーンはサルたちに、一つの石に「ラー」、もう一つの石に「マ」と書いて、海に投げ込みなさいと告げました。すると、石同士がくっついて橋を形成したのです。ラーマとラクシュマナ、そしてサルたちは、ラーマという神の御名の一体性の原理によって建てられたこの橋の上を歩くことによって、海を渡り、ランカに到着しました。私たちはこの真理を心に銘記しておくべきです。

私たちは、ラーマ、ラクシュマナ、ビーマなどの名前に基づいた違いに目を向ける代わりに、彼らの中にあるアートマ原理を認識し、万人を神性の化身と見なすべきです。神の御名を繰り返し唱えること、瞑想、供犠、ヨーガのような靈性修行は、あなたのハートの中に神の御名がなければ、ほとんど意味がありません。

あなたには名前があります。それは、誕生した後に両親から与えられた名前です。あなたはこの名前と共に生まれたわけではありません。あなたはラーマの原理と共に生まれました。それがアートマです。アートマと呼んだり、オームカーラと呼んだり、ラーマと呼んだりしますが、すべては同一の神性原理を指しています。たとえ敵に出会ったとしても、彼らにあいさつをしなさい。あなたのあいさつは敵のもとへ行くのではなく、神に届くのです。到達します。「こんにちは」と言いながら愛を込めて敵に挨拶すれば、彼らは憎しみを手放して、あなたと仲良くなるでしょう。しかし、現代の人々は、己のエゴゆえに、自分と名前を同一視します。彼らは、「私はブラフマンである(アハム ブランマースミ)」と言う代わりに、自分はラマイアであるとか、クリシュナイアであるなどと考えます。これがすべての違いの根本的な原因です。

すべての中に普遍的に存在する名はラーマの

どの神の御名を唱えてもよいのです。しかしあなたは自分の中にあるアートマが神性原理であることを固く信じなければなりません。そうすれば何の困難も感じないでしょう。

御名です。ラーマを深く思いながら他の人にあいさつをすれば、あなたのあいさつがラーマに届くでしょう。それゆえ、あらゆる活動を神を喜ばせるために行いなさい。料理や食事などの日々の雑務はすべて、ラーマの原理に満ちています。人々はこの微細な真理を理解していないため、世俗的で外的で物理的な修行に取り組むのです。

エゴと執着が束縛の原因

科学における発達のすべては、世俗的で物理的なレベルにすぎません。科学者たちは、高速で、一分間で数百マイルも飛べる飛行機を開発しました。しかし、それらはあらゆる種類の危険に人々をさらしています。世俗的なものはすべて、いつかは滅びるのです。陶工はたくさんの壺を作ります。しかしそれらが手からすべり落ちれば、割れて粉々になります。

私たちが己のメリットのために行うことはすべて重要ではありません。私たちが行うことは何でも、社会とコミュニティにとって有益であるべきです。私たちの幸福は社会の幸福の中にあります。現代は誰一人として社会について考えません。私たちがどこへ行こうとも、そこには利己心と私利私欲がはびこっています。それが、世界の中に非常に多くの紛争や差別がある理由です。

一つの家族の中でさえも相違点があります。人々の間に相違点が増えているために、一体性は壊滅状態です。それゆえ、一体性を求めて努

他の人が幸せでなければ、あなたは幸せでられません。それゆえ、小さな生き物や昆虫を含めた、すべての幸福のために祈りなさい。これが一体性の真の意味です。

力しなさい。あなたとあなたの隣人は一つです。名前だけは異なるかもしれませんが、あなた方双方に内在する神性は同じです。一体性という神性原理があなたのハートの中にしっかりと埋め込まれていれば、異なる名前で人々を呼ぶのは間違いではありません。

世帯主としての義務を果たしなさい。しかし、これはあなたの世俗的な義務です。あなたは普遍的なダイヴァ ダルマ(神としての義務)を認識しなければなりません。私があなた方に「神性アートマの化身である皆さん！(ディヴィヤートマ スワルーパラーラ)と呼びかけるのは、そのためです。自分が言っていることが絶対的に真実であると言いたいとき、人は「アートマサークシ」という言葉を使います。それは、アートマが彼の目撃者である、という意味です。それゆえ、私たちはアートマ原理を認識しながら行動すべきなのです。

人々の相違点が異常に増えたため、今日の世界の一体性は破壊されました。それゆえ、名や姿に基づく相違点を認めてはなりません。アートマ原理への信仰を育みなさい。アートマはただ一つです。それは分割不可能であり、粉々に砕くことはできません。断片に分割することはできません。肉体だけが死にます。しかし、アートマは永遠に生きるのです。すべての人間が輪廻を経験すると言われていました。しかし、誕生して成長し、死ぬのは人間の体だけであり、アートマではありません。

ん。それゆえ、アートマ原理は一つであると知りなさい。

人々には何でも言わせておきなさい。あなたのアートマがあなたの目撃者であることを認識すべきです。いかなる状況下でも、この神性原理を手放してはなりません。何をするにしても、アートマのためにそれをしなさい。どんなおいしい食べ物を食べたとしても、それらは神への捧げ物であると考えなさい。人生においてあなたが何をしようとも、それを神に捧げるという気持ちでそれを行いなさい。「すべての行為を神を喜ばせるために為しなさい(サルヴァ カルマ バガヴァッド プリーッティヤルタム)。」そのような神聖な感情を持っていれば、あなたは容易に解脱に達することができます。

モーハ(世俗的な執着)を手放したときにのみ、人はモークシャ(解脱)に到達することができます。「私が」という気持ちはエゴの原因であり、「私のもの」という気持ちは執着の基盤です。エゴと執着があなたの束縛の原因です。したがって、何よりもまず、エゴと執着を取り除こうとしなさい。これら二つを減らしただけ、あなたは解脱に近づくでしょう。荷物が少ないほど快適になり、旅が楽しいものとなります。あなたの欲望という重荷を減らしなさい。

しかし、その一方で、人々は成長するにつれて欲望という重荷を増やし続けます。欲望が増すにつれて、人間性が減少し、自分は神であるという意識を失います。それゆえ、私たち己の中に神性を育まなければなりません。他のすべてのことはいつかは滅びる定めにあります。どれほど確実に安全に所有物を保管したとしても、最終的には私たちはそれらを失わなければなりません。私たちは全財産を大銀行に預け、鍵のかかった場所に置き、適切なセキュリティを手配するかもしれませんが。それでも、私たちはいつかそれを失うことにな

るのです。腐りやすいものに誘惑されてはなりません。あらゆる場所で永遠に私たちと共にあるのはアートマ原理です。

一体性の精神を育みなさい

ラーマがダジャラタ王の息子として化身してから数千年が経ちましたが、今日でも子供から老人まで彼の御名を唱えています。人々は、困難に直面すると、「ラーマ、ラーマ」と言います。この神聖な御名は、死にかけている男の耳の中にささやかれます。あなたが愛すべきものはラーマの御名であり、他には何もありません。彼は皆を魅了したので、「ラーマ」という名前を与えられました。

あなたはどんな神の御名を唱えてもよいのです。しかし、あなたの内にあるアートマが神性原理であることを固く信じなければなりません。そうすればあなたには何の困難もなくなるでしょう。

私たちはたくさんのお金を貯めますが、誰の為なのでしょう？この世を去るとき、私たちはほんの一パイサだけでも持っていくことができるでしょうか？いいえ、いいえ。私たちは肉体さえもここに残していくのです。心(マインド)は放棄されるかもしれませぬ。知性は曇るかもしれませぬ。しかしアートマは永遠の目撃者であり続けます。それがラーマの原理です。

ラーマという御名は特定の姿を示すものではありません。それは神性原理を示します。それゆえ、常に神の御名を唱えなさい。それは、ラーマでも、クリシュナでも、その他の御名でもよいのです。シヴァは吉祥という意味です。私たちに吉祥をもたらすのは、神の御名だけです。私たちは、シュリーニヴァーサ、ヴェーンカテーシャ、ラーマなどと言うかもしれませんが。これらはすべて同じ神性原理を示しています。この神性原理をあなたのハートの中に組み込みなさい。

人々は唱名(ナーマスマラナ)をしながら「ラー

あなたが何をしようとも、一体性の精神でそれを行うべきです。あなたの行動すべてを神を喜ばせるために行いなさい。それが確実に普遍的善へと導くでしょう。

ム、ラーム、ラームと唱えます。唱名が終わると、ラーマも忘れられます。しかし、私たちは決してラーマを忘れてはならないのです。どんな仕事をしようとも、絶えず神の御名を唱えるべきです。カリユガ(現在の時代)においては、御名を思い起こすこと(ナーマスマラナ)が、解脱に到達する方法として処方されています。この真理を悟ったグルナーナクは、コミュニティで歌う修行を始めました。皆が集まってバジヤン(祈りの歌)を歌うべきです。何人かの心(マインド)は他の方向に向かうかもしれませぬ。けれども、少なくともその数人は、神の御名に心(マインド)を集中させるでしょう。したがって、グループでバジヤンを歌えば、少なくとも一人または二人の祈りが神に届き、全員に恩恵をもたらすでしょう。

私たちは、木に熟した果物をすべて食べるでしょうか？いいえ、私たちは、ほんの少量を自分たちで食べて、残りは他の人々に配ります。自宅でデザートを用意すると、家族全員がそれを食べます。デザートを用意した人が全部まるごと食べてしまうことはありません。

ダジャラタ王が息子が生まれることを祈願して供犠(プットラカメーシティ ヤグニヤ)を行ったとき、供犠の火からまばゆく輝く存在が現れて、カウサリヤー妃、スミラー妃、カイケーイー妃という三人の妻に分け与える甘いライスプリン(パヤサム)の入った器を王に渡しました。(ここでスワミはラーマ、

あなたの不純さすべてを燃やせば、神性を悟るでしょう。あなたが愛を育めば、憎しみなどの邪悪な資質はすべて弱まるでしょう。

ラクシュマナ、バラタ、シャトルグナが生まれたときの物語を語り、ラクシュマナがいつもラーマの後を追ひ、シャトルグナがバラタの後を追う理由を説明されました。)

ラーマとラクシュマナ、そしてバラタとシャトルグナの間には強い愛の絆があり、決してお互いから離れませんでした。この一体性がどれほどの力を有しているかをご覧ください！団結は強さです。互いに話をせず、一体性を深めなかったら、何一つ達成できません。あなたの中に何らかの反目する気持ちが生じたとしても、お互いに調整しようと努めなさい。帰依者たちは、正しい理解と調整を行いながら、事を荒立てることなく身を処すべきです。たとえあなたが崇拝する神を誰かが批判したとしても、その批判に反応してはなりません。むしろ、あなたの神がその批評家の姿を取ったのだとだけ考えなさい。賞賛も非難も、神にとっては大した問題ではないのです。

常に万人を愛しなさい。このようにして、すべての人を愛すると、憎しみ、怒り、食欲という邪悪な資質はすべてあなたから離れていくでしょう。これらの邪悪な資質と無縁になれば、あなたは容易に解脱を得るでしょう。あなたは、自分が帰依者であると主張しますが、あなたの中に憎しみ、怒り、嫉妬、偽善、悪意などがあるのなら、何の意味があるのですか？これらの邪悪な資質はあなたの人生を台無しにするでしょう。他の人と笑顔で会話しなさい。一体性の精神を培いなさい。

たくさんの方がここに来ました。彼ら全員がバジ

ャンに参加しましたが、ハートの中に本当の信愛を持っている人は何人いるのでしょうか？本当の信愛を持つ人が十人いるのなら、それで充分です。

皆さんは一体性の精神を自分のものとすべきです。誰に出会おうとも、「彼は私の兄弟であり、彼女は私の姉妹です」と言いなさい。このようにして、すべての人を自分の兄弟姉妹と見なし、一体性をもって行動しなさい。万人が神の子供なのです。それゆえ、あなたと他の人との間に憎しみの感情が生じた場合にはいつでも、あなたと彼らは別々の存在ではないということを思い起こしなさい。すべては一つであると考え、一体性に到達し、その至福を体験しなさい。多様性の中に一体性を見ることが、神性であり、真の靈性(スピリチュアリティ)なのです。聖典の研究、儀式を行うこと、礼拝をすること等が、真の靈性を意味するものではありません。アートマ原理という一体性を認識することが真の靈性です。この一体性を悟れば、神の恩寵が得られるでしょう。

あなた方はいつも「サイラム、サイラム、サイラム」と唱えています。これだけでは、あなたの中に信愛は育まれないでしょう。真の信愛を育むために、あなた方は一体性の精神を自分のものとし、神の御名を唱えるべきです。もし、ほんのわずかでも真の信愛があなたの中にあるのなら、他者に対して善を行い、彼らとの調和の中で生きなさい。誰をも憎んではなりません。すべてを愛しなさい。もしあなたに愛と信仰があれば、あなたは非暴力を発揮するでしょう。そのとき初めて、あなたは至福を体験できるのです。

まもなく人類は一つになる

真理、正義、平安、愛を育むようにとあなた方に語る真の目的は何ですか？正義は真理から生

まれます。

「真理を固く守ること以上に偉大なダルマはない(サッティヤンナースティ パロー ダルマハ)。」真理がなければ、正義はあり得ません。同様に、正義がなければ愛は存在できません。あなたに愛があれば、誰かを憎んだり、軽視したりしないでしょ。真理、正義、平安、愛(サティヤ、ダルマ、シャーンティ、プレーマ)は、人間の最上位の資質です。怒り、嫉妬、悪意、偽善、色欲、憎悪、食欲は人間の資質ではありません。愛と平安があれば、他の美德すべてがあなたの中に自然と育まれるでしょう。

人々は「私は平安が欲しい、私は平安が欲しい」と繰り返します。このようなことを絶え間なく言い続けることによって、平安を得ることができる人がいるのでしょうか？いいえ、一人もいません。愛を育んだときに初めて平安が得られるのです。平安は市場で買える商品ではありません。それは愛に満ちたハートから生じるのです。

愛はどこから来るのでしょうか？愛は正義から生じます。正義は真理から生じます。それゆえ、真理は正義の源であり、正義は愛の源であり、愛は平安の源なのです。平安と愛の両方があるところには、自然と非暴力が生まれます。したがって、真理、正義、平安、愛、非暴力が真の人間の資質なのです。それらをあなたの五つの生氣(パンチャ プラーナ)と見なさない。

今日、人々は人間的特質というこれら五つの生氣を忘れてしまっています。その代わりに、彼らは色欲や怒り等の邪悪な資質を心に抱き、それを自分の生氣と見なしています。それが、人々が非常に多くの困難に巻き込まれる理由です。人間的特質を発達させれば、あなたは確実に平安を手に入れるでしょう。それゆえ、五つの生氣のように、あなたが生まれつき持っている人間的特質を

失わないようにしなさい。色欲、怒り等の邪悪な資質から距離を置きなさい。

信じようが信じまいが、今後二十五～三十年のうちに、全人類は一つになるでしょう。ヒन्दウー教徒、イスラム教徒、キリスト教徒など、あらゆる宗教の人々が団結するでしょう。世界には完全な一体性がもたらされるでしょう。神への信愛という精神が世界の他の地域すべてに広がるのは、バーラタ(インド)からです。この真理をあなたのハートの中に大切に保管しておきなさい。

人々は文化を生き方と考えています。いいえ、そうではありません。あらゆるものが一つであることが文化なのです。純粋性は文化です。すべての不純物を燃やすと、神性を実感できます。あなたが愛を育てれば、憎しみ等のあなたの邪悪な資質はすべて枯れるでしょう。

人々は、「彼がどれだけのお金を貯めたのか、見てください！彼はなんと高い地位を得たでしょう！」と言いながら、自分より秀でた人々に対して憎しみと嫉妬を抱きます。彼らはより素晴らしい成果を上げた人々を憎むのです。これはよくありません。誰かがあなた以上の成果を収めたのなら、自分がその人ほど成果を上げられなかった原因は、自分の能力不足であると考えなさい。あなたの愛を増やしなさい。あなたのハートを広げなさい。そうすれば、あなたはより多くのことを成し遂げ、成功するでしょう。

勝利と敗北は、あなたのハートの感じ方に左右されます。これに関連して、ヴェーダは「心(マナス)は人間を束縛する原因であり、解脱する原因でもある(マナ エーヴァ マヌッシャーナーム カーラナム バンダ モークシャヨー)」と宣言しています。私たちの心(マインド)は、愛または憎しみの根本原因です。あなたが何をしようとも、一体性の精神でそれを行うべきです。あなたの行動すべてを神

を喜ばせるために行いなさい。それが確実に普遍的善へと導くでしょう。

バジヤンの後、私たちは全員で「サマスタ ローカーハ スキノー バヴァントウ(すべての世界が幸せになりますように)」と唱えます！あなただけが幸せなら、大きな成果を上げたところで何になるのでしょうか？すべてが幸せであるべきです。あなたの幸せは皆の幸せの中にあります。あなたの幸福は皆の幸福の中にあります。他の人が幸せでなければ、あなたは幸せでられません。それゆえ、小さな生き物や昆虫を含めた、すべての幸福のために祈りなさい。これが一体性の真の意味です。すべての幸福を願うハートのみが、神にとって愛しいのです。

今日私が語ったことはすべて深遠なる真理です。これが信愛の真髄です。信愛とはどういう意味ですか？それは大きな海ではありません。それは至福の海です。それは次のように描写されています。

ニッティヤーナンダム、
パラマスカダム、
ケーヴァラム グニャーナムルティム、
ドヴァムドヴァーティータム、
ガガナ サドルシャム、

タットワマツスヤーディ ラクシヤム、
エーカム、
ニッティヤム、 ヴィマラム、 アチャラム、
サルヴァディー サークシブータム、
バーヴァティータム、
トリグナラヒタム

永遠の至福の体現者であり、
この上ない歓喜を与え、
究極なる叡智の具現であり、
二元性を超え、
大空のようであり、
「タットワマスイ」 (あれは汝なり)
という大格言によって示され、
一つであり、
永遠であり、純粋であり、不動であり、
理知のあらゆる働きを目撃者であり、
あらゆる心の状態を超越し、
三つの属性 (グナ) (鈍性・激性・浄性)
を持たない

私たちはこの永遠なる至福に到達すべきです。

2008年5月31日の御講話
ブリンダーヴァンにて

一体性、純粹性、神性

人は、幼年期には、他の子どもとの遊びに夢中になる
青年期と中年期には、世俗の事柄に巻き込まれ、
お金を稼ぐことにのめり込む
ついに老年期に達すると、その老熟した年齢にもかかわらず、
神を黙想することもなく、あれやこれやと渴望する
こうして人は、貴重な人としての生涯を浪費する
(テルグ語の詩)

この世には、教育を受けた何百万という人々がいます。子どもから博学な老人まで、すべての人が、本を読んで知識を得ることに
関心を抱きます。しかし、書物の知識を得ることによって、
人々はこういった恩恵を受けていますか？ そのような教育は、ただあなたが生計を立てるのを助けることができます。貧困者から億万長者まで、
すべての人が我が子に十分な教育を受けさせたいと願っています。子どもに質の高い教育を与えるためなら、親はどれほど多くのお金を使うことも、
(分不相応な)借金さえもする覚悟です。子どもを教育するために親が多大な苦難に直面しているという事実にもかかわらず、子どもは自分の恩人である親に何の感謝の念も抱いていません。子どもは、「私は誰のおかげで成長できたのか？」、「今の私がいるのは誰のおかげか？」という内省をしていません。

こういった状況の下、私たちは教育の真の目的を探求すべきです。人はたくさんの書物を学び、知識のさまざまな部門を習得しているかもしれませんが、平安や平静を味わっているのでしょうか？ 書物から得る知識はすべて、ただ体の必要に対処できるのみです。実を言えば、真の知識は万人の内に潜んでいます。女性は学問的優秀さにおいて男性に遅れをとっていません。教育は自分に尊敬と評価をもたらしてくれると人々は考えています。しかし、人々は高い学力があっても真の英知に欠けています。

教育は変容という結果をもたらさなければならない

現在、親は子どもが職業志向の教育だけを追及することを望んでいます。しかし、そういった、子どもに変容をもたらさない教育が何の役に立つでしょう？ そのような教育によっては、子どもが恩恵を受け取ることもなければ、親を助けることもできません。現代人は学歴によってエゴを膨らましています。

まず自分の五感を浄化して、一体性を培いなさい。すべての人をあなたの兄弟姉妹と見て、仲良く暮らさないさい。

謙虚さは真の教養のしるしです。もし識別心と謙虚さに欠けるなら、その人の学歴の一切は全く無価値です。皆さんは、自分の教養は社会の幸福と繁栄のためのものであるということを理解すべきです。しかし、社会は教育を受けた人々からどういった恩恵を受けていますか？実際は、皆さんは多くのことを社会から学び、社会の恩恵を受けています。けれども、無学な人々の中にさえ見られる識別力が、今日のいわゆる教養人たちの中には見出せません。これが本当の現状であるというのに、なぜ教養のある人たちはエゴを膨らませてしまうのでしょうか？現代の学生には謙虚さがほとんどありません。学生たちは年長者に全く尊敬を示しません。学生たちは社会に対する自分の責任を自覚していません。もし年長者に尊敬を示さず、社会に奉仕をしないなら、ただ書物の知識を学んでも、それがいったい何の役に立つでしょう？そのような生活を送る人は自分の本性に背いています。そのような人は、歩くこと、話すこと、読むこと、書くこと、すべてがうわべだけの見せかけになります。もしこれが大学教育の結果であるならば、なぜ大学に行く必要があるでしょう？すべての学生はこう自問しなければなりません。「私は大学で何をしているのか？」、「私は本来、何をすべきなのか？」と。こうした自己探求をして、初めて人は教養が真に意味するものを理解することができます。単なる書物の知識は真の教養ではありません。それはただ本に書かれたことを頭に移しただけ、頭にあることを本に書いただけです。このようにして、人々は教育の真の意味もよく理解し

ないまま、本と頭の間でがんじがらめになっているのです。人々は実用的な知識を身につける代わりに、本による知識の追求に時間を浪費しています。もちろん本にはたくさんの情報が詰まっているでしょうが、もし頭が汚物でいっぱいであれば、本は何のためになりますか？そのような教育からは、決して望ましい成果を得ることはできません。主賓のスピーチの中でも同じことが述べられました。「誰もが学び、勉強していますが、その最終的な結果はどうでしょうか？」と、主賓は問いかけました。人々は大学教育を受けるために何万ルピーものお金を使います。教育を受けた人たちは今の社会の中でどんな役割を果たしていますか？彼らは社会の平和に貢献しているでしょうか？彼らは個人の変容をもたらしていますか？いいえ。それどころか、彼らは自分の子どもに規律を教え込むことさえできていません。ほとんどの子どもは、親の前では良い振る舞いをし、かしまっているかもしれませんが、いったん家を出ると、乱暴者のように振る舞っています。

学生は社会で良い評判を得るよう努力奮闘すべきです。現代の教育は、学生を物質主義者にしています。現代の教育は、内なる声を聴くために学生に内面へと向かう準備をさせる、ということをしていません。人は真我(アトマ)の知識を手に入れるべきです。それが真の教育です。真我(アトマ)を自覚しないなら、他のすべての知識は無益です。なぜそのような教育を追い求める必要がありますか？

行動は言葉に従わねばならない

人々は自分の影響力や能力を行使することには関心を抱いていますが、自分の心やハートを清めるための努力はしていません。これは現代の教育のせいです。人々は優しく話すことは覚えま

したが、自分の言葉を行動に移していません。

愛の化身たちよ！ただ本の内容を丸暗記して学ぶことは重要ではありません。皆さんはあらゆる聖典の核心を吸収すべきです。それが真の教育です。人々はたくさんの本を読みますが、それが何の役に立っていますか？人々はただ他人が言ったことを引用しているだけです。これが皆さんが学ぶことを期待されているものでしょうか？皆さんは、自分の内なる声が語る促しに耳を傾けて、それを他の人々と分かち合うべきです。けれども、当世ではこのように考える人はほとんどいません。

愛の化身たちよ！少なくとも学んだことの一つか二つの行動指針を実践し、他の人々に模範を示すべきです。博学な学者は大勢いますが、彼らは自分が学んだことを実践しているでしょうか？学者たちは優れた長(チーフ)に見えますが、振る舞いにおいては安物(チープ)です。教育の目的は人格です。私たちは、人格を命の息吹と見なさなければなりません。人格の伴わない教養は、生煮えのお米のように無益です。私たちは少なくとも一つか二つの行動指針を実践し、それから初めて思い切って他の人々に説くべきなのです。

すべての人間の内には、マナス(心)、ブッディ(理知)、アートマ(真我)という三つの重要な原理が存在しています。真我の特質とは何でしょうか？真我は遍在です。真の教養はハートから生じるものです。ここで言っているのは霊的なハート[フリダヤ]のことであり、体のハート[心臓]のことではありません。自分の知識を行動に移すことによって社会に理想を示した、多くの高潔な人々がいます。もしあなたが行動指針に基づいた行動をしないなら、あなたの教養はすべて無駄になります。重要なのはあなたが実践する内容であって、あなたが話す内容ではありません。あなたがどこへ行こうとも、あなたの振る舞いは模範的である

べきです。それこそが私を喜ばせるのです。

霊的知識を身につけるよう励みなさい

幸福は神との結合にあります。皆さんは、死すべき運命にあるありふれた人間ではありません。本質的には誰もが神です。あなたの真の本性を顕現させるために、自分が説いていることを実践しなさい。そうして初めて、至福を体験することができます。誠に、至福は人間の真の特質です。なぜ、あなたにとって自然なものを捨て、不自然な生活を送らねばならないのですか？どこを見ても、大学でも学校でも、学生たちは実践的知識に欠けています。学生たちは書物の知識だけを重視して、自分たちが「本」になっています。真の教養はハートから生じるものです。ハートは人間の存在にとって大変重要です。子どもが生まれた時、人が最初に確かめるのは心臓の鼓動です。皆さんは、体のハート[心臓]よりも霊的なハート[フリダヤ]を信頼すべきです。良心というのは霊的なハートの別名です。あなたのハートを清らかに保ちなさい。あなたはそのことに主な努力を傾けるべきです。愛とハートの清らかさを持って行われたことは、何であれあなたに至福を授けてくれることでしょう。実際のところ、至福はすべての人の内に潜んでいるのです。ところが、人間はその真理に気づいていません。人は自分の中に生まれつき備わっている至福を外に顕わす努力をすべきです。その至福の特質とはどのようなものでしょう？ニッティヤーナンダム、パラマスカダム、ケーヴァラム、グニャーナムールティム、ドワンドワーティータム(神は、永遠の至福の化身、この上ない歓喜を与える者、究極の叡智の権化、二元性を超越した者)——それは二元性を超越しています。二元性に浸っているかぎり、人が至福を体験することはできません。まず、ユニティー[一体性/単一性/一つ]という原理を理解する必要があります。ユニティーは純粋性をもたらし、純粋性は神性をも

もしあなたのハートが愛で
いっぱいでないなら、あなた
の人生はうわべだけのもの
になるでしょう。愛がな
ければ人生は無意味です。

たらしめます。真の人間とは、一体性、純粋性、神性を得ようと懸命に努力する人です。そうでなければ、人は鳥や動物と何の変わりもありません。まず自分の五感を浄化して、一体性を培いなさい。すべての人をあなたの兄弟姉妹と見て、仲良く暮らしなさい。公の会合では、話し手が聴衆に向かって「兄弟姉妹の皆さん」と呼びかけるのを聞きます。しかし、彼らは本気でそう言っているのでしょうか？ 昨今、兄弟姉妹の間に一体性が見られますか？ 見られません。真の幸福は一体性にあります。人間の生涯は木に例えられます。親類縁者は大枝や小枝です。神を憶念することが花であり、あなたはそこから至福の果実を手に入れるのです。

学生諸君！ 皆さんは確実に世俗の知識を習得することができます。しかし、それだけで満足すべきではありません。内に向かい、靈的知識も身につけるべきです。そうして初めて、平安を得ることができます。

愛の化身たちよ！ 愛は教育の核心です。愛を失えば、教育はうわべだけのものとなります。ですから、今すぐにでも愛を育てなさい。体は異なっても内在者は同じであることを理解しなさい。この根本原理にしがみついて、至福を体験しなさい。多くの皆さんがここに集まっています。どの人の注意もスワミに集中しています。それと同じようにして、あなたの心(マインド)を常に神性に集中させなさい。神を憶念しなさい。同胞に奉仕しなさい。十日間飢えに苦しんでいた人が豪華なごちそうにあずかったとします。あなたはその人が体

験する喜びを十分に想像することができるでしょう。すべての貯水池と湖がチョロチョロと水が流れる程度にまで干上がってしまったとします。あなたは降り続けるとしゃぶりの雨がその地にもたらず喜びを想像することができるでしょう。それと同じように、あなたの助けが欲しくてたまらない人々に奉仕しなさい。彼らに幸福を与えなさい。皆さんは奉仕を通してのみ、神性を獲得することができます。人間の生涯は最も貴重なものです。ところが、人間は動物のように振る舞って、自分の人生を無駄にしています。

学生諸君！ 皆さんはヴィッディヤールティ[学生／高次の知識(教養)を捜し求める者]なのですから、真のヴィッディヤールティ[高次の知識(教養)]を習得するために努力しなければなりません。ヴィッディヤールティ[高次の知識(教養)]の真の意味を理解することなく、ただ本を読むだけでは無意味です。常に人生の根本的な原理を憶念しなさい。生き物はたくさんいますが、神性原理は一つであり同じです。ですから、アートマ[真我]の姿をとって万物の中に存在している神性原理を認識しなさい。アートマは支える者(アダーラ)であり、体は支えられる者(アデーヤ)です。アートマをあなたの人生の基盤であると考えなさい。そうすれば、他のすべての面倒を見てもらえるでしょう。誰もがアートマを見ることができます。誰もがその力を授かっています。自分自身に尋ねてごらんください。膨大な量の書物を読むことであなたは何を手に入れましたか？ あなたは無慈悲になりました。もしそれがあなたの受けた教育の結果であるならば、なぜ勉強する必要がありますか？ 第一に、愛を育てなさい。あなたの中に愛があれば、誰もがあなたの友人になるでしょう。もしあなたのハートが愛でいっぱいでないなら、あなたの人生はうわべだけのものになるでしょう。愛がなければ人生は無意味です。もし、すべての人が隣人と愛を分かち

合うなら、憎しみの余地は全くなくなるでしょう。あなたの愛をすべての人に分け与え、兄弟姉妹のように暮らさなさい。現代では、兄弟姉妹の間にさえ論争や不和が見られます。それは正しい理解を欠いているからです。

一つという原理を理解しなさい

人々は愛というものの本当の意味を理解していません。人々の愛は、身体的、世俗的な感情で汚されています。あなたが愛の原理を理解して、愛するために愛を育てるとき、すべては一つになるでしょう。ヴェーダは「サハスラシールシャープルシャハ サハスラークシャツ サハスラパート」[遍在の神は無数の頭と目と手足を持っている]と述べています。これは、「すべての頭、すべての目、すべての足は神のものである」という意味です。万物に内在する一つという原理をひとたび理解すれば、あなたは真の兄弟愛の精神にかなって生きることができます。

手には指が五本ありますが、指はそれぞれ割り当てられた固有の義務を持っています。仕事を遂行するときには、すべての指が一斉に調和して働きます。あるとき、五本の手の指の間で、どの指が偉大かということについて口論が起きました。親指は、「私がいなければどんな仕事も遂行するのは不可能だ。だから偉大なのは私だ」と主張しました。すると、人差し指が微笑んで言いました。「いいですか、親指さん！ 私の支えなしにあなたはどのようにして仕事ができるでしょう？それに、私は人を見分けて指差す者として用いられています。ですから、私のほうがあなたより偉大なのですよ」。中指が割り込んで言いました。「あなた方のおっしゃることは無意味です。私はすべての指の中で一番背が高いのです。一方にあなた方二本の指、もう一方に別の二本の指がいて、私の補佐官として働いています。ですから、私が一番偉大

なのです」。すると薬指が言いました。「私はあなた方の無知を笑いたくなります。あなた方は、人々が私をダイヤモンドやエメラルドやトパーズなどの貴重な宝石の付いた金の指輪で飾ることを知らないのですか？それゆえ、私はあなた方の王なのです」。最後に小指が言いました。「誰かに教訓を与えて罪を罰するとき、私はいつでも前から先導しています。ですから、私が皆さんのリーダーであり、皆さんは私に従わなければなりません」。このようにして、指たちがお互いの間で口論していたとき、ハートが仲裁に入って言いました。「ああ、無知な皆さん！ 皆さんはそれぞれ、他の指と同じくらい重要なのですよ。人間は、皆さんの中に一体性と調和がなかったら、どんな仕事も成し遂げることはできません。事実、皆さんは人間の五つの生気のような五大価値[真理・正義・平安・愛・非暴力]を象徴しているのです」。この叡智の言葉を聞いて、五本の指は自分たちの過ちを悟り、恥じ入って頭を垂れました。深く探求すれば、ハートがすべての中で最も偉大であることは明らかです。体、心[マインド]、知性は、単なる道具にすぎません。ですから、人は全力を尽くしてハートの忠告に従うべきなのです。すべては一つであり、どの人も等しく重要であることを理解しなさい。あなた一人が大変重要なのだと考えて、利己的になってはいけません。あなたの貴重な時間を無益な議論で浪費してはいけません。すべての人に友好的でありなさい。そして、人生という挑戦に一体性と調和を持って立ち向かいなさい。

学生諸君！ 皆さんは理想的な態度で生活を送らなければなりません。実際、すべての理想は皆さんの中に隠れています。それらの理想は書物から学べるものではありません。「私」という原理は万人に共通です。もし誰かが「サイ ババというのはどなたですか？」と尋ねるなら、私は「私です」と答えます。もし誰かが「副学長はどなたです

か？」と尋ねるなら、副学長は「私です」と答えるでしょう。「私」というたった一つの文字がアートマの原理を表しているのです。ヴェーダは、「エーカメーヴァ アドヴィッティーヤム ブランマー」(神は唯一無二である)と明言しました。真の霊性は本当の自分〔真我〕を知ることにあります。けれども、あなたは自分を肉体と同一視しているために、本当の自分を知ることができずにいます。体が自分だという思い込みはエゴを生みます。エゴのある人は実在を知ることができません。あなたの幸福と他の人々の幸福は、あなたが「すべては一つ」という揺るぎない信念を持ったとき、必ず手に入ります。それほどの一体性の精神を育てなさい。それほどの一体性を育てないかぎり、あなたの中に神性が顕現するのを期待することはできません。

みんなで共に行動しましょう、
みんなで共に成長しましょう
みんなで団結し、
知識を共に分かち合いましょう
友愛と調和の精神を持って
共に生きましょう

教科書を人と共有することさえしない学生たちがいます。それほど利己的で偏狭な心を持っていて、どうして幸福を手に入れることができるでしょう？皆さんは全員で団結して立ち上がるべきです。一体性があるところには至福があります。

愛の化身たちよ！あなたが学ばなければならぬことは一つだけです。愛を育てなさい。同一の愛の原理が、あなたの中に、私の中に、万人の中に存在しています。私は他の人々の中に愛しか見ません。ですから、私にとって、すべての人は1つです。皆さんもそれほどの愛と平等の気持ちを培うべきです。すべては一つ、すべての人に等しくありなさい。これが、今日皆さんが学ばな

ればならないことです。

愛の化身たちよ！世俗の知識を習得すると同時に、一つという原理を理解するよう努力しなさい。そうして初めて、あなたは一体性と調和を成し遂げることができます。この薔薇の花を例にとりましょう。薔薇にはたくさんの花びらがあります。同様に、私たちのハートは花に、美德は花びらに例えられます。薔薇の花びらは翌日までにしおれて散ってしまうかもしれませんが、ハートという花は永遠に新鮮さを保ちます。これは一つという原理を象徴しています。人々は祝福を祈って九つの惑星(ナヴァグラハ／九曜)[太陽・月・火星・水星・木星・金星・土星・ラーフ・ケートゥ]を礼拝します。皆さんは九つの惑星の中に完全な一体性と調和があるのを観測したことがあるかもしれません。(バガヴァンは御手を振り動かして九つの宝石の付いた金の指輪を物質化なさいました。)ここにナヴァラトナ(九つの宝石)[ルビー・真珠・赤珊瑚・エメラルド・イエローサファイヤ・ダイヤモンド・ブルーサファイヤ・ヘソナイト・猫目石]の指輪が見えますね。この指輪を身につける人は誰であれ、どこへ行こうとも、ナヴァグラハ[九つの惑星]によって守護されることでしょう。

一体性を育てなさい。勇気を持って、人生の浮き沈みに立ち向かうために必要な力を育てなさい。私はあまり多く皆さんの時間を取りたくありません。ここで学んだことを、何であれ、あなたのハートに刻みつけなさい。そうして初めて、皆さんは平安を手に入れ、皆さんの教養は意義あるものとなるでしょう。

愛の化身たちよ！私の愛と祝福を皆さん全員に降り注ぎます。常に団結し、至福の中で自分の時間を過ごしなさい。両親を幸せにしなさい。あなたの体は両親によってあなたに与えられました。ですから、まずその贈り物を与えてくれた両親に

感謝を示しなさい。そうしてこそ、あなたは人生に

おいて成就を手に入れることができるのです。

2005年8月17日の御講話
世界教育者大会

サイ教

イスラム教徒がアッラーと崇める者

キリスト教徒がエホバと崇める者

ヴィシュヌ派がプッラーブジャ アクシャと崇める者

シヴァ派がシャンブーと崇める者

その者は、彼らの祈りに応え

彼らがどこにしようとも

皆に健康と繁栄と幸福を授ける

その者は一なる神、全人類の神

インドは、古代より、アートマのメッセージや、平等観と喜びを得て確保する方法を伝えてきました。インドは何世紀にもわたって世界の師として際立っていました。インドが自国の民に伝えてきた祈りは、ローカー サマスター スキノー バヴァントゥ（世界の皆が幸せでありますように）というものです。これは遠い昔からのヴェーダ思想の極地です。これほど健全な理想を広め、育んだのは、この国の支配者たちであり、民衆を導いた賢者やヨーギ(神を自分の中心に据える人々)たちであり、霊的な努力の空気の中で代々子供を育ててきた貞淑な母親たちでした。

国の歴史の変動のなかで人々が圧力や対抗圧力にさらされたとき、これらの理想は後退しました。信仰の抽象観念は、有形の姿をとり、同一視可能な特定の名と姿へと帰結しました。それぞれの新しい姿勢や傾向、新しい具象化が、特別な宗派となり、あらゆる理論は殻に閉じこもりました。

インドの信仰の新しい宗派とグループの成長

このようにして、一つのヴェーダの宗教が親となり、複数の信仰の宗派とグループが生まれました。たとえば、ガーナーパーティヤ(ガナパティの概念を中心に据える一派)や、シャークテーヤ(神の表れとしての宇宙エネルギーの概念を中心に据える一派)、ソーウラ(霊的達成の源であり、支えであり、行き着く先である太陽を中心に据え

一人ひとりが、自分の宗教の開祖が提起した理想に生き、貪欲や憎しみに影響されずにいさえすれば、世界は人間にとって、もっと幸せで、もっと平和な住みかになるでしょう。

る一派)、チャールヴァカ(喜びと物質的繁栄の概念を中心に置く一派)、ヴィーラシャイヴァ(すべての存在の内なる動機であるシヴァ神を中心に据える一派)などです。これらの宗派の一つひとつ、そしてそのそばに並ぶさらに多くの派が、それぞれ独自の礼拝の儀式や様式、霊的達成における独自の優先順位、個人と物質世界と神についての独自の教義を練り上げました。

これらの規定や様式のねらいは、どれにおいても、心を浄化することです。それらは、高い道徳的美徳の実践を強調しています。しかし、これはしだいに無視されて、人々は外的なものに従うようになり、外側の清浄を重視しました。個人的な富や権力を増大させたいという渴望が、どの宗派、信仰、宗教も頑固で無味乾燥したものにしてしまいました。ですから、今、すべての信仰の内にある源泉、外的な儀式や祭式を豊かなものにする源泉を発見することが、大いに必要とされているのです。静寂のうちに、わずかであれ学ぶなら、道徳的な熱意と、霊的な胸躍る体験という底流が明らかになるでしょう。

ただ一つのカースト、 人間というカーストがあるのみ

一般的に、宗教は「マタ」といい、心は「マティ」といいます。この二つを一つにすると、「宗教」[マタ]は、「心」[マティ]を整えること、強くすることに第一に従事する、あるいは、従事すべきであると

言えます。あらゆる教義の目的、ねらい、鍵、神髄は、まさしく、個々人の解脱、そして、個々人が一部となっている社会の幸福を保証するために、人間の心を昇華することです。この第一の必要の周囲に原則と実践が集まり、その結果として、さまざまな信条がもたらされます。

宗教は人のハートに聖なる理想を植えようとしていますが、人はそれが芽を出して成長することを許しません。権力を得たい、競争に勝ちたいという利己的な欲望は、ほとんどの場合、宗教を拷問と迫害の道具として使うようにと人をそそのかしてきました。宗教は、人類を共に尽力することへと結びつける代わりに、憎しみと狂信によって導かれる、塀を巡らした組織になっています。

このように、各宗教は自分の富や権力を増大させたいという欲にまみれた陣営となって、人を他の宗教から脱会させて自分のところに入れようとし、かつ、自分のところから脱会しないよう守りを固めているのです。そのせいで、宗教は混沌と対立の根源だと非難されているのです。他の数ある生活の分野では大きな進歩を遂げているにもかかわらず、世界の多くの地域では、今も宗教的な敵対意識が燃え立っています。

この事態の根本原因は宗教ではない、ということ強調しなければなりません。こうした派閥間の闘争と狂信的な憎悪は、野放しになっているエゴのせいです。宗教はまさに、この悪しき傾向を破壊することを目指しているのです。ですから、宗教は非難されるのではなく、支持されなければなりません。非難されるべきは、自分と同じ意見でない人や、宇宙を動かしている神秘の力について見解が異なる人を嫌う、心の狭い、ゆがんだ態度です。宗教に関する争いや対立は、無知と強欲というへどろの中で生まれます。人間家族は一つで

あり、不可分の単一体である、という真実が見えないとき、人々は暗闇の中を手探りし、未知のものに触れることを恐れています。

愛を育むことだけが、人に真理を納得させることができます。その真理とは、カーストは一つ、それは人類というカースト、宗教は一つ、それは愛という宗教、ということです。暴力や愛を軽蔑することを掲げている宗教はないのですから、カオスを宗教のせいにするのは間違っています。

私たちが体験している多様性は 真の様相ではない

信奉者を引き寄せる目的で、何かの宗教をけなすキャンペーンをしたり、何かの宗教を誇張して宣伝したりすることも勧められません。一人ひとりが、自分の宗教の開祖が提起した理想に生き、貪欲や憎しみに影響されずにいさえすれば、世界は人間にとって、もっと幸せで、もっと平和な住みかになるでしょう。

ヒンドゥー(インド人)の宗教は、全創造物の一つであるということを強調し、私たちが経験している多様性は真の様相ではないと宣言しています。けれども、その一元への信心は、この上なく澄み切った心だけが覚えるものであるために、宗教はほどなく二元性を据えるようになり、さらには、全体が有しているあらゆる側面を神格化して、多というものさえ据えるようになりました。こうした特徴の中で最も広まっているのが、一なる神の側面であるシヴァ神とヴィシュヌ神に集中を傾ける、シヴァ派とヴィシュヌ派の信仰です。多様な視点へと分裂していくこうしたプロセスは、主な宗教のどれにおいても起こりました。

イスラム教にはシーア派とスンニ派があります。キリスト教にはカトリックとプロテスタントがあります。しかし、いくら溝が深くとも、神を否定する宗派はなく、暴力や虚偽を称賛する宗派はありません。

あなたが外側の何かから喜びを求めるとき、それよりもはるかに大きな喜びがあなたの内側の意識の中で待っている、ということを書いてお出しなさい。

名前は違うかもしれませんが。強調している面は違うかもしれませんが。けれども、全能の神は、絶対者、永遠なる者と称されています。用語は違うかもしれませんが、概念は変わりません。神はアッラーと呼ばれるかもしれませんが。祈りはナマーズと呼ばれるかもしれませんが。聖職者はカージーと呼ばれるかもしれませんが、学者はムッラフと呼ばれるかもしれませんが。聖書は聖コーランという形をとるかもしれませんが。しかし、どの場合でも、根底に流れる活力は愛、万物に対する万物の愛です。開祖たちは、つねに、すべての生命の一元と、単なる人間性から神性の高みへと向かう人間の進歩の歩みを視野に入れていました。

シャンカラチャーリヤのアドワイタ哲学

ヴェーダ哲学の一学派を創設し、その学派から恩恵を得るための霊性修行の道を敷いた最初のヴェーダの解説者は、ケーララ州で生まれたシャンカラチャーリヤです。そのとても短い一生の間に、シャンカラは論理と直観の確固たる基盤の上に、真理を築きました。それは、一なる神がいるだけである、それ以外はすべてその一なる実在の現れである、というものです。これが、「不二」すなわち「アドワイタ」の哲学[不二一元論]という信仰です。それは、人の本質と神を、完全に一致するものとして説明しています。ヴェーダの格言である、「エーコーハム バフッスヤム」(私は一つ、私は多となろう)、「イーシュワラ サルヴァ ブーターナム」(神は万物に内在している)、「イーシャーヴァースヤム イダム サルヴァム」(このすべては

人間の聖なる義務は、すべての生き物の中に住むアートマン（神霊／アートマ／真我）をつねに意識していることです。これは、人に人間の持つ万物との親密さを自覚させます。

神に包まれ、神が浸透している)は、どれも、シャンカラーチャーリヤの理知によって啓発された、明白な真理です。

自分の源に帰融することが最終的な運命

一元論は、シャンカラーチャーリヤがヴェーダの聖句を基に提起したものであり、大多数の人にとっては、自分の中にある熱望を満足させるにはシンプルすぎる解決策でした。人々は自分の中に、礼拝したい、高次の力に身を捧げたい、という切望を持っていたのです。人々は、自分に内在する実在がその唯一無二のものである、という真実を理解することができませんでした。人々の熱情と行動は、信愛という修行によって昇華される必要がありました。そのため、ラーマヌジャチャーリヤ[タミルナードゥ州の哲学者]が、新しい観点からヴェーダの聖句と宗教の経典に注釈をつけました。これはアドワイタ(不二一元論)に特別な見解をもたらしました。そのため、それは「ヴィシシタ(特別な) アドワイタ(不二一元論)」「条件付不二一元論と称されているもの」と呼ばれました。この信愛の道は、人が神へと帰融することを可能にするために敷かれたものです。

その目的は、川が知り、それを目指して川が日々尽力している帰融です。海の水は太陽によって上昇して空の雲となり、雲はその水を雨にして再び地上に降らせ、雨は海へと戻るために小川や支流の川となって、多くの渓谷を流れて

ていきます。自分がそこから姿を得た源に帰融することが、その最終的な運命です。川は圧倒的な愛の情念を持っています。それこそが、川が川に愛されるものに到達するまで、川に斜面を下らせているのです。その到達地点では、愛するもの、愛されるもの、愛——この三つすべてが、一つの輝ける忘我の法悦に融合します。

プレーマ(最高の愛)は神への執心であり、それは何かはその質を損なったり、深さを減らしたりすることを許しません。神は神ゆえにバクタ(信者)に愛されるのであり、神に付きもののご利益や祝福のために愛されるものではありません。それは自発的で、持続的で、崇高なものであり、鏡の前にいる子供が鏡に映った自分の悪戯や仕草を喜んでいるのに喩えられます。

己の個別性が消滅するまで、すっかり全託することも、ほとんどの求道者には手の届かないことです。砂糖が砂糖を味わうことはできません。あなたは蟻にならなければなりません。そうすれば、砂糖の甘さを味わうことができます。マドゥヴァーチャーリヤ[二元論の唱道者]は、この人間の切望をかなえようとしていました。マドゥヴァーチャーリヤは、ジーヴァ(個々の魂)は普遍なる者からずっと離れたままであり、融合はあり得ないと断言しました。

アドワイタ[不二一元論]では、理知の光がパッと輝くと、存在しているのはアートマン(神)のみであること、それ以外の現れはすべてまやかしかであることが、一瞬にして明らかになります。ヴィシシタアドワイタ[特別な不二一元論/条件付不二一元論]は、川は海のなくてはならない一部分であると断定しています。ドワイタ[二元論]は、願望成就の神の恩寵を引き出すには、崇拝と礼拝から得られる喜びで十分であると指摘します。

あらゆる賢者が敷いた道は

どれも同じ目的地へとつながっている

他の賢者たちも、同じ目的地へと向かう道を敷きました。彼らは、宇宙は神のものだということ、そして、人間はいくらか神の宝を集めたいとか、着服したいなどと欲すべきではないということを告げました。武勇と警戒心を養うことによって、信愛の苗木を、怠惰、疑念、狂信という害虫から守らなければならないと、彼らは助言しました。

主な宗教のうちの一つについて言及しましょう。それは仏教についてです。仏陀は、人間の生につきまとう苦しみについてたいそう思い悩んでいたため、人の心と理知の行動を調べて、それらを矯正する修行を見出しました。仏陀は、人を欲望の渦へと引き込む心の気まぐれな動きを分析しました。仏陀は、理性の傾向も分析し、偏見が根付く領域を突き止めました。そして、何にもまして、仏陀は、ダルマへの全託、慈悲への全託、そして、ブッダ(悟りを開いた者の総称)への全託を説きました。

マハーヴィーラが全インドに及ぶ運動を展開させた宗教であるジャイナ教は、ジナ(五感を征服した英雄/勝利者)、熱情、そして、理知の戦略をこの上なく称賛します。マハーヴィーラは、各人の地位と職業に見合った義務を確固たる信仰と熱意を持って遂行するよう皆に呼びかけました。マハーヴィーラは、無生物も生物も、すべてはその存在自体が聖なるものであり、悟りへの道を歩む巡礼者にほかならないと宣言しました。

「サイ教」はすべての信仰のエッセンス

パールシー(ペルシャ起源)の宗教であるゾロアスター教(拝火教)は、ゾロアスターによって創始されました。ゾロアスターは、邪悪な考えや傾向を灰にすることができるよう、人間はつねに自分の意識の中に英知の火を燃やしているべきであると望みました。その火は、すべての思考と言

これらの異なるすべての信仰の成立と伝道の背後にある動機は同じです。……分断や妨害や破壊を意図する者は誰もいませんでした。彼らは、善をなそう、善を見よう、善であろうとしました。

業と行為に、美德と活力の光を吹き込まなければなりません。その火は、世俗的な欲望の一切を燃やして滅ぼし、人が自由という天国に入れるよう清めなければなりません。礼拝、瞑想、そして、無私の奉仕は、悟りの夜明けに不可欠なものです。

サイ教[サイの宗教/サイ ババの説く教え]は、もし人を神に結びつけるという文字通りの意味での宗教という名が受け入れられるならば、イスラム教やキリスト教やユダヤ教といった宗教を含む、すべての信仰と宗教のエッセンスです。これらの異なるすべての信仰の成立と伝道の背後にある動機は同じです。開祖と伝統者たちは皆、愛に満ちた英知の人でした。彼らの目的地と目的は同じでした。分断や妨害や破壊を意図する者は誰もいませんでした。彼らは、善をなそう、善を見よう、善であろうとしました。彼らは、情念や熱情を訓練すること、衝動と本能を教育すること、そして、理性の働きを人と社会に有益な道へと導くことに努めました。彼らは、欲望や執着、野心や大志の繁殖地である心を清めて、正しく方向づけなければならない、ということを知っていました。

家庭が和のある生活の中心となるように

サイは、こうした修行を実践することは、一つの哲学の学派の学説を盲目的に信じることよりも、ずっと必要なことだと考えています。自分が説いていることを前もって実践していないかぎり、他人

に助言する権利はありません。まずは、あなた自身の家で家族の間に愛が君臨するようにしなさい。家庭が、和のある生活、思いやりのある理解、相互の信頼の中心になるようにしなさい。

人間の聖なる義務は、すべての生き物の中に住むアートマン(神霊／アートマ／真我)をつねに意識していることです。これは、人に人間の持つ万物との親密さを自覚させます。これは、人は兄弟であり神は父であることの基盤です。エゴという悪徳、貪欲という邪悪、妬みという毒を取り除きなさい。

あなたが外側の何かから喜びを求めるとき、それよりもはるかに大きな喜びがあなたの内側の意識の中で待っている、ということを出しなさい。もしあなたが、あなたの外側の誰か、あるいは、何かを恐れているならば、その恐れはあなた自身の心の中で生まれ、かき立てられ、大きくなるということ、そして、あなたはその恐れを否定することによって恐れを克服することができる、ということを出しなさい。恐れが霊性の求道者の道に立ちだかることなどどうやってできるでしょう？ 恐れはどんな影にも隠れることはできず、自分のハートに神を有するサーダカ(霊性の求道者／霊性修行者)を苦しめることはできません。

全能の神を信じることは、サーダカが身につけることのできる、決して射抜かれることのない甲冑です。そして、自覚している、いないにかかわらず、どの国の人もサーダカです。不動であり、揺らぐことなく、まっすぐに進み、絶望することなく理想を固守しなさい。神が憐れむまで祈りなさい。もしあなたが期待しているときに神が恩寵の雨を注いでくれなくても、悲しんでそっぽを向いてはなりません。

ある宗教が自らの影響を拡大したいと思うとき、他の宗教を中傷し、自身の卓越性を誇張するという手段に出ます。そして、虚栄と宣伝が実践と信仰よりも重要になってしまいます。一方、サイは、それぞれの宗教の信者が自分の宗教のすばらしいところを信じる心を育み、自ら熱心に実践することによって、それらの正当性を認識することを望んでいます。それが、サイ教であり、すべての宗教を養い育て、すべての宗教に共通する偉大さを強調する宗教です。正々堂々と、喜びを持って、この宗教を掲げなさい。

1976年10月1日の御講話



sathyasai.org